

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年6月26日

【事業年度】 第4期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

【会社名】 株式会社池田泉州ホールディングス

【英訳名】 Senshu Ikeda Holdings, Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 藤田 博 久

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市北区茶屋町18番14号

【電話番号】 大阪(06)4802局0181番(代表)

【事務連絡者氏名】 企画部長 前 野 博 生

【最寄りの連絡場所】 大阪府大阪市北区茶屋町18番14号
株式会社池田泉州ホールディングス 企画部

【電話番号】 大阪(06)4802局0013番

【事務連絡者氏名】 企画部長 前 野 博 生

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 当連結会計年度の前3連結会計年度及び当連結会計年度に係る次に掲げる主要な経営指標等の推移

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
		(自 平成21年 4月1日 至 平成22年 3月31日)	(自 平成22年 4月1日 至 平成23年 3月31日)	(自 平成23年 4月1日 至 平成24年 3月31日)	(自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日)
連結経常収益	百万円	118,332	117,255	115,952	111,558
連結経常利益	百万円	6,057	7,532	10,905	12,806
連結当期純利益 (は連結当期純損失)	百万円	2,845	7,690	3,810	10,102
連結包括利益	百万円		7,977	4,995	30,132
連結純資産額	百万円	174,276	176,684	163,311	185,389
連結総資産額	百万円	4,977,656	4,881,152	4,992,667	4,994,458
1株当たり純資産額	円	97.22	99.07	489.26	591.97
1株当たり当期純利益金額 (は1株当たり 当期純損失金額)	円	5.47	4.39	7.43	35.80
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	円		4.39	7.43	35.77
自己資本比率	%	3.48	3.59	3.24	3.53
連結自己資本利益率	%	1.87	4.40	2.25	5.96
連結株価収益率	倍		25.74	77.70	14.80
営業活動による キャッシュ・フロー	百万円	183,543	114,068	116,999	77,395
投資活動による キャッシュ・フロー	百万円	183,269	140,156	124,263	58,346
財務活動による キャッシュ・フロー	百万円	10,065	9,212	3,243	16,877
現金及び現金同等物の 期末残高	百万円	105,897	141,335	130,996	95,361
従業員数 [外、平均臨時従業員数]	人	3,118 [1,436]	3,134 [1,400]	3,078 [1,279]	3,012 [1,200]

- (注) 1 当社は、平成21年10月1日に株式会社池田銀行(以下「池田銀行」といいます。)と株式会社泉州銀行(以下「泉州銀行」といいます。)が経営統合し、両行を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。このため、平成20年度に係る記載はしてありません。
- 2 当社及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、主として税抜方式によっております。
- 3 当社は、平成24年8月1日に、普通株式、第一種優先株式及び第二種優先株式について、それぞれ、5株を1株の割合で併合いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
- 4 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額(又は当期純損失金額)」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」(以下、「1株当たり情報」という。)の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
- また、これら1株当たり情報の算定上の基礎は、「第5 経理の状況」中、1「(1) 連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
- 5 平成21年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在しますが、1株当たり当期純損失であるため、記載してありません。
- 6 自己資本比率は、(期末純資産の部合計 - 期末新株予約権 - 期末少数株主持分)を期末資産の部の合計で除して算出しております。
- 7 平成21年度の連結株価収益率については、連結当期純損失が計上されているので記載してありません。
- 8 従業員数には嘱託及び臨時従業員の平均人員数を[]内に外数で記載しております。

(2) 当社の当事業年度の前3事業年度及び当事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次		第1期	第2期	第3期	第4期
決算年月		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
営業収益	百万円	6,971	6,793	7,206	6,434
経常利益	百万円	5,944	5,806	6,340	5,664
当期純利益	百万円	5,955	5,802	6,334	5,649
資本金	百万円	72,311	72,311	72,311	72,311
発行済株式総数	千株	普通株式 1,192,293	普通株式 1,192,293	普通株式 1,192,293	普通株式 238,458
		第一種優先株式 111,000	第一種優先株式 111,000	第一種優先株式 74,000	第一種優先株式 7,400
		第二種優先株式 115,625	第二種優先株式 115,625	第二種優先株式 115,625	第二種優先株式 23,125
純資産額	百万円	199,478	199,500	187,648	177,869
総資産額	百万円	199,605	199,599	189,697	190,891
1株当たり純資産額	円	119.11	119.23	597.80	597.77
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	円 (円)	普通株式 2.70 ()	普通株式 3.00 ()	普通株式 3.00 ()	普通株式 15.00 ()
		第一種優先株式 196を18.5で 除した額 ()	第一種優先株式 196を18.5で 除した額 ()	第一種優先株式 196を18.5で 除した額 ()	第一種優先株式 980を18.5で 除した額 ()
		第二種優先株式 204.5を18.5で 除した額 ()	第二種優先株式 204を18.5で 除した額 ()	第二種優先株式 204を18.5で 除した額 ()	第二種優先株式 1,020を18.5で 除した額 ()
1株当たり当期純利益金額	円	3.54	2.81	18.14	16.90
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金額	円		2.81	18.13	16.89
自己資本比率	%	99.93	99.94	98.88	93.14
自己資本利益率	%	3.41	2.90	3.27	3.09
株価収益率	倍	48.02	40.21	31.76	31.36
配当性向	%	76.27	106.76	82.87	88.75
従業員数	人	14	9	9	3

- (注) 1 当社は、平成21年10月1日に池田銀行と泉州銀行が経営統合し、両行を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。このため、平成21年3月に係る記載はしていません。
- 2 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 3 当社は、平成24年8月1日に、普通株式、第一種優先株式及び第二種優先株式について、それぞれ、5株を1株の割合で併合いたしました。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
- 4 「1株当たり純資産額」、「1株当たり当期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額」(以下、「1株当たり情報」という。)の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。
- また、これら1株当たり情報の算定上の基礎は、「第5 経理の状況」中、2「(1)財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
- 5 第1期(平成22年3月)の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
- 6 自己資本比率は、(期末純資産の部合計 - 期末新株予約権)を期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【沿革】

- 平成21年5月25日 池田銀行及び泉州銀行は、銀行法上の認可、並びに、両行の定時株主総会、池田銀行の普通株式の株主による種類株主総会、池田銀行の第一種優先株式の株主による種類株主総会及び池田銀行の第二種優先株式の株主による種類株主総会の承認を前提として、取締役会において承認の上、「株式移転計画」を作成し、両行の経営統合に関する「経営統合契約書」を締結致しました。
- 平成21年6月16日 池田銀行の第一種優先株式の株主による種類株主総会において議決権を行使することができる株主の全員から書面による同意の意思表示を得たので、会社法第325条及び第319条第1項により、両行が共同で株式移転の方法により当社を設立し、両行がその完全子会社となることについて、同種類株主総会の決議があったものとみなされました。
- 平成21年6月25日 池田銀行の第二種優先株式の株主による種類株主総会において議決権を行使することができる株主の全員から書面による同意の意思表示を得たので、会社法第325条及び第319条第1項により、両行が共同で株式移転の方法により当社を設立し、両行がその完全子会社となることについて、同種類株主総会の決議があったものとみなされました。
- 平成21年6月26日 池田銀行及び泉州銀行の定時株主総会並びに池田銀行の普通株式の株主による種類株主総会において、両行が共同で株式移転の方法により当社を設立し、両行がその完全子会社となることについてそれぞれ決議致しました。
- 平成21年10月1日 池田銀行及び泉州銀行が株式移転の方法により当社を設立致しました。当社の普通株式を株式会社東京証券取引所及び株式会社大阪証券取引所に上場致しました。
- 平成22年1月13日 池田銀行及び泉州銀行の取締役会において、関係当局の認可を前提として、合併契約を締結することを決議し、両行は合併契約を締結致しました。また、当社の取締役会において、関係当局の認可を前提として、両行が合併することを承認する旨を決議致しました。
- 平成22年5月1日 当社の完全子会社である池田銀行と泉州銀行は、存続会社を池田銀行として合併し、商号を株式会社池田泉州銀行(以下「池田泉州銀行」という。)に変更しました。
- 平成24年1月4日 当社の完全子会社である池田泉州銀行は、合併後併存しておりました旧池田銀行、旧泉州銀行の基幹系システムを、旧池田銀行のシステムである「NTTデータ地銀共同センター」へ統合しました。

3 【事業の内容】

当社及び当社の関係会社は、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。そのため、事業の種類別の事業の内容を記載しております。

当社は、銀行、その他銀行法により子会社とすることのできる会社の経営管理及び付帯する業務を行っております。

当社及び当社の関係会社は、当社、子会社31社(うち連結子会社30社)及び関連会社3社(うち持分法適用関連会社3社)で構成され、銀行業務を中心にリース業務、信用保証業務、クレジットカード業務などの金融サービスを提供しております。

当社及び当社の関係会社の事業に係る位置づけは、次のとおりであります。

〔銀行業務〕

株式会社池田泉州銀行の本店及び支店133カ店、出張所5カ所において、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託及び登録業務等の受託等業務並びに附帯業務(代理業務、債務の保証、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務、証券仲介業務等)を行っております。また、子会社の池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社及び池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社において、貸出業務を行っております。

〔リース業務〕

子会社の池田泉州リース株式会社及び泉銀総合リース株式会社において、産業機械、工作機械、電子計算機・事務用機器等のリース業務を行っております。

〔信用保証業務〕

子会社の池田泉州信用保証株式会社及び近畿信用保証株式会社において、池田泉州銀行の住宅ローン等の保証業務を行っております。

〔クレジットカード業務〕

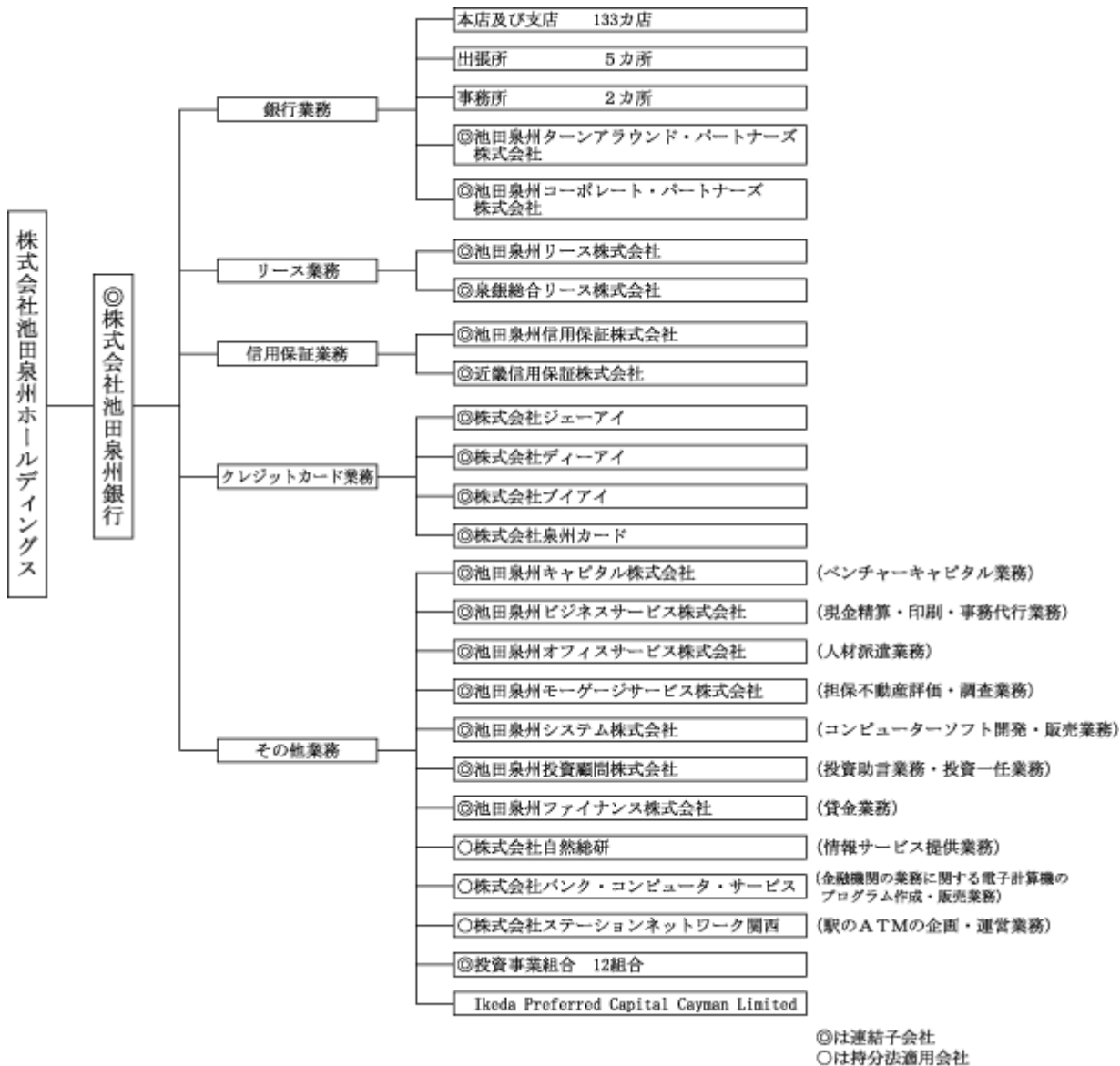
子会社の株式会社ジェーアイ、株式会社ディーアイ、株式会社ブイアイ及び株式会社泉州カードの4社において、クレジットカード業務等を行っております。

〔その他業務〕

上記の業務のほか、子会社・関連会社において、ベンチャーキャピタル業務、コンピューターソフト開発・販売業務、投資助言業務・投資一任業務、情報サービス提供業務、貸金業務を行っております。また、子会社・関連会社において、株式会社池田泉州銀行の従属業務(現金精算・印刷・事務代行業務、人材派遣業務、担保不動産評価・調査業務、駅のATMの企画・運営業務等)を行っております。

[事業系統図]

当社及び当社の関係会社の事業系統図は次のとおりであります。(平成25年3月31日現在)



- (注) 1 ハイ・ブレン株式会社とエス・アイ・ソフト株式会社は、平成24年11月1日をもって、存続会社をハイ・ブレン株式会社として合併し、社名を池田泉州システム株式会社に変更いたしました。
- 2 池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社、池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社、池田泉州キャピタル事業承継ファンド絆投資事業有限責任組合及び池田泉州キャピタル夢仕込ファンドO I投資事業有限責任組合は新規設立により、池田泉州ファイナンス株式会社は池田泉州キャピタル株式会社を会社分割(新設分割)したことにより、それぞれ当連結会計年度より連結子会社としております。
- 3 平成25年4月1日に、株式会社ブイアイは、株式会社池田泉州V Cに社名変更いたしました。また、平成25年7月1日に、株式会社ジェーアイと株式会社泉州カードは、株式会社ジェーアイを存続会社として合併し、株式会社池田泉州J C Bに社名変更する予定であります。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (被所有 割合) (%)	当社との関係内容				
					役員の 兼任等 (人)	資金 援助	営業上の取引	設備の 賃貸借	業務 提携
(連結子会社) 株式会社池田泉 州銀行	大阪市北区	50,710	銀行業務	100.00 () []	12 (12)		経営管理 預金取引関係 金銭貸借関係	当社へ建 物の一部 賃貸	
池田泉州ター ンアラウンド・ パートナーズ株 式会社	大阪市北区	2,025	銀行業務	100.00 (100.00) []	2 (2)				
池田泉州コー ポレート・パート ナーズ株式会社	大阪市北区	2,025	銀行業務	100.00 (100.00) []	2 (2)				
池田泉州リース 株式会社	大阪市中央区	50	リース業務	81.00 (81.00) []					
泉銀総合リース 株式会社	大阪府岸和田市	120	リース業務	95.60 (95.60) []	1 ()				
池田泉州信用保 証株式会社	大阪府池田市	180	信用保証業務	58.70 (58.70) []					
近畿信用保証株 式会社	大阪府貝塚市	100	信用保証業務	100.00 (100.00) []	1 ()				
株式会社ジェー アイ	大阪府池田市	30	クレジットカード 業務	86.95 (86.95) []	2 (1)				
株式会社ディー アイ	大阪府池田市	30	クレジットカード 業務	90.00 (90.00) []	2 (1)				
株式会社ブイア イ	大阪府池田市	40	クレジットカード 業務	100.00 (100.00) []	2 (1)				
株式会社泉州 カード	大阪府岸和田市	30	クレジットカード 業務	85.00 (85.00) []	1 ()				
池田泉州キャピ タル株式会社	大阪市北区	90	ベンチャーキャ ピタル業務	100.00 (100.00) []					
池田泉州ビジネ スサービス株式 会社	大阪市北区	30	現金精算・印刷 ・事務代行業務	100.00 (100.00) []	2 ()				
池田泉州オフィ スサービス株式 会社	大阪府池田市	20	人材派遣業務	100.00 (100.00) []	2 ()				
池田泉州モー ゲージサービス 株式会社	大阪府箕面市	20	担保不動産評価 ・調査業務	100.00 (100.00) []					
池田泉州システ ム株式会社	大阪市北区	50	コンピューター ソフト開発・販 売業務	63.10 (63.10) []	3 ()				
池田泉州投資顧 問株式会社	大阪市中央区	120	投資助言業務・ 投資一任業務	100.00 (100.00) []	1 ()				
池田泉州ファイ ナンス株式会社	大阪市北区	10	貸金業務	100.00 (100.00) []					
池銀キャピタル ニュービジネス ファンド1号投 資事業有限責任 組合	大阪市北区	300	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル ニュービジネス ファンド2号投 資事業有限責任 組合	大阪市北区	600	ベンチャー企業 への投資業務						

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (被所有 割合) (%)	当社との関係内容				
					役員の 兼任等 (人)	資金 援助	営業上の取引	設備の 賃貸借	業務 提携
池銀キャピタル ニュービジネス ファンド3号投資 事業有限責任 組合	大阪市北区	1,000	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル 夢仕込ファンド 2号投資事業有 限責任組合	大阪市北区	200	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル 夢仕込ファンド 3号投資事業有 限責任組合	大阪市北区	200	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル 夢仕込ファンド K G I 投資事業 組合	大阪市北区	100	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル 夢仕込ファンド D・I 投資事業 組合	大阪市北区	100	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル 夢仕込ファンド P C I 投資事業 有限責任組合	大阪市北区	100	ベンチャー企業 への投資業務						
池銀キャピタル 夢仕込ファンド K I 投資事業有 限責任組合	大阪市北区	100	ベンチャー企業 への投資業務						
池田泉州キャピ タル事業承継 ファンド絆投資 事業有限責任組 合	大阪市北区	1,000	ベンチャー企業 への投資業務						
池田泉州キャピ タル夢仕込ファ ンドO I 投資事 業有限責任組合	大阪市北区	100	ベンチャー企業 への投資業務						
J S 企業育成 ファンド投資事 業有限責任組合	東京都千代田区	400	投資事業有限責 任組合						
(持分法適用関連 会社)									
株式会社自然総 研	大阪府池田市	80	情報サービス提 供業務	15.00 (15.00) []	4 (3)				
株式会社バンク ・コンピュータ ・サービス	大阪府泉佐野市	400	金融機関の業務 に関する電子計 算機のプログラ ム作成・販売業 務	45.00 (45.00) []	1 ()				
株式会社ステー ションネット ワーク関西	大阪市北区	100	駅のA T Mの企 画・運営業務	40.00 (40.00) []	2 (1)				

- (注) 1 当社グループは、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。そのため、「主要な事業の内容」欄には、事業の種類を記載しております。
- 2 上記関係会社のうち、特定子会社に該当するのは、株式会社池田泉州銀行であります。
- 3 上記関係会社のうち、有価証券報告書又は有価証券届出書を提出している会社は、株式会社池田泉州銀行であります。
- 4 上記関係会社のうち、株式会社池田泉州銀行の経常収益(連結会社相互間の内部取引を除く)は、連結財務諸表の経常収益の100分の10を超えておりますが、有価証券報告書を提出しているため、主要な損益情報等の記載を省略しております。
- 5 「議決権の所有割合(被所有割合)」欄の()内は子会社による間接所有の割合(内書き)、[]内は「自己と出資、人事、資金、技術、取引等において緊密な関係があることにより自己の意思と同一の内容の議決権を行使すると認められる者」又は「自己の意思と同一の内容の議決権を行使することに同意している者」による所有割合(外書き)であります。
- 6 「当社との関係内容」の「役員の兼任等」欄の()内は、当社の役員(内書き)であります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社における従業員数

平成25年3月31日現在

	銀行業務	リース業務	信用保証業務	クレジット カード業務	その他業務	合計
従業員数(人)	2,714 [817]	37 [6]	33 [38]	36 [10]	192 [329]	3,012 [1,200]

- (注) 1 従業員数は、嘱託及び臨時従業員1,190人を含んでおりません。
 2 嘱託及び臨時従業員は、[]内に年間の平均人員を外書きで記載しております。
 3 当社グループは、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。そのため、事業の種類別の従業員数を記載しております。
 4 従業員数は、執行役員を含んでおりません。

(2) 当社の従業員数

平成25年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
3	56.1	35.7	7,106

- (注) 1 当社従業員は全員、池田泉州銀行の出向者であります。なお、上記のほかにも池田泉州銀行98人の兼務者が従事しております。
 2 当社グループは、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。なお、当社の従業員はすべてその他業務に属しております。
 3 平均勤続年数は、出向元での勤務年数を通算しております。
 4 平均年間給与は、3月末の当社従業員に対して支給された年間の給与、賞与及び基準外賃金を合計したものであります。
 5 当事業年度において、組織改編に伴う人員配置の見直しにより、従業員数が6名減少しております。
 6 当社は、嘱託及び臨時従業員を雇用しておりません。

(3) 労働組合の状況

当社には、労働組合はありません。また、当社グループには、池田泉州銀行職員組合と池田泉州銀行従業員組合の2つがあり、組合員数は池田泉州銀行職員組合2,285人、池田泉州銀行従業員組合1人です。双方の組合とも労使間においては特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

・業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、年前半、復興関連需要が官民両面で増加するもとで、国内需要が堅調となりましたが、その後は、海外経済の減速に伴い、輸出や鉱工業生産が減少し景気は弱含んで推移しました。

物価情勢につきましては、消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、7月以降、マイナスに転じることとなりました。

金融面につきましては、日本銀行による潤沢な資金供給が続くもとで、無担保コールレート（翌日物）は、概ね0.1%を下回る水準で推移しました。

また、日本国債利回り（10年物）は、春先以降、ギリシャ再選挙やスペインの金融システム問題を巡る不透明感の高まりから、再びリスク回避的な動きとなり、年内にかけて低下しました。その後、日本銀行がデフレ脱却に向け大胆な緩和策に動くとの期待感から更に低下し、3月末には、0.5%程度となりました。

株価につきましては、持続的な円高を背景に、秋口にかけて9,000円を割り込んで推移しましたが、新政権の発足を機に円高是正、株高の動きに転じ、3月末には、12,000円を超える水準に回復して取引を終えました。

当連結会計年度の経常収益は、前連結会計年度比43億94百万円減少して、1,115億58百万円となりました。また、当連結会計年度の経常費用は、前連結会計年度比62億95百万円減少して、987億52百万円となりました。この結果、経常利益は、前連結会計年度比19億1百万円増加し、128億6百万円となりました。また、当期純利益は、前連結会計年度比62億92百万円増加し、101億2百万円となりました。

セグメントの業績につきましては、当社グループの報告セグメントが銀行業のみであり、当社グループの業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

・キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末比356億34百万円減少して、953億61百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度比1,943億94百万円減少して、773億95百万円の支出となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度比1,826億9百万円増加して、583億46百万円の収入となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度比136億34百万円減少して、168億77百万円の支出となりました。

(1) 国内・国際業務部門別収支

当連結会計年度の資金運用収支は、国内業務部門では前連結会計年度比7.3%減少し、国際業務部門でも前連結会計年度比22.7%減少した結果、合計では前連結会計年度比8.6%、51億53百万円減少しました。

当連結会計年度の役務取引等収支は、国内業務部門では前連結会計年度比14.9%増加しましたが、国際業務部門では前連結会計年度比13.2%減少した結果、合計では前連結会計年度比14.7%、16億13百万円増加しました。

当連結会計年度のその他業務収支は、国内業務部門では前連結会計年度比40.8%増加しましたが、国際業務部門では前連結会計年度比25.4%減少した結果、合計では前連結会計年度比17.1%、19億2百万円減少しました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前連結会計年度	55,333	4,843	60,177
	当連結会計年度	51,282	3,742	55,024
うち資金運用収益	前連結会計年度	64,944	6,095	126 70,913
	当連結会計年度	59,967	4,519	103 64,383
うち資金調達費用	前連結会計年度	9,610	1,252	126 10,736
	当連結会計年度	8,684	777	103 9,358
役務取引等収支	前連結会計年度	10,912	68	10,980
	当連結会計年度	12,533	59	12,593
うち役務取引等収益	前連結会計年度	16,037	227	16,265
	当連結会計年度	17,698	202	17,900
うち役務取引等費用	前連結会計年度	5,124	159	5,284
	当連結会計年度	5,164	143	5,307
その他業務収支	前連結会計年度	1,403	9,751	11,154
	当連結会計年度	1,975	7,276	9,252
うちその他業務収益	前連結会計年度	7,895	10,237	18,132
	当連結会計年度	8,530	8,140	126 16,543
うちその他業務費用	前連結会計年度	6,491	485	6,977
	当連結会計年度	6,554	863	126 7,290

- (注) 1 国内業務部門は、当社及び連結子会社の円建取引であります。
2 国際業務部門は、連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
3 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前連結会計年度39百万円、当連結会計年度36百万円)を控除して表示しております。
4 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。
5 その他業務収益及びその他業務費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間に相殺される金融派生商品損益であります。

(2) 国内・国際業務部門別資金運用／調達状況

当連結会計年度の資金運用勘定平均残高は、国内業務部門では、有価証券が減少しましたが、貸出金並びにコールローン及び買入手形が増加したことから、前連結会計年度比1.7%増加しました。また、国際業務部門では、貸出金並びにコールローン及び買入手形が増加しましたが、有価証券運用が減少したことから、前連結会計年度比14.7%減少しました。この結果、資金運用勘定平均残高合計は、前連結会計年度比0.7%増加しました。

当連結会計年度の資金調達勘定平均残高は、国内業務部門では、預金並びに借入金が増加したことを中心に、前連結会計年度比1.7%増加しました。また、国際業務部門では、コールマネー及び売渡手形並びに債券貸借取引受入担保金を中心に、前連結会計年度比13.6%減少しました。この結果、資金調達勘定平均残高合計は、前連結会計年度比0.8%増加しました。

次に、当連結会計年度の資金運用利回りについては、国内業務部門では、主に貸出金利回り及び有価証券利回りを中心に、前連結会計年度比0.13%低下し、国際業務部門では、有価証券利回り並びにコールローン及び買入手形利回りを中心に、前連結会計年度比0.29%低下しました。この結果、資金運用利回り全体では、前連結会計年度比0.15%低下しました。

当連結会計年度の資金調達利回りについては、国内業務部門では、主に預金利回りを中心に、前連結会計年度比0.02%低下し、国際業務部門では、コールマネー及び売渡手形利回り並びに債券貸借取引受入担保金利回りを中心に、前連結会計年度比0.12%低下しました。この結果、資金調達利回り全体では、前連結会計年度比0.04%低下しました。

国内業務部門

種類	期別	平均残高	利息	利回り
		金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
資金運用勘定	前連結会計年度	(43,650) 4,488,477	(126) 64,944	1.44
	当連結会計年度	(42,928) 4,564,427	(103) 59,967	1.31
うち貸出金	前連結会計年度	3,425,124	58,411	1.70
	当連結会計年度	3,498,145	54,602	1.56
うち商品有価証券	前連結会計年度	96	0	0.30
	当連結会計年度	90	0	0.38
うち有価証券	前連結会計年度	977,806	6,300	0.64
	当連結会計年度	971,687	5,138	0.52
うちコールローン 及び買入手形	前連結会計年度	30,767	32	0.10
	当連結会計年度	43,656	47	0.10
うち買現先勘定	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち債券貸借取引 支払保証金	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち預け金	前連結会計年度	9,672	22	0.23
	当連結会計年度	6,634	17	0.25
資金調達勘定	前連結会計年度	4,424,814	9,610	0.21
	当連結会計年度	4,500,925	8,684	0.19
うち預金	前連結会計年度	4,333,348	7,895	0.18
	当連結会計年度	4,390,399	6,680	0.15
うち譲渡性預金	前連結会計年度	1,096	0	0.07
	当連結会計年度	962	0	0.00
うちコールマネー 及び売渡手形	前連結会計年度	1,040	1	0.12
	当連結会計年度	1,515	1	0.12
うち売現先勘定	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち債券貸借取引 受入担保金	前連結会計年度			
	当連結会計年度	19	0	0.11
うちコマースナル・ ペーパー	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち借入金	前連結会計年度	60,492	857	1.41
	当連結会計年度	72,772	937	1.28

(注) 1 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、銀行業以外の連結子会社については、半年毎の残高に基づく平均残高を利用しております。

2 国内業務部門は、当社及び連結子会社の円建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

3 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(前連結会計年度33,543百万円、当連結会計年度31,737百万円)を、資金調達勘定は、金銭の信託運用見合額の平均残高(前連結会計年度18,999百万円、当連結会計年度19,000百万円)及び利息(前連結会計年度39百万円、当連結会計年度36百万円)を、それぞれ控除して表示しております。

4 ()内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

国際業務部門

種類	期別	平均残高	利息	利回り
		金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
資金運用勘定	前連結会計年度	282,188	6,095	2.16
	当連結会計年度	240,594	4,519	1.87
うち貸出金	前連結会計年度	4,780	39	0.82
	当連結会計年度	11,037	98	0.88
うち商品有価証券	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち有価証券	前連結会計年度	272,426	5,989	2.19
	当連結会計年度	222,627	4,332	1.94
うちコールローン 及び買入手形	前連結会計年度	687	25	3.68
	当連結会計年度	2,664	33	1.27
うち買現先勘定	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち債券貸借取引 支払保証金	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち預け金	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
資金調達勘定	前連結会計年度	(43,650) 286,083	(126) 1,252	0.43
	当連結会計年度	(42,928) 247,053	(103) 777	0.31
うち預金	前連結会計年度	14,188	41	0.29
	当連結会計年度	21,169	88	0.41
うち譲渡性預金	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うちコールマネー 及び売渡手形	前連結会計年度	1,323	8	0.60
	当連結会計年度	20	0	0.25
うち売現先勘定	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち債券貸借取引 受入担保金	前連結会計年度	226,599	978	0.43
	当連結会計年度	181,605	554	0.30
うちコマース・ ペーパー	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち借入金	前連結会計年度			
	当連結会計年度	1,121	7	0.63

(注) 1 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、銀行業以外の連結子会社については、半年毎の残高に基づく平均残高を利用しております。

2 国際業務部門は、連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

3 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(前連結会計年度105百万円、当連結会計年度146百万円)を、控除して表示しております。

4 ()内は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息(内書き)であります。

5 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式(前月末T T仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式)により算出しております。

合計

種類	期別	平均残高	利息	利回り
		金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
資金運用勘定	前連結会計年度	4,727,014	70,913	1.50
	当連結会計年度	4,762,092	64,383	1.35
うち貸出金	前連結会計年度	3,429,904	58,450	1.70
	当連結会計年度	3,509,182	54,701	1.55
うち商品有価証券	前連結会計年度	96	0	0.30
	当連結会計年度	90	0	0.38
うち有価証券	前連結会計年度	1,250,232	12,290	0.98
	当連結会計年度	1,194,314	9,470	0.79
うちコールローン 及び買入手形	前連結会計年度	31,455	58	0.18
	当連結会計年度	46,320	81	0.17
うち買現先勘定	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち債券貸借取引 支払保証金	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち預け金	前連結会計年度	9,672	22	0.23
	当連結会計年度	6,634	17	0.25
資金調達勘定	前連結会計年度	4,667,246	10,736	0.23
	当連結会計年度	4,705,050	9,358	0.19
うち預金	前連結会計年度	4,347,536	7,937	0.18
	当連結会計年度	4,411,569	6,769	0.15
うち譲渡性預金	前連結会計年度	1,096	0	0.07
	当連結会計年度	962	0	0.00
うちコールマネー 及び売渡手形	前連結会計年度	2,364	9	0.39
	当連結会計年度	1,535	1	0.12
うち売現先勘定	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち債券貸借取引 受入担保金	前連結会計年度	226,599	978	0.43
	当連結会計年度	181,624	554	0.30
うちコマース・ ペーパー	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
うち借入金	前連結会計年度	60,492	857	1.41
	当連結会計年度	73,894	944	1.27

(注) 1 平均残高は、原則として日々の残高の平均に基づいて算出しておりますが、銀行業以外の連結子会社については、半年毎の残高に基づく平均残高を利用してあります。

2 資金運用勘定は、無利息預け金の平均残高(前連結会計年度33,648百万円、当連結会計年度31,883百万円)を、資金調達勘定は、金銭の信託運用見合額の平均残高(前連結会計年度18,999百万円、当連結会計年度19,000百万円)及び利息(前連結会計年度39百万円、当連結会計年度36百万円)を、それぞれ控除して表示しております。

3 国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の平均残高及び利息は、相殺して記載しております。

(3) 国内・国際業務部門別役務取引の状況

当連結会計年度の国内業務部門の役務取引等収益は、預金・貸出業務並びに投資信託・保険販売業務を中心に前連結会計年度比10.4%増加して、176億98百万円となり、役務取引等費用は、前連結会計年度比0.8%増加して、51億64百万円となりました。また、国際業務部門の役務取引等収益は2億2百万円となり、役務取引等費用は1億43百万円となりました。この結果、全体の役務取引等収益は、前連結会計年度比10.1%増加して、179億円となり、役務取引等費用は、前連結会計年度比0.4%増加して、53億7百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前連結会計年度	16,037	227	16,265
	当連結会計年度	17,698	202	17,900
うち預金・貸出業務	前連結会計年度	2,451		2,451
	当連結会計年度	2,540		2,540
うち為替業務	前連結会計年度	2,383	225	2,609
	当連結会計年度	2,213	201	2,414
うち証券関連業務	前連結会計年度	202		202
	当連結会計年度	178		178
うち代理業務	前連結会計年度	400		400
	当連結会計年度	367		367
うち保護預り・貸金庫業務	前連結会計年度	579		579
	当連結会計年度	572		572
うち保証業務	前連結会計年度	1,991	2	1,993
	当連結会計年度	1,911	1	1,912
うち投資信託・保険販売業務	前連結会計年度	5,998		5,998
	当連結会計年度	7,577		7,577
役務取引等費用	前連結会計年度	5,124	159	5,284
	当連結会計年度	5,164	143	5,307
うち為替業務	前連結会計年度	451	159	610
	当連結会計年度	441	143	585

(注) 1 国内業務部門は、当社及び連結子会社の円建取引であります。

2 国際業務部門は、連結子会社の外貨建取引であります。

(4) 国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前連結会計年度	4,377,303	13,150	4,390,453
	当連結会計年度	4,442,676	48,059	4,490,736
うち流動性預金	前連結会計年度	1,792,179		1,792,179
	当連結会計年度	1,879,124		1,879,124
うち定期性預金	前連結会計年度	2,549,468		2,549,468
	当連結会計年度	2,544,942		2,544,942
うちその他	前連結会計年度	35,654	13,150	48,805
	当連結会計年度	18,609	48,059	66,669
譲渡性預金	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
総合計	前連結会計年度	4,377,303	13,150	4,390,453
	当連結会計年度	4,442,676	48,059	4,490,736

(注) 1 国内業務部門は、当社及び連結子会社の円建取引であります。

2 国際業務部門は、連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

3 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

4 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

(5) 貸出金残高の状況

業種別貸出状況(未残・構成比)

業種別	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	3,516,142	100.00	3,578,225	100.00
製造業	314,976	8.96	329,622	9.21
農業, 林業	1,795	0.05	1,476	0.04
漁業	82	0.00	88	0.00
鉱業, 採石業, 砂利採取業	269	0.01	244	0.01
建設業	89,905	2.56	84,843	2.37
電気・ガス・熱供給・水道業	7,926	0.23	9,808	0.28
情報通信業	12,128	0.34	12,153	0.34
運輸業, 郵便業	72,763	2.07	78,449	2.19
卸売業, 小売業	207,860	5.91	215,184	6.01
金融業, 保険業	126,152	3.59	133,841	3.74
不動産業, 物品賃貸業	469,691	13.36	477,246	13.34
学術研究, 専門・技術サービス業	10,578	0.30	9,942	0.28
宿泊業, 飲食業	23,424	0.67	22,585	0.63
生活関連サービス業, 娯楽業	23,722	0.67	23,327	0.65
教育, 学習支援業	7,445	0.21	6,857	0.19
医療・福祉	33,430	0.95	33,057	0.92
その他のサービス	63,547	1.81	59,315	1.66
地方公共団体	212,541	6.04	243,665	6.81
その他	1,837,892	52.27	1,836,506	51.33
特別国際金融取引勘定分				
政府等				
金融機関				
その他				
合計	3,516,142		3,578,225	

(注) 「国内」とは、当社及び連結子会社であります。

外国政府等向け債権残高(国別)

前連結会計年度、当連結会計年度とも該当ありません。

(6) 国内・国際業務部門別有価証券の状況

有価証券残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
国債	前連結会計年度	398,381		398,381
	当連結会計年度	401,161		401,161
地方債	前連結会計年度	77,972		77,972
	当連結会計年度	56,333		56,333
短期社債	前連結会計年度			
	当連結会計年度			
社債	前連結会計年度	229,198		229,198
	当連結会計年度	229,218		229,218
株式	前連結会計年度	62,283		62,283
	当連結会計年度	76,074		76,074
その他の証券	前連結会計年度	148,419	283,710	432,129
	当連結会計年度	225,958	180,454	406,413
合計	前連結会計年度	916,255	283,710	1,199,965
	当連結会計年度	988,747	180,454	1,169,201

(注) 1 国内業務部門は、当社及び連結子会社の円建取引であります。

2 国際業務部門は、連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建外国証券は、国際業務部門に含めておりません。

3 「その他の証券」には、外国証券を含んでおります。

(自己資本比率の状況)

(参考)

自己資本比率は、銀行法第52条の25の規定に基づき、銀行持株会社が銀行持株会社及びその子会社の保有する資産等に照らしそれらの自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第20号。以下、「告示」という。)に定められた算式に基づき、連結ベースについて算出しております。

なお、当社は国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

連結自己資本比率(国内基準)

項目		平成24年3月31日 金額(百万円)	平成25年3月31日 金額(百万円)
基本的項目 (Tier 1)	資本金	72,311	72,311
	うち非累積的永久優先株 (注1)		
	新株式申込証拠金		
	資本剰余金	72,675	62,235
	利益剰余金	30,910	35,431
	自己株式()	1,944	1,350
	自己株式申込証拠金		
	社外流出予定額()	5,634	5,251
	その他有価証券の評価差損()		
	為替換算調整勘定		
	新株予約権	62	63
	連結子法人等の少数株主持分	1,136	8,820
	うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券		
	営業権相当額()		
	のれん相当額()		
	企業結合等により計上される無形固定資産相当額()		
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額()	515	489
	繰延税金資産の控除前の〔基本的項目〕計 (上記各項目の合計額)		
	繰延税金資産の控除金額()		
	計 (A)	169,002	171,771
補完的項目 (Tier 2)	うちステップ・アップ金利条項付の 優先出資証券 (注2)		
	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差 額の45%相当額		
	一般貸倒引当金	33,192	28,787
	負債性資本調達手段等	84,500	75,000
	うち永久劣後債務 (注3)	15,000	
	うち期限付劣後債務及び期限付優先株 (注4)	69,500	75,000
計	117,692	103,787	
うち自己資本への算入額 (B)	99,797	90,695	
控除項目	控除項目 (注5) (C)	1,334	1,333
自己資本額	(A) + (B) - (C) (D)	267,465	261,133
リスク・ アセット等	資産(オン・バランス)項目	2,285,349	2,349,301
	オフ・バランス取引等項目	36,638	39,525
	信用リスク・アセットの額 (E)	2,321,987	2,388,826
	オペレーショナル・リスク相当額に係る額 ((G) / 8%) (F)	125,573	122,482
	(参考)オペレーショナル・リスク相当額 (G)	10,045	9,798
計(E) + (F) (H)	2,447,561	2,511,308	
連結自己資本比率(国内基準) = D / H × 100(%)		10.92	10.39
(参考)Tier 1比率 = A / H × 100(%)		6.90	6.83

(注) 1 当社の資本金は株式種類毎に区分できないため、資本金のうち非累積的永久優先株の金額は記載しておりません。

- 告示第17条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。)であります。
- 告示第18条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。
 - 無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること
 - 一定の場合を除き、償還されないものであること
 - 業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること
 - 利払い義務の延期が認められるものであること
- 告示第18条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限定されております。
- 告示第20条第1項第1号から第6号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、及び第2号に規定するものに対する投資に相当する額が含まれております。

(資産の査定)

(参考)

資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(平成10年法律第132号)第6条に基づき、池田泉州銀行の貸借対照表の社債(当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。)、貸出金、外国為替、その他資産中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は賃貸借契約によるものに限る。)について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として次のとおり区分するものであります。

1 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいう。

2 危険債権

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいう。

3 要管理債権

要管理債権とは、3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権をいう。

4 正常債権

正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権をいう。

池田泉州銀行の資産の査定額

債権の区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
	金額(百万円)	金額(百万円)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	14,079	11,230
危険債権	43,209	42,789
要管理債権	7,452	11,814
正常債権	3,508,278	3,532,795

2 【生産、受注及び販売の状況】

「生産、受注及び販売の状況」は、銀行持株会社における業務の特殊性のため、該当する情報がないので記載しておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループの地盤とする大阪ベイエリアは、阪神港と3つの空港を有し、東京都に匹敵する人口と事業所が高密度に存在する全国有数の恵まれたマーケットです。

当社グループは、こうした「地域力（ポテンシャル）」を活かし、地域の活性化を促していくことが地元金融機関グループとして、私どもに与えられた責務であるとの認識の下、積極的に「地域力」を高める努力をし、結果として、当社グループも地域とともに成長していく「ビジネスモデル（地域密着型金融）」を推進してまいります。

このビジネスモデルを具体化するために、当社グループはグループ経営戦略として、「効率化の徹底」「アライアンスの推進」「競争力強化のための3つの独自戦略（成長戦略）」を掲げています。

「効率化の徹底」におきましては、業務プロセスの見直しによる重複業務の削減等、業務効率化に加え、事務体制や人員戦略を一体的に検討し、ローコストオペレーションを実現してまいります。

「アライアンスの推進」におきましては、独立系の金融機関ならではの系列・グループにとらわれない自由度の高い独自ネットワークを活かし、お客さまのニーズに合った高品質の商品・サービスを提供いたします。

「競争力強化のための3つの独自戦略（成長戦略）」では、「親切で新しい」をモットーに戦略3本部（アジアチャイナ本部・プライベートバンキング本部・先進テクノ本部）による以下のような取り組みを通じて、当社グループの独自戦略としての「地域第一主義」「独自の提案力」に更に磨きを掛けつつ、お客さまサービスの向上に努めてまいります。

(1) アジア・チャイナビジネスのサポート力強化

蘇州事務所で集積したニーズ・実績、独立系地銀ならではの自由で幅広いネットワークを活用して、アジアチャイナ全域におけるお客さまに対するサポート力を飛躍的に高めてまいります。

(2) プライベートバンキング業務の推進

高品質な専門家ネットワークにより付加価値の高いサービスを提供し、法人・個人を問わず、「プロが」「中長期的に」「幅広く」「オーダーメイドで」様々なニーズに対応いたします。

(3) 産学官連携推進と先進テクノ企業のサポート

関西主要大学・公的機関との緊密な産学官ネットワークを活用し、助成金応募先等の先進技術をもった企業の育成・サポートを行ってまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、以下の記載における将来に関する事項は、当連結会計年度の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 事業戦略に関するリスク

当社グループは、東京都に匹敵する人口と事業所が高密度に存在する大阪ベイエリアという全国有数の恵まれたマーケットを地盤とする当社グループの「地域力(ポテンシャル)」を活かし、その「地域力」を高めることで、当社グループも地域とともに成長していくビジネスモデルを推進しており、そのための経営の基本戦略として、業務効率化によるコスト削減や組織・人員の再配置等による「効率化の徹底」、外部との提携による当社グループの預り資産ビジネスの強化等の「アライアンスの推進」、「競争力強化のための3つの独自戦略(成長戦略)」を掲げております。また、成長戦略においては、アジア・チャイナ本部、先進テクノ本部、プライベートバンキング本部の戦略3本部を核として、それぞれにおいて、アジア・チャイナ全域におけるお客さまに対するサポート力の強化、企業オーナーの様々なニーズへの対応、先進技術をもった企業の育成・サポートといった取り組みを行っております。

しかしながら、企図した経営戦略や戦略本部の取組みが当初想定していた結果をもたらさない、また事業計画が達成できない等により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 優先株式の発行又は取得に関するリスク

当社は、第一種優先株式及び第二種優先株式を発行しており、左記以外にも第三種優先株式、第四種優先株式、第五種優先株式を発行することができる旨を定款で定めております。当社は、当社グループとしての最適な資本政策を常に検討しており、今後、必要に応じて優先株式を発行する場合又は優先株式を取得する場合には、当社グループの財政状態、分配可能額や当社の株価が影響を受ける可能性があります。

(3) 地域経済への依存のリスク

当社グループは、関西地区を主要な営業基盤としております。当社グループは、関西地区のうちの特定の地域又は特定の顧客へ過度に依存することがないように営業を行っておりますが、主要な営業地域の経済が悪化した場合には、取引先の業況悪化等を通じて信用リスクが増大し、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(4) 競争に関するリスク

当社グループの主要な営業基盤は、既存のメガバンクや他の地元金融機関に加え、近隣地銀の参入等もあり、今後一層の競争激化が予想されます。当社グループがこのような事業環境の影響を受け、計画している営業戦略が奏功しないこと等により、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 持株会社のリスク

当社が銀行子会社及び関連事業を営む子会社・関連会社から受け取る配当については、一定の状況下で、様々な規制等により、その金額が制限される場合があります。また、これら会社が十分な利益を計上することができず、当社に対して配当を支払えない状況が生じた場合には、当社は当社株主に対し配当を支払えなくなる可能性があります。

(6) 信用リスク

貸出先の財務状況悪化等に起因する信用リスクは当社グループが保有する主要なリスクであり、当社グループの不良債権は、景気動向や、不動産価格及び株価の変動、貸出先の経営状況等によっては増加する可能性があります。その結果、現時点の想定を上回る信用コストが発生した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7) 市場リスク

当社グループの市場関連業務においては、様々な金融商品での運用を行っており、金利・為替・株式等の相場変動の影響を受けます。これらのリスクに対しては、ヘッジ取引等によりリスクのエクスポージャーを低減するための諸施策を実施しておりますが、かかる施策によって必ずしもこれらのリスクを完全に回避することができるわけではありません。当社グループの予想を超える変動が生じた場合、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(8) 流動性リスク

内外の経済情勢や市場環境の変化等により、資金繰りに影響をきたしたり、通常より著しく高い金利での調達を余儀なくされたりする可能性があります。また、外部の格付機関が当社や銀行子会社の格付けを引き下げた場合等にも、不利な条件での資金調達取引を余儀なくされる可能性があります。

(9) 事務リスク

当社グループでは、事務処理手続きに関する諸規定を定め、それに則った正確な事務処理を励行することを徹底し、事務事故の未然防止を図るため事務管理体制の強化に努めております。しかしながら、これらの対策にもかかわらず、重大な事故・不正等が発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(10) システムリスク

当社グループは、銀行子会社における営業店、ATM及び他行とを結ぶオンラインシステムや顧客情報を蓄積している情報システムを保有しております。当社グループでは、コンピュータシステムの停止や誤作動又は不正利用等のシステムリスクに対してシステムの安全稼働に万全を期すほか、厳格な情報管理を行い、運用面での対策を実施しております。しかしながら、これらの対策にもかかわらず、重大なシステム障害が発生した場合には、決済業務に支障をきたす等当社グループの事業に重大な影響を及ぼす可能性があります。その結果、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(11) 人的リスク

他の金融機関や異業種との競合の結果として当社グループの求める人材を確保できない場合、人材の流出や士気の低下、法令等遵守の観点から問題となる行為等が発生した場合には、当社グループの経営成績や業務遂行に影響を及ぼす可能性があります。

(12)有形資産リスク

災害や資産管理の瑕疵等の結果、有形資産の毀損や執務環境等の質の低下等が発生した場合には、当社グループの業績や業務遂行に影響を及ぼす可能性があります。特に、南海地震・東南海地震等の大規模自然災害が発生した場合、当社グループ自身の被災による損害のほか、取引先の被災による業績悪化が、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(13)各種規制の変更リスク

当社は、池田泉州銀行を子会社とする銀行持株会社として、事業運営上の様々な公的規制や金融システム秩序維持のための諸規制・政策のもとで業務を遂行しておりますが、これらの諸規制・政策は、今後の経済及び金融市況、又は金融機関への規制に関する世界的な潮流等に応じて、変更される可能性があります。このような諸規則・政策の変更については、現時点でその影響を正確に予測することは困難ですが、その変更内容及び事業運営に及ぼす影響の程度によっては、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(14)風説・風評の流布によるリスク

銀行業界及び当社グループに対するネガティブな報道を含め、悪質な風説や風評の流布は、それが正確であるか否かにかかわらず、また、当社グループに該当するか否かにかかわらず、当社グループの財政状態及び経営成績並びに当社の株価に悪影響を及ぼす可能性があります。

(15)外部委託に関するリスク

当社グループは、様々な業務に関して外部への委託を行っております。業務の外部委託に当たっては、委託先の適格性などの検証を行うとともに、委託先の管理に努めておりますが、委託先において、委託業務遂行への支障が生じた場合や、情報の漏えい、紛失、不正利用などがあった場合には、当社グループの管理態勢に対する信頼が毀損され、また、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(16)繰延税金資産に関するリスク

現時点の会計基準では、ある一定の状況において、実現すると見込まれる税務上の便益を繰延税金資産として計上することが認められております。繰延税金資産の計算は、将来の課税所得に関する様々な予測・仮定に基づいており、実際の結果がかかる予測・仮定とは異なる可能性があります。当社グループは、一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき繰延税金資産を貸借対照表に計上しておりますが、今後も、当社グループの将来の課税所得の予測に基づいて繰延税金資産の一部又は全額の回収ができないと判断される場合や、将来的に制度の変更により繰延税金資産の算入額が規制された場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(17)自己資本比率に関するリスク

当社グループは、連結自己資本比率を平成18年金融庁告示第20号に定められる国内基準(4%)以上に維持する必要があります。また、当社グループの銀行子会社は、連結自己資本比率及び単体自己資本比率を平成18年金融庁告示第19号に定められる国内基準(4%)以上に維持する必要があります。これらの「告示」の一部改正が平成25年3月8日に公布され、規制上の自己資本を普通株式・内部留保等を中心とした「コア資本」と定義する等の新しい基準が平成26年3月31日から適用されます。

当社グループ又は銀行子会社の自己資本比率が、求められる水準を下回った場合、金融庁長官から業務の全部又は一部の停止命令等を含む様々な命令を受けることとなり、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。当社グループ又は銀行子会社の自己資本比率に影響を与える主な要因として以下のものがあります。

- ・ 不良債権処理額の増加による与信関連費用の増加
- ・ 株価の下落、市場金利の上昇
- ・ 繰延税金資産の取崩し
- ・ 自己資本比率の基準及び算定方法の変更
- ・ 既調達劣後債務を同等の条件の劣後債務に借り換えることの困難性
- ・ 本項記載のその他の不利益な展開

(18)情報漏洩に関するリスク

当社グループでは、膨大な顧客情報を保有しているため、情報管理に関する内部管理体制の整備により、情報資産の厳正な管理に努めております。しかしながら、顧客情報や経営情報などの漏洩、紛失、改ざん、不正利用等が発生し、当社グループの信用低下等が生じた場合、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(19)退職給付債務に関するリスク

当社グループの退職給付費用及び債務は、割引率等数理計算上で設定される前提条件に基づき算出しております。これらの前提条件が変更された場合、又は実際の年金資産の時価が下落した場合、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(20)固定資産減損に関するリスク

今後の経済環境の動向や不動産価格の変動等により、当社グループが所有する固定資産に減損処理に伴う損失が発生し、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(21)外的要因に関するリスク

自然災害やテロ等外部要因によるシステムや社会インフラの大規模な障害発生等及び感染症(新型インフルエンザ等)の流行等により、当社グループの業務の一部が不全となった場合、当社グループの経営成績や業務遂行に悪影響を及ぼす可能性があります。

(22)訴訟等のリスク

当社グループは事業活動を行う上で、会社法、金融商品取引法、銀行法等の法令諸規制を受けるほか、各種取引上の契約を締結しております。当社グループはこれら法令諸規制や契約内容が遵守されるよう法務リスク管理等を行っておりますが、法令解釈の相違、法令手続きの不備により法令諸規制や契約内容を遵守できなかった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(23)内部統制の構築等に関するリスク

当社は、金融商品取引法に基づき、連結財務諸表に関して財務報告に係る内部統制報告書を開示しております。また、会社法上の規定に従い、内部統制システムの構築を行っております。

当社グループとして、金融商品取引法や会社法等に基づく内部統制に関する体制の構築・維持・運営に努めておりますが、予期しない問題が発生した場合等において内部統制について開示すべき重要な不備が存在する等の場合には、当社グループの財政状態及び経営成績並びに当社の株価に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

(1) 当社子銀行との経営管理契約締結について

当社は、当社の完全子会社である池田銀行及び泉州銀行(両行は平成22年5月1日に合併し商号を「池田泉州銀行」に変更しております。)との間で、当社が両行に対して行う経営管理に関して、平成21年10月1日付で「経営管理契約書」を締結しております。

(2) 会社分割契約について

当社の完全子会社である池田泉州銀行は、平成25年1月30日開催の取締役会において、同行の子会社であるエス・アイ・ティー・ピー準備株式会社(現池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社)並びにエス・アイ・シー・ピー準備株式会社(現池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社)に承継させる会社分割(簡易吸収分割)を決議し、同日、両社と吸収分割契約書を締結いたしました。

会社分割の目的

事業再生支援において実績のある外部機関との緊密な連携のもと、別会社を設立し、これら外部機関のノウハウを最大限活かしつつ集中的に事業再生支援を行うことが、非常に有効な手段であると判断いたしました。

会社分割の方法

同行の融資部ソリューション支援室(現ソリューション部)が所管する顧客の債権管理、再生支援、回収業務その他関連業務に関する権利義務等を、同行の子会社であるエス・アイ・ティー・ピー準備株式会社(現池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社)並びにエス・アイ・シー・ピー準備株式会社(現池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社)に承継させる会社分割(簡易吸収分割)といたします。

会社分割の期日

平成25年3月25日

分割に際して発行する株式及び割当

エス・アイ・ティー・ピー準備株式会社(現池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社)は、本件吸収分割に際して普通株式196,316株を発行し、そのすべてを同行に割り当ていたします。

エス・アイ・シー・ピー準備株式会社（現池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社）は、本件吸収分割に際して普通株式202,900株を発行し、そのすべてを同行に割り当ていたします。

割当株式数の算定根拠

子会社は、同行の完全子会社であり、また、本件吸収分割が単独吸収分割であり、割り当てられる株式数による同行の純資産の変動はないため、エス・アイ・ティー・ピー準備株式会社（現池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社）並びにエス・アイ・シー・ピー準備株式会社（現池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社）の事業内容及び同行から承継される権利義務等を考慮して決定しております。

分割する資産・負債の状況（平成25年3月25日現在）

	エス・アイ・ティー・ピー準備株式会社 (現池田泉州ターンアラウンド・ パートナーズ株式会社)	エス・アイ・シー・ピー準備株式会社 (現池田泉州コーポレート・ パートナーズ株式会社)
現金預け金	2,386百万円	3,135百万円
貸出金	15,342百万円	20,458百万円
その他	2百万円	1百万円
貸倒引当金	5,094百万円	9,376百万円
資産の部合計	12,637百万円	14,218百万円
借入金	4,000百万円	4,000百万円
その他	3百万円	7百万円
負債の部合計	4,003百万円	4,007百万円

会社分割に係る分割承継会社の概要（平成25年3月25日現在）

名称	エス・アイ・ティー・ピー準備株式会社 (現池田泉州ターンアラウンド・ パートナーズ株式会社)	エス・アイ・シー・ピー準備株式会社 (現池田泉州コーポレート・ パートナーズ株式会社)
代表者	森畠 弘和	森畠 弘和
住所	大阪市北区豊崎3丁目2番1号	大阪市北区豊崎3丁目2番1号
資本金	25百万円	25百万円
事業内容	事業再生業務	事業再生業務

両社とも、平成25年1月4日設立ため、過去の業績等はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当連結会計年度の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

連結粗利益

当連結会計年度の連結粗利益については、役務取引等利益が16億13百万円増加しましたが、資金利益及びその他業務利益が、それぞれ51億49百万円、19億2百万円減少したことから、前連結会計年度比54億39百万円減少して、768億34百万円となりました。

イ 資金利益

当連結会計年度の資金利益については、預金利息及び譲渡性預金利息などの資金調達費用が前連結会計年度比13億82百万円減少しましたが、貸出金利息及び有価証券利息配当金などの資金運用収益も前連結会計年度比65億30百万円減少したことから、前連結会計年度比51億49百万円減少して、549億88百万円となりました。

ロ 役務取引等利益

当連結会計年度の役務取引等利益については、役務取引等費用が前連結会計年度比23百万円増加しましたが、投資信託・保険販売業務などを中心に役務取引等収益が前連結会計年度比16億35百万円増加したことから、前連結会計年度比16億13百万円増加して、125億93百万円となりました。

ハ その他業務利益

当連結会計年度のおその他業務利益については、国債等債券関係損益が12億4百万円並びに金融派生商品損益が6億96百万円、それぞれ減少したことを主因として、前連結会計年度比19億2百万円減少して、92億52百万円となりました。

経常利益

当連結会計年度の経常利益については、連結粗利益が前連結会計年度比54億39百万円減少して、768億34百万円となりましたが、営業経費も前連結会計年度比17億83百万円減少して、544億60百万円となりました。また、株式等関係損益は前連結会計年度比3億38百万円減少して、9億48百万円の損失となり、不良債権処理費用も前連結会計年度比71百万円増加して、122億60百万円となったことなどから、前連結会計年度比19億1百万円増加して、128億6百万円となりました。

当期純利益

当連結会計年度の当期純利益については、経常利益が前連結会計年度比19億1百万円増加して、128億6百万円となり、前連結会計年度に発生した法人税率の引下げによる繰延税金資産の取り崩しがなくなったことから、前連結会計年度比62億92百万円増加して、101億2百万円となりました。

主要損益の状況

	前連結会計年度(A) (百万円)	当連結会計年度(B) (百万円)	増減(B) - (A) (百万円)
連結粗利益	82,273	76,834	5,439
資金利益	60,137	54,988	5,149
役務取引等利益	10,980	12,593	1,613
その他業務利益	11,154	9,252	1,902
営業経費()	56,243	54,460	1,783
不良債権処理費用()	12,189	12,260	71
うち貸出金償却()	5,504	4,646	858
うち個別貸倒引当金繰入額()	4,694	11,811	7,117
うち一般貸倒引当金繰入額()	1,985	3,933	5,918
うち償却債権取立益	1,321	1,419	98
株式等関係損益	610	948	338
持分法による投資損益	38	1	39
その他	2,285	3,639	5,924
経常利益	10,905	12,806	1,901
特別損益	248	391	639
税金等調整前当期純利益	10,656	13,197	2,541
法人税等合計()	6,698	2,783	3,915
法人税、住民税及び事業税()	616	998	382
法人税等調整額()	6,082	1,784	4,298
少数株主損益調整前当期純利益	3,958	10,414	6,456
少数株主利益()	147	312	165
当期純利益	3,810	10,102	6,292

連結粗利益 = (資金運用収益 - 資金調達費用) + (役務取引等収益 - 役務取引等費用)
+ (その他業務収益 - その他業務費用)

(2) 財政状態の分析

預金残高

当連結会計年度末の預金残高は、銀行業務において個人預金・法人預金とも増加したことを主因として、前連結会計年度末比1,002億円増加して、4兆4,907億円となりました。

	前連結会計年度末(A) (百万円)	当連結会計年度末(B) (百万円)	増減(B) - (A) (百万円)
預金	4,390,453	4,490,736	100,283
うち個人預金	3,566,886	3,619,531	52,645

貸出金残高

当連結会計年度末の貸出金残高は、銀行業務において事業性貸出を中心に、前連結会計年度末比620億円増加して、3兆5,782億円となりました。

	前連結会計年度末(A) (百万円)	当連結会計年度末(B) (百万円)	増減(B) - (A) (百万円)
貸出金	3,516,142	3,578,225	62,083
うち住宅ローン	1,720,255	1,721,077	822

有価証券残高

当連結会計年度末の有価証券残高は、子銀行において外国債券の残高を圧縮したことから、前連結会計年度末比307億円減少し、1兆1,692億円となりました。

	前連結会計年度末(A) (百万円)	当連結会計年度末(B) (百万円)	増減(B) - (A) (百万円)
有価証券	1,199,965	1,169,201	30,764

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、前連結会計年度末比356億34百万円減少して、953億61百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

前連結会計年度は、貸出金並びにコールローン等の増加による支出が160億7百万円ありましたが、預金、債券貸借取引受入担保金並びに借入金（劣後特約付借入金を除く）の増加による収入が1,215億10百万円あったことから、1,169億99百万円の収入となりました。当連結会計年度は、預金並びに借入金（劣後特約付借入金を除く）の増加による収入が1,089億27百万円ありましたが、貸出金の増加並びに債券貸借取引受入担保金の減少による支出が1,744億74百万円あり、前連結会計年度比1,943億94百万円減少し、773億95百万円の支出となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

前連結会計年度は、有価証券の取得による支出1兆6,506億19百万円が、有価証券の売却及び償還による収入1兆5,347億86百万円を上回ったことにより、1,242億63百万円の支出となりました。当連結会計年度は、有価証券の売却及び償還による収入1兆1,186億48百万円が有価証券の取得による支出1兆568億79百万円を上回ったことを主因に、前連結会計年度比1,826億9百万円増加し、583億46百万円の収入となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

前連結会計年度は、劣後特約付借入れによる収入100億円並びに劣後特約付社債及び新株予約権付社債の発行による収入が350億円ありましたが、配当金の支払による支出が60億24百万円並びに第一種優先株式及び普通株式の取得による支出が124億88百万円あり、劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出が300億円あったことなどから、32億43百万円の支出となりました。当連結会計年度は、劣後特約付借入れによる収入70億円並びに少数株主からの払込みによる収入が80億円ありましたが、劣後特約付借入金の返済による支出が135億円、劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出が30億円、配当金の支払による支出が55億85百万円並びに第一種優先株式及び普通株式の取得による支出が103億69百万円あったことなどから、前連結会計年度比136億34百万円減少し、168億77百万円の支出となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。そのため、事業の種類別の設備投資等の概要を記載しております。

当社及び連結子会社では、主にお客さまの利便性向上と営業力強化のために、全体で33億57百万円の設備投資を行いました。

銀行業務部門では、店舗の改修・設備更新などを行いました結果、設備投資額は32億20百万円となりました。

なお、リース業務部門、信用保証業務部門、クレジットカード業務部門及びその他業務部門では、重要な設備投資はありません。

2 【主要な設備の状況】

当連結会計年度末における主要な設備の状況は次のとおりであります。なお、当社グループは、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。そのため、事業の種類別の設備の状況を記載しております。

平成25年3月31日現在

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
当社		本社	大阪市北区	事務所				12		12	3 ()

銀行業務

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
連結 子会社	株式会社 池田泉州 銀行	大阪梅田本部	大阪市北区	店舗 事務所	(889) 889		2,338	372	19	2,730	406 (30)
		梅田支店 ほか1店	大阪市北区	店舗			58	48	6	113	65 (5)
		本町支店 ほか2店	大阪市中央区	店舗			214	105	6	327	75 (5)
		大阪西支店	大阪市西区	店舗			6	7		13	15 ()
		淡路支店 ほか2店	大阪市東淀川区	店舗	347	1	299	125	0	425	52 (7)
		大宮町支店	大阪市旭区	店舗	555	52	37	7	0	97	12 (1)
		新大阪支店	大阪市淀川区	店舗			10	14		25	19 ()
		城東支店	大阪市城東区	店舗			31	15	7	54	24 (4)
		昭和町支店	大阪市阿倍野区	店舗			42	23	3	69	29 (3)
		帝塚山支店 ほか1店	大阪市住吉区	店舗	743	64	71	35	5	176	23 (6)
		駒川町支店	大阪市東住吉区	店舗	360	66	45	21	1	134	20 (3)
		住之江支店	大阪市住之江区	店舗			17	16	2	36	11 (2)
		池田営業部 ほか4店	大阪府池田市	店舗 事務所	5,473	1,592	757	293	6	2,650	96 (33)
		箕面支店 ほか2店	大阪府箕面市	店舗	1,154	101	153	41		295	47 (14)

会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物 帳簿価額 (百万円)	その他の有 形固定資産 帳簿価額 (百万円)	リース資産 帳簿価額 (百万円)	合計		従業員数 (人)
				面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)				帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
連結 子会社	株式会社 池田泉州 銀行	能勢支店	大阪府 豊能郡能勢町	店舗	(7) 1,093	20	50	13		83	9 (5)
		ときわ台支店 ほか1店	大阪府 豊能郡豊能町	店舗	1,149	102	51	20		174	14 (5)
		豊中支店 ほか10店	大阪府豊中市	店舗	2,499	723	467	153	0	1,346	166 (36)
		摂津支店 ほか1店	大阪府摂津市	店舗			107	32		140	25 (2)
		吹田支店 ほか5店	大阪府吹田市	店舗	364	222	333	119		675	80 (21)
		彩都支店	大阪府茨木市	店舗	1,071	220	127	39		387	8 (2)
		富田支店	大阪府高槻市	店舗	777	150	88	14		253	16 (2)
		枚方北支店 ほか1店	大阪府枚方市	店舗	(6) 6		85	54	4	144	26 (9)
		交野支店	大阪府交野市	店舗	418	290	39	25	4	360	9 (3)
		大東支店 ほか1店	大阪府大東市	店舗	1,048	234	91	53	3	382	28 (6)
		東大阪中央支 店ほか1店	大阪府東大阪市	店舗			51	41	1	94	38 (2)
		高安支店 ほか1店	大阪府八尾市	店舗	357	79	71	32	4	188	32 (6)
		羽曳野支店	大阪府羽曳野市	店舗	(5) 402	28	33	12	4	79	13 (3)
		松原支店	大阪府松原市	店舗	(23) 578	34	42	13	0	89	15 (1)
		藤井寺支店	大阪府藤井寺市	店舗			26	13	0	40	20 (4)
		金剛支店 ほか1店	大阪府富田林市	店舗			38	25	4	68	19 (6)
		堺支店 ほか1店	堺市堺区	店舗	728	55	158	33	11	259	45 (3)
		初芝支店 ほか2店	堺市東区	店舗	1,141	299	142	68	8	519	42 (11)
		鳳支店 ほか3店	堺市西区	店舗	(103) 2,059	181	409	93	9	693	53 (17)
		泉ヶ丘支店	堺市南区	店舗			37	24	7	69	15 (6)
		堺市駅前支店 ほか2店	堺市北区	店舗	(6) 501	6	114	61	11	193	31 (11)
		東山支店	堺市中区	店舗	375	61	32	16	3	114	9 (2)
		高石支店	大阪府高石市	店舗			3	22	8	34	20 (8)
		泉大津支店	大阪府泉大津市	店舗	(16) 915	152	46	19	11	229	16 (4)
		和泉支店 ほか3店	大阪府和泉市	店舗	(29) 2,540	534	375	98	27	1,035	68 (22)
		忠岡支店	大阪府 泉北郡忠岡町	店舗	(332) 332		34	21	8	63	19 (4)
		泉州営業部 ほか3店	大阪府岸和田市	店舗 事務所	(688) 4,158	759	378	465	42	1,645	112 (50)
		貝塚支店 ほか1店	大阪府貝塚市	店舗	(22) 22		79	49	12	141	58 (42)
		泉佐野支店 ほか2店	大阪府泉佐野市	店舗	(466) 1,466	116	142	68	12	341	58 (22)
		泉南支店 ほか2店	大阪府泉南市	店舗	(35) 1,500	174	178	56	7	416	34 (9)
阪南支店 ほか1店	大阪府阪南市	店舗	(509) 909	1	205	57	8	273	27 (11)		

会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)	
				面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)		
連結 子会社	株式会社 池田泉州 銀行	熊取支店	大阪府 泉南郡熊取町	店舗	(18) 660	207	161	16	6	391	17 (3)
		田尻支店	大阪府 泉南郡田尻町	店舗	(390) 390		69	15	2	86	8 (5)
		岬町支店	大阪府 泉南郡岬町	店舗	(9) 9		20	12	2	36	10 (2)
		神戸支店	神戸市中央区	店舗			33	15		48	16 (1)
		住吉御影支店	神戸市東灘区	店舗	912	704	359	92		1,156	15 (2)
		六甲支店	神戸市灘区	店舗			47	18		65	14 (3)
		芦屋支店	兵庫県芦屋市	店舗	(473) 473		187	53		241	13 (3)
		武庫之荘支店 ほか2店	兵庫県尼崎市	店舗	934	287	228	33		548	41 (10)
		西宮北口支店 ほか3店	兵庫県西宮市	店舗	(1,666) 2,235	35	412	181		629	59 (10)
		伊丹支店 ほか1店	兵庫県伊丹市	店舗	386	28	99	32		159	31 (10)
		宝塚支店 ほか6店	兵庫県宝塚市	店舗	940	399	441	129	0	971	84 (28)
		川西支店 ほか5店	兵庫県川西市	店舗	(10) 1,012	113	202	76	0	392	95 (36)
		日生中央支店	兵庫県 川辺郡猪名川町	店舗			37	21		59	15 (4)
		三田支店 ほか2店	兵庫県三田市	店舗	117	59	272	49		381	28 (10)
		京都支店	京都市中京区	店舗			131	48		179	13 (1)
		和歌山支店	和歌山県 和歌山市	店舗			30	31	0	63	21 (3)
		東京支店 東京事務所	東京都千代田区	店舗 事務所			15	15	0	30	17 ()
		情報システム センター	兵庫県三田市	事務セン ター	25,846	3,515	2,672	647	0	6,836	23 (37)
		システムセン ター	大阪府泉佐野市	システム センター	6,035	2,514	1,347	126	90	4,078	3 ()
		大阪事務集中 センター	大阪市中央区	事務セン ター・事 務所	(608) 608		30	45	0	75	20 (2)
堺事務集中セ ンター	堺市堺区	事務集中 センター	1,963	116	180	65	2	365	45 (1)		
社宅・寮ほか	大阪府池田市ほ か	社宅・寮	(3,144) 9,513	1,557	1,007	58	2	2,626	10 (6)		
池田泉州 ターンア ラウンド ・パート ナーズ株 式会社	本社	大阪市北区	事務所			1	1		2	1 ()	
池田泉州 コーポ レート・ パート ナーズ株 式会社	本社	大阪市北区	事務所			1	1		2	2 ()	

リース業務

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
連結 子会社	池田泉州リ ース株式会社	本社	大阪市中央区	事務所			0	1		1	16 (3)
		泉州支社	大阪府岸和田市	事務所			2	1		4	6 (1)
		堺支店	堺市堺区	事務所			1	1		2	3 ()
	泉銀総合リ ース株式会社	本社	大阪府岸和田市	事務所			3	2		6	12 (2)

信用保証業務

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
連結 子会社	池田泉州信用 保証株式会社	本社	大阪府池田市	事務所				2		2	2 (5)
		淀屋橋事 務所	大阪市中央区	事務所			9	12		22	17 (6)
	近畿信用保証 株式会社	本社	大阪府貝塚市	事務所			6	2		8	2 (4)
		淀屋橋事 務所	大阪市中央区	事務所			4	11		15	12 (20)

クレジットカード業務

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
連結 子会社	株式会社 ジェーアイ	本社	大阪府池田市	事務所				3	0	3	19 ()
	株式会社 ディーアイ	本社	大阪府池田市	事務所				1		1	3 (1)
	株式会社 ブイアイ	本社	大阪府池田市	事務所				2		2	5 (1)
	株式会社 泉州カード	本社	大阪府岸和田市	事務所			2	1		4	9 (8)

その他業務

	会社名	店舗名 その他	所在地	設備の 内容	土地		建物	その他の有 形固定資産	リース資産	合計	従業員数 (人)
					面積 (㎡)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	帳簿価額 (百万円)	
連結 子会社	池田泉州キャ ピタル株式会 社	本社	大阪市北区	事務所				0	0	0	2 (3)
	池田泉州ビジ ネスサービス 株式会社	本社 ほか	大阪市北区ほか	事務所			0	17		17	92 (99)
	池田泉州オ フィスサービ ス株式会社	本社	大阪府池田市	事務所					2	2	1 (197)
	池田泉州モー ゲージサービ ス株式会社	本社	大阪府箕面市	事務所				1		1	11 (5)
	池田泉州シス テム株式会 社	本社 ほか	大阪市北区ほか	事務所			1	47		48	80 (9)
	池田泉州投資 顧問株式会 社	本社	大阪市中央区	事務所			0	1		1	3 (1)
	池田泉州ファイ ナンス株式 会社	本社	大阪市北区	事務所							()

- (注) 1 土地の面積欄の()内は、借地の面積(内書き)であり、その年間賃借料は建物も含め2,983百万円であります。
- 2 従業員数の()内は、臨時従業員数(外書き)であります。
- 3 その他の有形固定資産は、事務機械2,309百万円、その他2,556百万円であります。
- 4 銀行業務を営む連結子会社の店舗外現金自動設備214か所は上記に含めて記載しております。
- 5 上記には、連結会社以外に貸与している土地359百万円(1,136㎡)及び建物87百万円が含まれております。
- 6 上記には、リース業務を営む連結子会社からのリース資産371百万円が含まれております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社及び連結子会社の設備投資については、店舗政策、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。

当連結会計年度末において計画中である重要な設備の新設、改修等に係る投資予定金額は31億12百万円であり、その所要資金についてはほぼ全額自己資金にて充当する予定であります。

当連結会計年度末において計画中である重要な設備の新設、除却等は次のとおりであります。

なお、当社グループは、「銀行業」の単一セグメントであるため、セグメント情報を記載しておりません。そのため、事業の種類別の計画を記載しております。

(1) 新設、改修

銀行業務

会社名	店舗名 その他	所在地	区分	事業(部門) の別	設備の内容	投資予定金額 (百万円)		資金 調達方法	着手年月	完了 予定年月
						総額	既支払額			
株式会 社池田 泉州銀 行	あべのハルカ ス支店	大阪市 阿倍野区	新設	銀行業務	店舗	319		自己資金	平成24年 4月	平成26年 7月
	高石支店	大阪府 高石市	移転	銀行業務	店舗	355		自己資金	平成25年 2月	平成25年 7月
	大阪センター (注2)	大阪市 浪速区	移転	銀行業務	事務センター	70		自己資金	平成25年 4月	平成26年 1月
	その他		移転・新設 改修・改装	銀行業務	店舗他	2,066		自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月
	事務機械等		更新	銀行業務		302		自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月
	合計						3,112			

(注) 1 上記設備計画の記載金額には、消費税及び地方消費税を含んでおりません。

2 大阪センター移転につきましては、平成25年6月21日開催の取締役会において完了予定日を平成26年5月に延期いたしました。

(2) 除却

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	850,050,000
第一種優先株式	22,200,000
第二種優先株式	27,750,000
第三種優先株式	30,000,000
第四種優先株式	30,000,000
第五種優先株式	30,000,000
計	900,000,000

(注) 計の欄には、定款に規定されている発行可能株式総数を記載しております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	238,458,632	同左	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部	(注1)
第一種優先株式	7,400,000	同左		(注2)
第二種優先株式	23,125,000	同左		(注2)
計	268,983,632	同左		

(注) 1 完全議決権株式であり、剰余金の配当に関する請求権その他の権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式です。

普通株式は振替株式であり、単元株式数は100株です。

2 資金調達を柔軟かつ機動的に行うための選択肢の多様化を図り、適切な資本政策を実行することを可能とするため、会社法第108条第1項第3号に定める内容について普通株式と異なる定めをした第一種優先株式及び第二種優先株式についての定めを定款に定めており、その内容は次のとおりであります。

(1) 優先配当金

毎年3月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された優先株式を有する株主(以下「優先株主」という。)又は優先株式の登録株式質権者(以下「優先登録株式質権者」という。)に対し、普通株式を有する株主(以下「普通株主」という。)又は普通株式の登録株式質権者(以下「普通登録株式質権者」という。)に先立ち、それぞれ次に定める額の金銭による剰余金(以下「優先配当金」という。)の配当を行う。

第一種優先株式 1株につき 980円を18.5で除した金額

第二種優先株式 1株につき 1,020円を18.5で除した金額

非累積条項

ある事業年度において優先株主又は優先登録株式質権者に対して支払う剰余金の配当の額が優先配当金の額に達しないときは、その不足額は、翌事業年度以降に累積しない。

非参加条項

優先株主又は優先登録株式質権者に対しては、優先配当金を超えて配当は行わない。但し、当社が行う吸収分割手続の中で行われる会社法第758条第8号口若しくは同法第760条第7号口に規定される剰余金の配当又は当社が行う新設分割手続の中で行われる同法第763条第12号口若しくは同法第765条第1項第8号口に規定される剰余金の配当についてはこの限りではない。

(2) 残余財産の分配

残余財産を分配するときは、優先株主又は優先登録株式質権者に対し、普通株主及び普通登録株式質権者に先立ち、それぞれ次に定める額を金銭により支払う。

第一種優先株式 1株につき 25,000円を18.5で除した金額

第二種優先株式 1株につき 20,000円を18.5で除した金額

優先株主又は優先登録株式質権者に対しては、前項のほか残余財産の分配は行わない。

(3) 議決権

優先株主は、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会において議決権を有しない(但し、第一種優先株式を有する優先株主は、当社の成立の日から第一種優先株式の優先配当金を受ける旨の決議がある時まで議決権を有する。)、但し、優先株主は、優先配当金を受ける旨の議案が定時株主総会に提出されないときはその株主総会より、その議案が定時株主総会において否決されたときはその株主総会の終結の時より優先配当金を受ける旨の決議がある時まで議決権を有する。

(4) 株式の併合又は分割、募集株式の割当てを受ける権利等

法令に定める場合を除き、優先株式について株式の併合又は株式の分割を行わない。

優先株式に対し、募集株式の割当てを受ける権利又は募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えない。

優先株主に対し、株式無償割当て又は新株予約権の無償割当ては行わない。

(5) 取得条項

平成25年4月1日以降の日で、第一種優先株式の発行後に取締役会の決議で定める日(以下「第一種優先株式取得日」という。)をもって、第一種優先株式1株につき25,000円を18.5で除した金額に、第一種優先株式の優先配当金の額を第一種優先株式取得日の属する事業年度の初日(同日含む。)から第一種優先株式取得日の前日(同日含む。)までの日数で日割り計算した額(円位未満小数第3位まで算出し、その小数第3位を四捨五入する。)を加算した額の金銭の交付と引換えに、第一種優先株式の全部又は一部を取得することができる。

平成26年4月1日以降の日で、第二種優先株式の発行後に取締役会の決議で定める日(以下「第二種優先株式取得日」という。)をもって、第二種優先株式1株につき20,000円を18.5で除した金額に、第二種優先株式の優先配当金の額を第二種優先株式取得日の属する事業年度の初日(同日含む。)から第二種優先株式取得日の前日(同日含む。)までの日数で日割り計算した額(円位未満小数第3位まで算出し、その小数第3位を四捨五入する。)を加算した額の金銭の交付と引換えに、第二種優先株式の全部又は一部を取得することができる。

一部取得をするときは、按分比例の方法又は抽選により行う。

(6) 優先順位

各種の優先株式の優先配当金及び残余財産の支払順位は、同順位とする。

(7) 単元株式数 100株

(8) 会社法第322条第2項に規定する定款の定め

該当事項はありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

平成23年2月24日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	2,057(注2)	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注3)	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	41,140(注4)	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成23年3月16日～ 平成53年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 491 資本組入額は、会社計算規則第17条第1項に定めるところに従い算出される資本金等増加限度額に2分の1を乗じた額とし、計算の結果1円未満の端数を生じたときは、当該端数は切り上げることとする。	同左
新株予約権の行使の条件	(注5)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みにに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注6)	同左

(注) 1 平成24年8月1日付株式併合(5株につき1株)の影響を勘案しております。

2 新株予約権1個当たりの目的となる株式数 20株

3 「1(1)発行済株式」の内容欄に記載のとおりであります。

4 新株予約権の目的となる株式の数

新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む、以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割・株式併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記の他、割当日後、これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合、当社は、当社取締役会において必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

5 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、子会社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日間以内(10日目日が休日に当たる場合には翌営業日)に限り、新株予約権を行使することができるものとする。

6 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割若しくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、株式交換若しくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は再編対象会社新株予約権を新たに交付するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、前記(注4)に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

新株予約権を行使することができる期間

前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

前記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の行使の条件

前記(注5)に準じて決定する。

新株予約権の取得条項

ア 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案、当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案、又は新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案につき、当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は、当社取締役会決議又は会社法第416条第4項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合)は、当社取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

イ 新株予約権者が、(注5)の行使条件に該当しなくなった場合、又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができる。

平成23年7月28日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	2,140(注2)	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注3)	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	42,800(注4)	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成23年9月1日～ 平成53年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 536 資本組入額は、会社計算規則第17条第1項に定めるところに従い算出される資本金等増加限度額に2分の1を乗じた額とし、計算の結果1円未満の端数を生じたときは、当該端数は切り上げることとする。	同左
新株予約権の行使の条件	(注5)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注6)	同左

(注) 1 平成24年8月1日付株式併合(5株につき1株)の影響を勘案しております。

2 新株予約権1個当たりの目的となる株式数 20株

3 「1(1)発行済株式」の内容欄に記載のとおりであります。

4 新株予約権の目的となる株式の数

新株予約権の割当日後に、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む、以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割・株式併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記の他、割当日後、これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合、当社は、当社取締役会において必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

5 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、子会社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日間以内(10日目日が休日に当たる場合には翌営業日)に限り、新株予約権を行使することができるものとする。

6 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割若しくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、株式交換若しくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は再編対象会社新株予約権を新たに交付するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、前記(注4)に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

新株予約権を行使することができる期間

前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

前記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の行使の条件

前記(注5)に準じて決定する。

新株予約権の取得条項

ア 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案、当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案、又は新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案につき、当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は、当社取締役会決議又は会社法第416条第4項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合)は、当社取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

イ 新株予約権者が、(注5)の行使条件に該当しなくなった場合、又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができる。

平成24年 8月31日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年 3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年 5月31日)
新株予約権の数(個)	695(注1)	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注2)	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	69,500(注3)	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	平成24年10月2日～ 平成54年7月31日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 450 資本組入額は、会社計算規則第17条第1項に定めるところに従い算出される資本金等増加限度額に2分の1を乗じた額とし、計算の結果1円未満の端数を生じたときは、当該端数は切り上げることとする。	同左
新株予約権の行使の条件	(注4)	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注5)	同左

(注) 1 新株予約権1個当たりの目的となる株式数 100株

2 「1(1) 発行済株式」の内容欄に記載のとおりであります。

3 新株予約権の目的となる株式の数

新株予約権の割当日後に、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)又は株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数について行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割・株式併合の比率

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日(基準日を定めないときは、その効力発生日)以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用する。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用する。

また、上記の他、割当日後、これらの場合に準じて付与株式数の調整を必要とする場合、当社は、当社取締役会において必要と認める付与株式数の調整を行うことができる。

4 新株予約権の行使の条件

新株予約権者は、子会社の取締役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日間以内(10日目が休日に当たる場合には翌営業日)に限り、新株予約権を行使することができるものとする。

5 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社が合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割若しくは新設分割(それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。)、株式交換若しくは株式移転(それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。)(以上を総称して以下「組織再編行為」という。)をする場合において、組織再編行為の効力発生日(吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ。)の直前において残存する新株予約権(以下、「残存新株予約権」という。)を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社(以下「再編対象会社」という。)の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は再編対象会社新株予約権を新たに交付するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、前記(注3)に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後行使価額に上記に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後行使価額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。

新株予約権を行使することができる期間

前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、前記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

前記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

新株予約権の行使の条件

前記(注4)に準じて決定する。

新株予約権の取得条項

ア 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案、当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案、当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案、当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案、又は新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案につき、当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要の場合は、当社取締役会決議又は会社法第416条第4項の規定に従い委任された執行役の決定がなされた場合)は、当社取締役会が別途定める日に、新株予約権を無償で取得することができる。

イ 新株予約権者が、(注4)の行使条件に該当しなくなった場合、又は権利を放棄した場合、新株予約権を無償で取得することができる。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年10月1日(注1)	1,186,166,463	1,186,166,463	50,000	50,000	12,500	12,500
平成22年3月8日(注2)	210,000,000	1,396,166,463	20,130	70,130	20,130	32,630
平成22年3月23日(注3)	22,751,700	1,418,918,163	2,180	72,311	2,180	34,811
平成24年3月30日(注4)	37,000,000	1,381,918,163		72,311		34,811
平成24年8月1日(注5)	1,105,534,531	276,383,632		72,311		34,811
平成25年3月8日(注4)	7,400,000	268,983,632		72,311		34,811

(注) 1 発行済株式総数、資本金及び資本準備金の増加は、平成21年10月1日付で池田銀行及び泉州銀行の共同株式移転による当社の設立に際して新株式を発行したことによるものであります。

2 有償一般募集 発行価格200円 発行価額191.72円 資本組入額95.86円

3 有償第三者割当 発行価格191.72円 資本組入額95.86円

割当先 三菱UFJ証券株式会社(現三菱UFJ証券ホールディングス株式会社)

4 発行済株式総数の減少は、自己株式の消却によるものであります。

5 平成24年8月1日に、平成24年7月31日の株主名簿に記載された株主に対し、普通株式、第一種優先株式及び第二種優先株式について、それぞれ、5株を1株の割合で併合いたしました。

(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		66	38	1,862	142	6	26,116	28,230	
所有株式数 (単元)		1,256,769	39,623	582,489	141,259	96	358,874	2,379,110	547,632
所有株式数 の割合(%)		52.82	1.67	24.48	5.94	0.00	15.09	100.00	

(注) 1 自己株式133,919株は「個人その他」に1,339単元、「単元未満株式の状況」に19株含まれております。

2 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が83単元含まれております。

第一種優先株式

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)		1						1	
所有株式数 (単元)		74,000						74,000	
所有株式数 の割合(%)		100.00						100.00	

第二種優先株式

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		1		11				12	
所有株式数(単元)		18,500		212,750				231,250	
所有株式数の割合(%)		8.00		92.00				100.00	

(7) 【大株主の状況】

所有株式数別

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	61,599	22.90
日本スタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	24,820	9.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	19,319	7.18
株式会社オーシー・ファイナンス	東京都港区港南2丁目15番2号	6,475	2.40
ダイキン工業株式会社	大阪市北区中崎西2丁目4番12号 梅田センタービル	6,406	2.38
伊丹産業株式会社	兵庫県伊丹市中央5丁目5番10号	5,542	2.06
池田泉州銀行従業員持株会	大阪市北区茶屋町18番14号	4,088	1.52
株式会社みずほコーポレート銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	3,456	1.28
株式会社大林組	東京都港区港南2丁目15番2号	3,318	1.23
阪急阪神ホールディングス株式会社	大阪府池田市栄町1番1号	3,025	1.12
計		138,053	51.32

(注) 1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式61,599千株は、信託業務に係る株式であります。

そのうち294千株は、大建工業株式会社が同社に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は大建工業株式会社が留保しております。

そのうち56千株は、東ソー株式会社が同社に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は東ソー株式会社が留保しております。

2 日本スタートラスト信託銀行株式会社の所有株式24,820千株は、信託業務に係る株式であります。

そのうち1,677千株は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が同社に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権はあいおいニッセイ同和損害保険株式会社が留保しております。

3 銀行等保有株式取得機構から平成25年4月1日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)により、以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが(報告義務発生日平成25年3月19日)、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書(変更報告書)の主な内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
銀行等保有株式取得機構	東京都中央区新川二丁目28番1号	46,133	17.15

所有議決権数別

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権 に対する 所有議決権数 の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	615,991	25.90
日本スタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	248,205	10.43
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	119,195	5.01
池田泉州銀行従業員持株会	大阪市北区茶屋町18番14号	40,885	1.71
伊丹産業株式会社	兵庫県伊丹市中央5丁目5番10号	36,926	1.55
株式会社みずほコーポレート銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	34,564	1.45
株式会社大林組	東京都港区港南2丁目15番2号	33,188	1.39
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2番1号	28,119	1.18
野村信託銀行株式会社	東京都千代田区大手町2丁目2番2号	26,867	1.12
阪急阪神ホールディングス株式会社	大阪府池田市栄町1番1号	21,003	0.88
計		1,204,943	50.67

- (注) 1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有議決権数615,991個は、信託業務に係る株式であります。そのうち2,948個は、大建工業株式会社が同社に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は大建工業株式会社が留保しております。そのうち569個は、東ソー株式会社が同社に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は東ソー株式会社が留保しております。
- 2 日本スタートラスト信託銀行株式会社の所有議決権数248,205個は、信託業務に係る株式であります。そのうち16,779個は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が同社に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権はあいおいニッセイ同和損害保険株式会社が留保しております。
- 3 野村信託銀行株式会社の所有議決権数26,867個は、信託業務に係る株式であります。そのうち22,189個は、当社が同社に設定した池田泉州銀行従業員持株会専用信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は信託管理人が保有しております。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	第一種優先株式 7,400,000 第二種優先株式 23,125,000		(注) 1
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 133,900		(注) 2
完全議決権株式(その他)	普通株式 237,777,100	2,377,771	(注) 2
単元未満株式	普通株式 547,632		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	268,983,632		
総株主の議決権		2,377,771	

(注) 1 「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (1) 株式の総数等 発行済株式」の(注) 2を参照してください。

2 「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (1) 株式の総数等 発行済株式」の(注) 1を参照してください。

3 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が8千株含まれております。

また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が83個含まれております。

4 連結財務諸表並びに財務諸表においては、当社と信託口が一体であるとする会計処理に基づき、当連結会計年度末に池田泉州銀行従業員持株会専用信託が所有する当社株式2,218,900株を含めて自己株式として計上しております。

なお、当該株式は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」に含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社池田泉州 ホールディングス	大阪市北区茶屋町18番14号	133,900		133,900	0.04
計		133,900		133,900	0.04

(注) 連結財務諸表並びに財務諸表においては、当社と信託口が一体であるとする会計処理に基づき、当連結会計年度末に池田泉州銀行従業員持株会専用信託が所有する当社株式2,218,900株を含めて自己株式として計上しております。

なお、当該株式は上記「自己株式等」には含まれておりません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

平成23年2月24日開催の取締役会において決議されたもの

決議年月日	平成23年2月24日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社子会社の取締役：22 当社子会社の執行役員：19
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

平成23年7月28日開催の取締役会において決議されたもの

決議年月日	平成23年7月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社子会社の取締役：16 当社子会社の執行役員：18
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

平成24年8月31日開催の取締役会において決議されたもの

決議年月日	平成24年8月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社子会社の取締役：10 当社子会社の執行役員：16
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

(10) 【従業員株式所有制度の内容】

従業員株式所有制度の概要

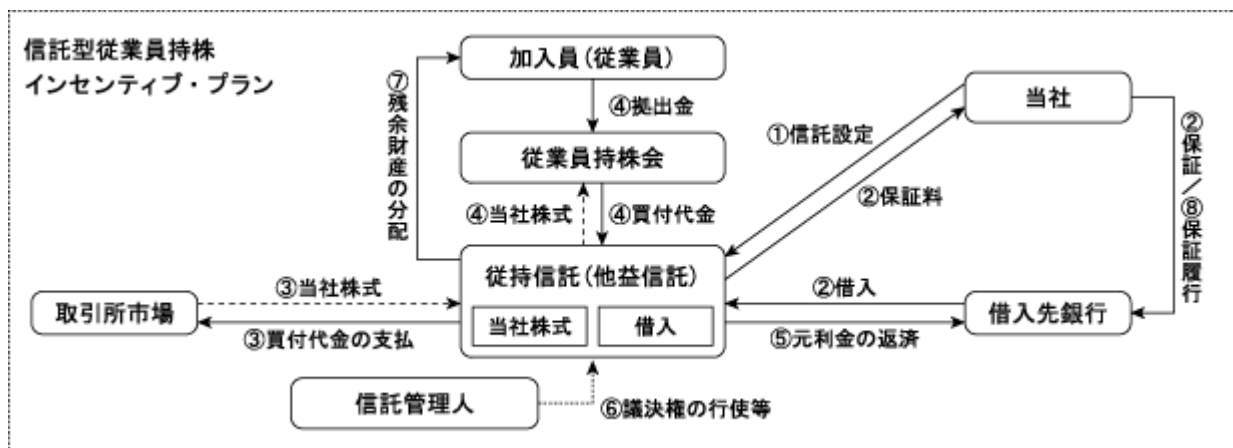
当社は、池田泉州銀行従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(以下、「本プラン」といいます。))を導入しております。

本プランは、「池田泉州銀行従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。))に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「池田泉州銀行従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」といいます。))を設定し、従持信託は、今後5年間にわたり持株会が取得すると見込まれる規模の当社株式を予め取得します。

その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。

なお、当社は、従持信託が当行株式を取得するための借入に対し保証をすることになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

本プランの仕組みは以下のとおりであります。



持株会に取得させる予定の株式の総額

21億円を上限とする。(株式の取得期間中に取得株式が一定の金額に達しない場合は、受託者の通知により、従持信託を終了します。)

当該従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

受益者適格要件を満たす者(受益権確定事由の発生後、一定の手続を経て存在するに至ります。)

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による第一種優先株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(平成23年6月29日)での決議状況 (取得期間平成23年6月29日～平成24年6月29日)	111,000,000	31,176,000,000
当事業年度前における取得自己株式	37,000,000	10,389,980,000
当事業年度における取得自己株式		
残存授權株式の総数及び価額の総額	74,000,000	20,786,020,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	66.6	66.6
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	66.6	66.6

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(平成24年6月28日)での決議状況 (取得期間平成24年6月28日～平成25年3月31日)	14,800,000	20,784,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	7,400,000	10,366,226,000
残存授權株式の総数及び価額の総額	7,400,000	10,417,774,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	50.0	50.1
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	50.0	50.1

(注) 平成24年8月1日に、第一種優先株式を5株を1株の割合で併合いたしました。平成24年6月28日の株主総会決議に係る株式数は、当該株式併合による調整後の株式数を記載しております。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式	7,400,000	10,366,226,000		
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数				

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による第二種優先株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
株主総会(平成25年6月26日)での決議状況 (取得期間平成25年6月26日～平成26年3月31日)	23,125,000	26,275,000,000
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式		
残存授権株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

【株式の種類等】 会社法第155条第7号及び会社法第155条第9号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第9号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年8月31日)での決議状況 (取得期間平成24年9月10日)(注)	1,300	591,500
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	1,300	591,500
残存決議株式の総数及び価額の総額		
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)		
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)		

(注) 平成24年8月1日に、普通株式5株を1株の割合で併合した際に、併合後新株式の割当の結果生じた1株未満の端数の合計1,300株を平成24年8月31日開催の取締役会決議により、平成24年9月10日付で取得(取得価額の総額591,500円)したものです。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	5,406	2,200,072
当期間における取得自己株式	584	310,823

(注) 1 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

2 平成24年8月1日に、普通株式5株を1株の割合で併合いたしました。当事業年度における取得自己株式のうち、株式併合前の取得自己株式は944株、株式併合後の取得自己株式は4,462株であります。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他 (株式併合に伴い減少した取得自己株式)	513,797			
(ストック・オプションの権利行使による譲渡)	298,600	34,386,278		
(単元未満株式の買増請求による処分)	399	179,708		
保有自己株式数	133,919		134,503	

(注) 当期間における取得自己株式の処理状況及び保有状況には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び単元未満株式の売渡しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、銀行持株会社としての公共性に鑑み、適正な内部留保の充実により、財務体質の健全性を確保するとともに、安定的配当の考え方を維持しつつ、積極的に株主の皆さまに利益を還元していくことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な配当方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、基本方針に基づき、業績の状況や経営環境等を総合的に勘案し、普通株式につきましては、1株につき15円の配当としております。また、第一種優先株式につきましては、定款の定めにより1株につき980円を18.5で除した額、第二種優先株式につきましては、定款の定めに従い1株につき1,020円を18.5で除した額の配当としております。

また、内部留保資金につきましては、将来の事業発展のための投資や財務体質強化のための原資として活用してまいります。

なお、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	種類	配当金総額(百万円)	1株当たり配当金(円)
平成25年6月26日 定時株主総会決議	普通株式	3,574	15
	第一種優先株式	392	980を18.5で除した額
	第二種優先株式	1,275	1,020を18.5で除した額

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

普通株式

回次	第1期	第2期	第3期	第4期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	459	180	129	545 (117)
最低(円)	167	96	100	397 (88)

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

2 当社普通株式は、平成21年10月1日に東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。従って、それ以前の株価については該当ありません。

3 平成24年8月1日付けで普通株式5株を1株の割合で併合したため、第4期の株価については当該株式併合後の最高・最低株価を記載し、()内に当該株式併合前の最高・最低株価を記載しております。

優先株式

当社第一種優先株式及び第二種優先株式は、非上場であるため、該当事項はありません。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

普通株式

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	509	545	534	527	522	544
最低(円)	453	472	490	475	481	489

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

優先株式

当社第一種優先株式及び第二種優先株式は、非上場であるため、該当事項はありません。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 (代表取締役)		藤田 博 久	昭和27年11月 1 日生	昭和51年 4 月 池田銀行(現池田泉州銀行)入行 平成10年 5 月 同行システム部長 平成12年 5 月 同行執行役員 平成15年 6 月 同行取締役 平成17年 6 月 同行常務取締役 平成21年10月 当社取締役 平成22年 5 月 池田泉州銀行常務取締役 平成23年 6 月 池田泉州銀行専務取締役 平成24年 6 月 当社代表取締役社長(現職) 平成24年 6 月 池田泉州銀行代表取締役頭取(現職)	(注) 3	普通株式 16,082
取締役会長 (代表取締役)		片岡 和 行	昭和27年 5 月19日生	昭和51年 4 月 三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行 平成16年 5 月 UFJ銀行(現三菱東京UFJ銀行)企業部(大阪)部長(部付) 平成16年 9 月 同行執行役員 平成17年 6 月 UFJセントラルリース(現三菱UFJリース)執行役員 平成18年 6 月 同社常務執行役員 平成21年 6 月 泉州銀行(現池田泉州銀行)顧問 平成21年 6 月 同行専務取締役兼専務執行役員 平成21年10月 当社取締役 平成22年 5 月 池田泉州銀行専務取締役 平成24年 6 月 当社代表取締役会長(現職) 平成24年 6 月 池田泉州銀行代表取締役会長(現職)	(注) 3	普通株式 7,560
代表取締役		福地 直 哉	昭和27年 4 月22日生	昭和51年 4 月 泉州銀行(現池田泉州銀行)入行 平成16年 4 月 同行泉佐野ブロック統括店長兼泉佐野支店長 平成19年 6 月 同行執行役員 平成19年 6 月 同行取締役兼執行役員 平成21年10月 当社執行役員 平成22年 5 月 池田泉州銀行常務取締役 平成22年 6 月 当社取締役 平成23年 6 月 池田泉州銀行専務取締役 平成24年 6 月 当社代表取締役(現職) 平成24年 6 月 池田泉州銀行代表取締役専務(現職)	(注) 3	普通株式 13,560
代表取締役		井角 和 博	昭和29年 2 月18日生	昭和51年 4 月 池田銀行(現池田泉州銀行)入行 平成14年10月 同行個人ローン部長 平成15年 7 月 同行執行役員 平成16年 6 月 同行常務執行役員 平成20年 6 月 同行取締役兼常務執行役員 平成21年 6 月 同行常務取締役 平成22年 5 月 池田泉州銀行常務取締役 平成23年 6 月 当社取締役 平成24年 6 月 池田泉州銀行専務執行役員 平成25年 6 月 当社代表取締役(現職) 平成25年 6 月 池田泉州銀行代表取締役専務CS本部長兼アジアチャイナ本部長兼先進テクノ本部長兼プライベートバンキング本部長(現職)	(注) 3	普通株式 9,283
取締役		久保田 洋	昭和28年 8 月 3 日生	昭和52年 4 月 三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行 平成16年 1 月 垂細亜証券印刷(現プロネクサス)入社 平成16年10月 同社大阪支店長 平成17年 6 月 同社取締役大阪支店長 平成20年 6 月 池田銀行(現池田泉州銀行)入行 平成21年10月 常務執行役員 平成21年10月 当社執行役員 平成22年 5 月 池田泉州銀行取締役 平成23年 6 月 池田泉州銀行常務取締役 平成24年 6 月 当社取締役(現職) 平成24年 6 月 池田泉州銀行常務取締役秘書役(現職)	(注) 3	普通株式 11,640

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	秘書役	田原 彰	昭和31年9月22日生	昭和54年4月 平成21年5月 平成21年10月 平成22年5月 平成22年5月 平成24年6月 平成24年6月	三和銀行(現三菱東京UFJ銀行) 入行 泉州銀行(現池田泉州銀行) 入行 経営企画部長 当社企画部統括部長 当社執行役員 池田泉州銀行取締役 当社取締役秘書役(現職) 池田泉州銀行常務取締役融資本部長(現職)	(注)3	普通株式 4,220
取締役		辻 二郎	昭和29年12月18日生	昭和53年4月 平成19年1月 平成20年6月 平成22年5月 平成23年6月 平成25年6月 平成25年6月	泉州銀行(現池田泉州銀行) 入行 同行営業開発部長兼ダイレクト企画室長 同行執行役員 池田泉州銀行取締役 池田泉州銀行常務執行役員 当社取締役(現職) 池田泉州銀行常務取締役事務システム本部長(現職)	(注)3	普通株式 9,709
取締役		鷓川 淳	昭和31年7月19日生	昭和55年4月 平成18年8月 平成18年11月 平成22年5月 平成23年6月 平成24年6月 平成25年6月	池田銀行(現池田泉州銀行) 入行 同行企画調整部長 同行執行役員 池田泉州銀行執行役員 池田泉州銀行取締役 当社取締役(現職) 池田泉州銀行取締役CS本部池田地区本部長(現職)	(注)3	普通株式 8,300
取締役		齊藤 昌宏	昭和29年11月25日生	昭和54年4月 平成19年1月 平成21年6月 平成22年5月 平成22年5月 平成22年6月 平成24年6月 平成24年6月	泉州銀行(現池田泉州銀行) 入行 同行住宅ローン推進部長 同行執行役員 池田泉州銀行常務執行役員 当社営業企画部長 当社執行役員 当社取締役(現職) 池田泉州銀行取締役CS本部大阪東地区本部長(現職)	(注)3	普通株式 8,400
取締役		南地 伸昭	昭和35年7月20日生	昭和59年4月 平成21年4月 平成21年5月 平成22年5月 平成23年7月 平成24年6月 平成24年6月	池田銀行(現池田泉州銀行) 入行 同行企画部長 同行執行役員 池田泉州銀行執行役員 当社総合リスク管理部長 当社取締役(現職) 池田泉州銀行取締役(現職)	(注)3	普通株式 5,330
取締役 (社外) (注)1		平松 一夫	昭和22年8月10日生	昭和54年4月 昭和60年4月 平成13年4月 平成14年4月 平成20年6月 平成21年4月 平成22年6月 平成22年6月 平成23年6月 平成23年6月	関西学院大学商学部助教授 同大学商学部教授(現職) 学校法人関西学院理事(現職) 関西学院大学学長 住友電気工業社外取締役(現職) 学校法人関西学院評議員(現職) 大同生命保険社外監査役(現職) 新明和工業社外取締役(現職) 当社社外取締役(現職) 池田泉州銀行社外取締役(現職)	(注)3	
監査役 (常勤)		昌尾 一弘	昭和22年11月19日生	昭和46年4月 平成11年2月 平成11年6月 平成12年6月 平成16年3月 平成17年6月 平成21年10月 平成22年5月 平成23年6月 平成24年6月	池田銀行(現池田泉州銀行) 入行 同行CS営業部長 同行執行役員 同行取締役 同行常務取締役 同行専務取締役兼統括執行役員 当社取締役 池田泉州銀行専務取締役 池田泉州銀行代表取締役副頭取 当社監査役(現職)	(注)4	普通株式 22,735

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)		西 隆 史	昭和26年12月9日生	昭和51年4月 平成20年2月 平成20年6月 平成21年6月 平成21年10月 平成22年5月 平成24年6月 平成25年6月	泉州銀行(現池田泉州銀行)入行 同行国際業務部長 同行執行役員 同行取締役兼執行役員 当社執行役員 池田泉州銀行常務取締役 当社取締役 当社監査役(現職)	(注)5	普通株式 9,840
監査役 (社外) (注)2		今 中 利 昭	昭和10年5月15日生	昭和37年4月 昭和40年4月 昭和51年4月 昭和57年4月 平成5年7月 平成10年5月 平成12年4月 平成15年6月 平成19年9月 平成21年10月	弁護士登録(大阪弁護士会) 関西法律特許事務所開設 大阪市立大学非常勤講師 大阪弁護士会副会長 大阪府建築工事紛争審査会会長 日本弁護士連合会司法制度調査会 委員長 芦屋市建築審査会会長 池田銀行(現池田泉州銀行)監査役 関西大学法学博士 当社監査役(現職)	(注)5	普通株式 370
監査役 (社外) (注)2		佐々木 敏 昭	昭和16年2月23日生	昭和38年4月 昭和50年5月 平成2年3月 平成2年6月 平成2年9月 平成10年8月 平成21年10月	興紀相互銀行入行 大阪銀行(現近畿大阪銀行)入行 同行本店支配人 泉州銀行(現池田泉州銀行)監査役 学校法人泉州学園専務理事 同学園理事長(現職) 当社監査役(現職) (他の法人等の代表状況) 学校法人泉州学園理事長	(注)5	普通株式 24,660
計							普通株式 151,689

- (注) 1 取締役のうち平松一夫は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 監査役のうち今中利昭及び佐々木敏昭の2名は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時より、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時より、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時より、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、池田泉州銀行などを子会社とする持株会社であり、地域金融機関グループとしての公共性に鑑み、コーポレート・ガバナンス態勢を適切に整備・運営していくことを経営上の最重要課題の一つとして位置付けております。

この考えのもと、当社では、株主や投資家の皆さまをはじめとして、お取引先や地域の皆さま、あるいは従業員など、全てのステークホルダーから不可欠な存在として信認を得ることを目指し、これを実現するため、地域社会への貢献や経営の健全性と独自性を堅持する旨の経営方針を掲げ、コンプライアンス(法令等遵守)、リスク管理、経営の透明性等を重視した経営を行うことを基本方針としております。

なお、本項においては、別段の記載がない限り、提出日現在の状況を記載しております。

企業統治の体制の概要等

当社は、継続的な企業価値向上を目指す企業統治体制として、社外取締役の選任と監査役会等との連携により、経営に対する監督機能を強化する体制を採用しております。

具体的には、複雑かつ高度な経営判断が要求される銀行業務等に精通した取締役が代表取締役の業務執行の監督を行い、監査役が重要な会議への出席や重要書類の閲覧等を通じて取締役の職務執行を監査しております。さらに、高度な人格、見識等を備えた社外取締役・社外監査役が取締役会等に出席し、活発な発言を行うことで、企業統治体制を強化する役割を担っております。

また、当社は、経営の透明性および客観性を向上させるため、経営上の重要戦略や課題、金融業界の問題等、経営全般に関して外部の有識者に助言を求めることを目的とした経営会議の諮問機関としてアドバイザリーボードを設置しております。

なお、当社と社外取締役並びに社外監査役との間で、責任限定契約を締結しております。当該契約による、賠償責任限度額は法令で定める最低限度額であります。

イ 会社の機関の内容

取締役会

取締役会は、11名の取締役（うち社外取締役1名）で構成され、取締役会規定に基づき重要な経営事項を意思決定、報告聴取するとともに、取締役及び執行役員の職務執行の監督を行います。取締役会は原則として毎月1回開催し、監査役の出席のもと、コンプライアンスやリスク管理を重視した意思決定を行います。

監査役会

当社では、監査役制度を採用しております。監査役は4名のうち、半数にあたる2名を社外監査役とすることで、透明性を確保します。各監査役は、監査役会で定めた監査方針・監査計画等に従い、「取締役会」、「経営会議」等重要な会議への出席や重要書類の閲覧等を通じ、取締役の職務執行を監査します。社外監査役には、誠実な人柄、高い見識と能力を有し、それぞれの専門分野についての知識や実務経験が豊富な人材を配置し、多角的な視点から経営上の助言を受けております。

経営会議

業務執行において、よりの確・迅速な経営の意思決定を行うために、取締役会の下に「経営会議」を設置し、取締役会から委譲された権限に基づき経営の重要事項に関する意思決定や報告聴取を行います。経営会議は原則として毎週1回開催し、監査役も出席のもと、コンプライアンスやリスク管理を重視した意思決定を行います。

内部統制、内部管理・内部監査部門

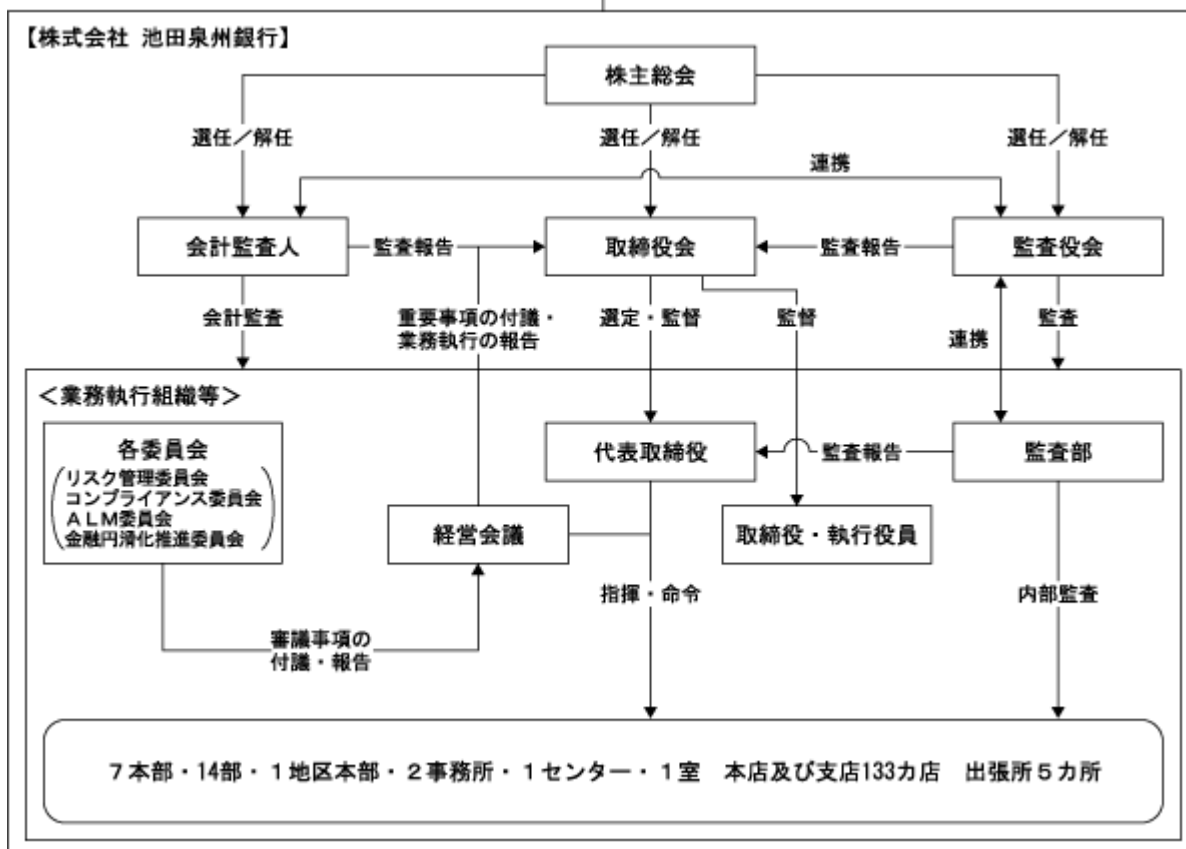
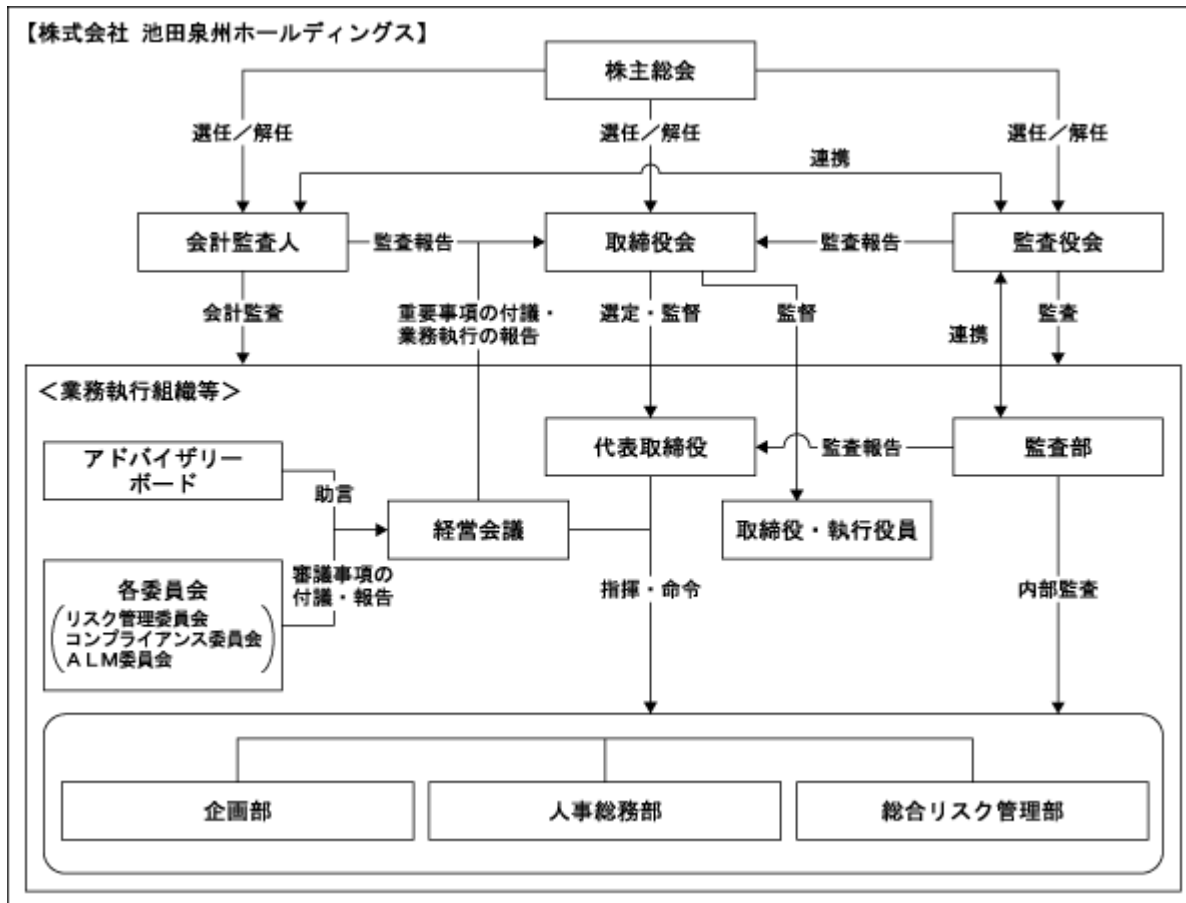
内部統制、内部管理や内部監査部門として、「企画部」、「総合リスク管理部」、「監査部」を設置しております。企画部は、会社法ならびに金融商品取引法上の内部統制の統括部署の役割を担います。総合リスク管理部は、内部管理の要でありますコンプライアンス管理を担当します。コンプライアンスにつきましては、取締役会で承認されたコンプライアンス・プログラムのもと諸施策の企画や進捗管理を行います。さらに、総合リスク管理部は、リスク管理の統括部署として、金融庁の評定制度等も参考にしつつ、リスク管理体制の定期的な見直しと改善を行います。

一方、監査部は、年度ごとに取締役会で承認された監査計画のもと、当社グループの内部監査業務全般を統括管理するほか、グループ各社に対し、必要に応じて単独、または子会社の内部監査部門と共同・連携して監査を実施し、業務運営の改善に向け、具体的な指導及び助言を行います。

会計監査人

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、荒井憲一郎、鶴森寿士、伊加井真弓の3名であり、金融商品取引法監査及び会社法監査を行う会計監査人は、新日本有限責任監査法人に所属しております。継続監査年数については、全員7年以内であるため記載を省略しております。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士14名、その他4名であります。



ロ 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社及び当社グループは、人と人とのふれあいを大切に、誠実で親しみやすく、お客様から最も「信頼される」金融グループを目指し、業務の適正を確保するために必要な体制を以下のような観点で構築しております。

取締役・使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社及び当社グループでは、法令等遵守(コンプライアンス)を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、役員が法令・定款及び会社規範を遵守した行動をとるため、倫理綱領及び行動規範を制定するとともに、コンプライアンス基本規定を定め、コンプライアンス委員会において、全般的な方針や具体的施策などの審議を行います。

また、その徹底を図るため、コンプライアンスを担当する役員を設置するとともに、総合リスク管理部においてコンプライアンスの取組みを組織横断的に統括し、コンプライアンス・プログラムやコンプライアンス・マニュアルの制定、研修の実施などを通じ、役職員の教育等を行います。

さらに、法令上疑義のある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段としてのホットラインを設置・運営いたします。

インサイダー取引未然防止規定に役職員が遵守すべき基本事項を定め、インサイダー取引の未然防止を図ります。

また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては毅然とした態度を貫き、取引の介入排除に努めるとともに、金融機関を通じて取引される資金が各種の犯罪やテロに利用される可能性があることに留意し、マネーロンダリングの防止に努めます。

さらに、お客様の保護及び利便性向上を推進し、「お客様本位の徹底」を実現するため、顧客保護等管理を行います。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役会、経営会議、その他委員会等の重要会議について、職務執行の記録として議事録等を作成・保管いたします。

また、取締役を決定者とする決裁文書及び付属書類についても適切に作成・保管いたします。

損失の危険の管理に関する規程その他の体制

経営の健全性の維持と安定した収益確保を図るため、リスク管理基本規定を定め、リスクを信用リスク、市場リスク、資金流動性リスク、オペレーショナルリスクに区分の上、それぞれの所管部を明確にするとともに、リスク管理委員会を設置し、各リスクのモニタリングを行います。

また、危機管理規定を定め、危機事象の発生に伴う経済的損失及び信用失墜等を最小限に留めるとともに、業務継続及び迅速な通常機能の回復を確保いたします。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は経営目標を定めるとともに、経営計画を策定し、取締役の職務の執行を効率的に行うため、経営会議を設置いたします。

経営会議は、取締役会で決議した経営の基本方針に基づき、これを執行する上での重要事項を協議、決議する他、取締役会の意思決定に資するため、取締役会付議事項を事前に検討することといたします。

また、取締役の所管する本部及びその権限と責任を明確にするとともに、ITの活用も図りながら効率的な業務執行体制を構築・維持します。

当社及びそのグループ会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社では、子会社・関連会社全社を池田泉州ホールディングスのグループとして一体と考え、当社が適切に主導し、グループ各社が当社との連携を保ちつつ、自社の規模、事業の性質に応じた適切な内部管理体制を構築し、業務の健全かつ適切な運営を行います。

当社は、グループ経営管理として、子会社等から必要な報告を受け、協議する体制を構築します。

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の職務を補助するため、監査役会事務局として監査役スタッフを配置いたします。このスタッフに対する業務執行の指揮命令は監査役会が行うこととし、人事異動、人事評価においても監査役会の意見を尊重するなど、取締役からの独立性を確保いたします。

取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び従業員は、監査役に対して、法定の事項に加え、当社及びそのグループに重大な影響を及ぼす事項、その他必要な事項をすみやかに報告することといたします。

また、これを補完するため、取締役会、経営会議、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、ALM委員会等の重要な会議について、監査役が出席できる体制を構築いたします。

その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役、内部監査部署、監査法人との間で意見交換会を開催することといたします。

また、監査役は取締役会、経営会議、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、ALM委員会等の重要な会議に出席し、業務執行上の様々な問題点の把握に努めます。

八 リスク管理体制について

リスク管理の基本的な考え方

金融業務の自由化・高度化・国際化の進展や情報通信技術の著しい進歩などにより、金融機関のビジネスチャンスが拡大する一方で、金融機関の抱えるリスクは、ますます複雑化・多様化しています。

また、銀行が様々な顧客ニーズに応えながら収益を安定的かつ継続的に確保するためには、多様なリスクを適切に把握・評価・管理し、環境の変化に適時・適切に対応することが重要となっています。このような状況の下、当社グループは、リスク管理体制の充実・強化を経営の重要課題として位置づけ、健全性の維持・向上に努めています。

具体的には、リスク管理に関する体制及び諸規定を取締役会で定め、リスクカテゴリー毎の責任部署を明確にするとともに、それらを統括するリスク管理統括部署を設置しています。さらに、経営陣を中心に構成する「リスク管理委員会」ならびに「ALM委員会」を設置し、当社グループ及び子銀行のリスクの状況を把握するとともに、課題及び対応方策を審議したうえで、それらの事項を取締役会等に付議・報告することにより、経営レベルでの実効性のあるリスク管理体制を確保しています。

また、環境の変化等に伴い新たに発生するリスク等に対しても適時・適切に対応できるよう、グループ戦略を踏まえたリスク管理の行動計画として、半期毎にリスク管理の基本方針を決定し、継続的に見直しを行っています。

なお、リスク管理体制の適切性及び有効性を客観的に検証するため、被監査部署からの独立性を十分に確保した内部監査部門による監査を行い、リスク管理上の課題の把握や改善策の実施等を通じて、業務の健全かつ円滑な運営を図っています。

統合的リスク管理

統合的リスク管理

統合的リスク管理とは、金融機関が直面するリスクに関して、自己資本比率の算定対象に含まれない与信集中リスクや銀行勘定の金利リスク等も含めて、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスク等のリスクカテゴリー毎の方法で評価したリスクを統合的に捉え、金融機関の経営体力（自己資本）と対比することにより、適切にリスク管理を行うことをいいます。

当社グループは、リスク管理体制の充実・強化を経営の重要な課題として位置づけ、業務遂行に伴う様々なリスクを可能な限り統一的な尺度で統合的に把握・認識し、リスクに見合った収益の安定的な確保及び適正な資本構成の達成、資源の適正配分等を実現するため、リスク管理統括部署がすべてのリスクを一元的に把握する統合的リスク管理体制を構築しています。

リスク資本管理制度

当社グループは、統合的リスク管理の枠組みの下、リスクの総量を自己資本の一定範囲内にコントロールするため、リスク資本管理制度に基づいて業務運営を実施しています。

具体的には、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスクのリスクカテゴリー毎にリスク量を算定したうえで、自己資本（Tier 1）を配賦原資としたリスク資本配賦を行っています。また、経営として許容可能な範囲内にリスク量が収まるよう継続的にモニタリングを行い、グループ全体の業務の円滑な遂行ならびに健全性の確保に努めています。

バーゼル への対応

平成19年3月末から本邦で適用されている自己資本比率規制（バーゼル 1）における、自己資本比率の計算について、当社グループでの適用状況は、信用リスクについては標準的手法、オペレーショナル・リスクについては粗利益配分手法であります。

信用リスク管理

信用リスクとは、お取引先の経営状態の悪化などに伴い、貸出金などの利息・元本が回収不能になるリスクをいいます。

当社グループでは、経営方針を踏まえつつ与信行為の具体的な考え方を明示した「クレジットポリシー」を子銀行において制定し、健全性の確保を第一に取り組んでいます。

具体的には、管理方法を明示した「信用リスク管理規定」に基づき、子銀行の信用リスク管理部署であるリスク統括部では、与信集中リスクの状況に加え、業種別・債務者区分別・信用格付区分別等さまざまな角度から与信ポートフォリオの分析・管理を行い、最適なポートフォリオの構築を図るべく、きめ細かな対応を行っています。

子銀行における個別案件の審査・与信管理につきましては、審査部署（融資部、ソリューション部、融資業務部）の、営業推進部署からの独立性を確保するとともに、取締役会等で大口与信先の個別案件や与信方針の検討を行うなど、審査体制の整備・強化を図っています。さらに、住宅ローンに関しては、融資本部内に融資業務部を設置し、住宅ローン債権の管理を行っています。

また、資産の自己査定の実施状況を監査する担当部署として、監査部を設け、資産の健全性の維持・向上に努めています。

市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株価等の様々な市場のリスクファクターの変化により、保有する資産・負債の価格が変動し損失を被るリスク（市場リスク）と、市場の混乱や取引の厚みの不足などのために、必要とされる数量を妥当な水準で取引できないことにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）をいいます。当社グループでは、経営陣を中心に構成する「リスク管理委員会」ならびに「ALM委員会」を設置し、市場環境の変化に応じた的確・迅速な対応策を協議することにより、資産・負債の総合的な管理を行い、安定的かつ継続的な収益の確保に努めています。

資金流動性リスク管理

資金流動性リスクとは、市場の状況や当社グループの財務内容の悪化等を通じて必要な資金が確保できなくなり、資金繰りに支障をきたす場合や、資金の確保に際して通常より高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、資金の運用・調達状況をきめ細かく把握することを通じて、適切な資金管理を行い、保有資産の流動性の確保や調達手段の多様化を図るなど、資金流動性リスクの管理に万全の体制で臨んでいます。

オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、銀行の業務遂行の過程や、役職員の活動、システムが不適切であること、または外生的な事象により損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、「オペレーショナル・リスク管理規定」を制定し、オペレーショナル・リスクを、事務リスク、情報資産（システム）リスク、有形資産リスク、人材リスク、法的リスク、評判リスクの6つに分けて管理しています。

また、新たな商品やサービスの開発・提供等を行う場合には、それに伴い発生するリスクを識別・評価し、適切なリスク管理を行っています。このほか、業務を外部委託する場合には、お客さまの情報を適切に管理するとともに、経営の健全性確保に努めています。

事務リスク管理

事務リスクとは、事務処理の間違いや不正、事故等に伴い損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、お客さまに安心して取引を行っていただけるよう、事務処理手続きに関する諸規定を詳細に定め、正確かつ迅速な事務処理を通じて事故発生の未然防止に取り組んでいます。また、事務工程の分析による潜在的なリスクの把握を通じて、処理手順の見直しを行うなど、事務リスクの削減に取り組んでいます。

情報資産（システム）リスク管理

情報資産（システム）リスクとは、情報の喪失・改竄・不正使用・外部への漏洩、並びにコンピューターシステムが自然災害や故障などによって損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、業務運営が様々なコンピューターシステムによって支えられていることを踏まえ、システムの信頼性や安全性に万全を期すとともに、万一の場合に備えて、バックアップ体制を構築しています。

また、データの暗号化やアクセス権限の管理強化を行なうなど、情報の漏洩や不正アクセスなどの防止に向けて体制の整備に努めています。

有形資産リスク管理

有形資産リスクとは、災害や資産管理の瑕疵等の結果、建物・設備の毀損や執務環境の質が低下することにより損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、耐震診断や停電対策を行い、災害発生時においても業務を継続できるよう、環境整備に努めています。

人材リスク管理

人材リスクとは、人材の流出・喪失や士気の低下によって、業務の遅延が生じたり専門的な技術・知識の継承が損なわれるといったことにより損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、職員の能力向上に努めるとともに、各々の職員が能力を最大限発揮できる職場環境の整備に努めています。

法的リスク管理

法的リスクとは、法令等の違反や、各種制度変更への対応が不十分であったために損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、総合リスク管理部を設置し、法律問題に関する情報の集約・管理をはじめ、法的リスクへの対応を適切に行い、法的リスクの顕在化の未然防止およびリスクの軽減に努めています。

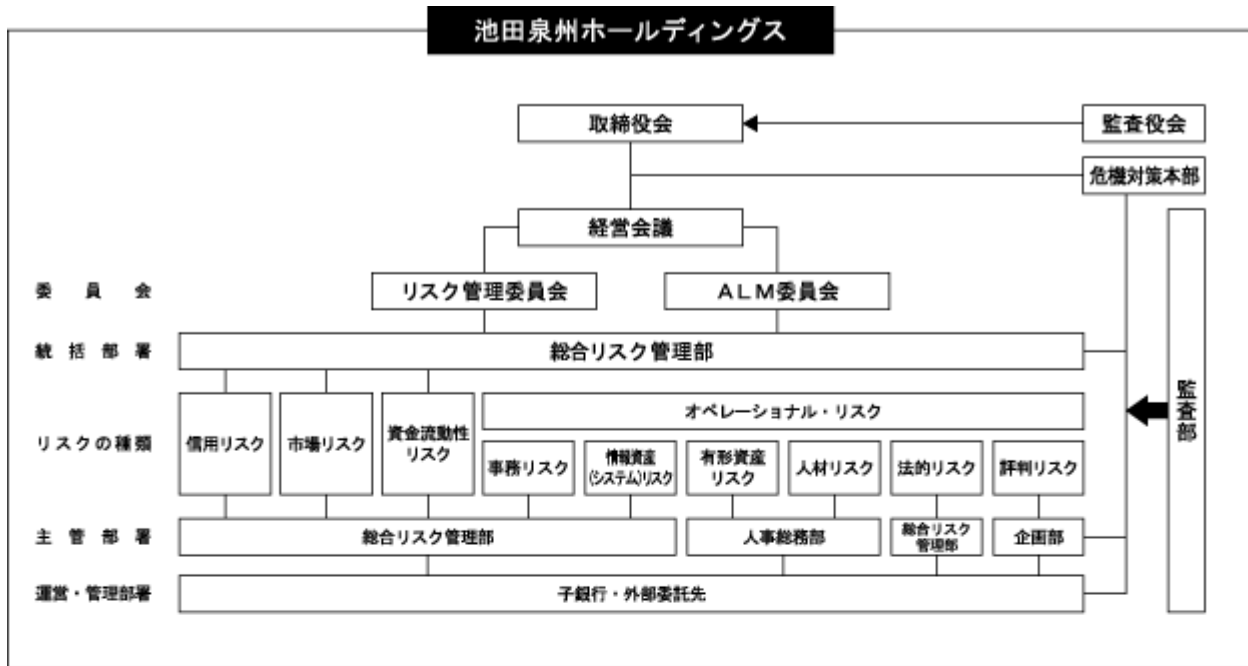
評判リスク管理

評判リスクとは、事実と異なる風説・風評が流布された結果、または事実に係る当社グループの対応の不備により、当社グループの評判が悪化し、損失を被るリスクをいいます。

当社グループでは、経営に与える影響の重大性に鑑み、積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高めることにより、評判リスクの回避に努めています。

危機管理

当社グループでは、大規模な自然災害やシステム障害の発生等、突発的な事象に対処するための基本的な方針として「危機管理規定」を制定しており、重大な危機が発生した際には、「危機対策本部」を設置し、全社的な対応を行う体制としています。危機発生時の具体的な対応については、「コンティンジェンシープラン」を整備のうえ、お客さまや職員の安全確保に努めるとともに、金融システム機能の業務継続体制を構築しています。

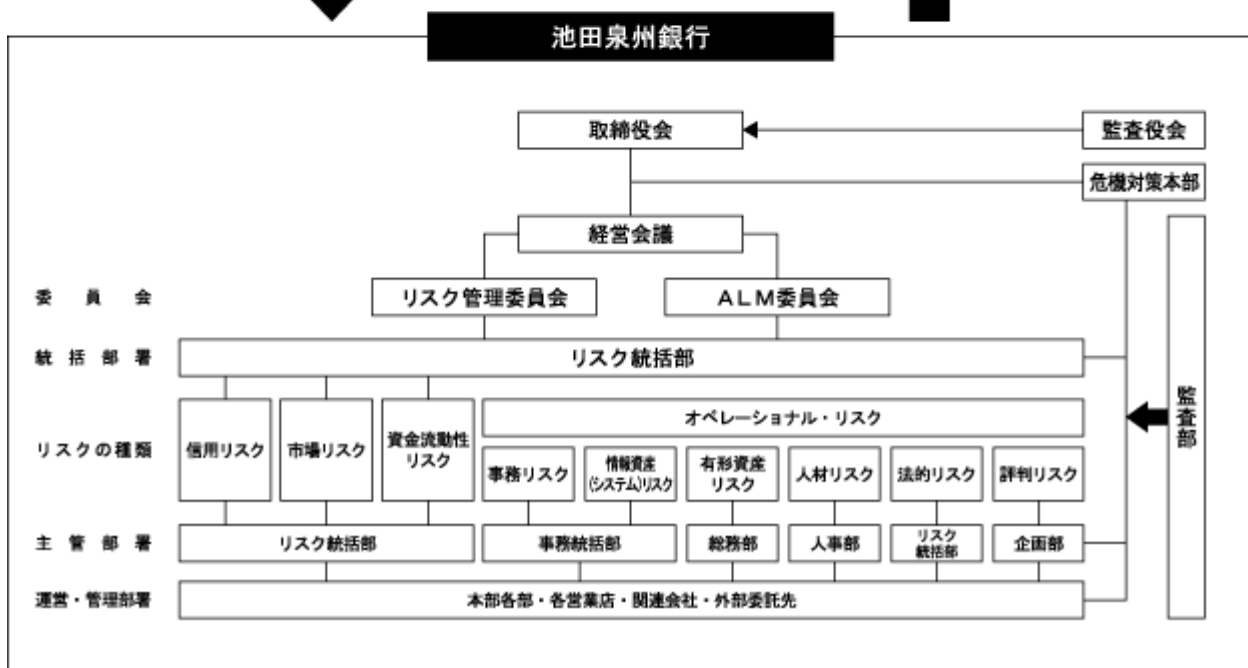


基本方針等の指示

管理・統括

リスク管理状況の報告

リスク管理に関する協議



二 コンプライアンス体制について

当社及び当社グループは、社会的責任と公共的使命を自覚し、お客さまや地域社会からの信認を得られるよう「コンプライアンス」を経営の最重要課題に位置付けて取り組んでおります。

当社は「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ・コンプライアンスに関する重要事項について審議を行っています。また、「コンプライアンスオフィサー」のもとにグループ・コンプライアンスに関する一元的な管理を行う部署として「総合リスク管理部」を設置しております。

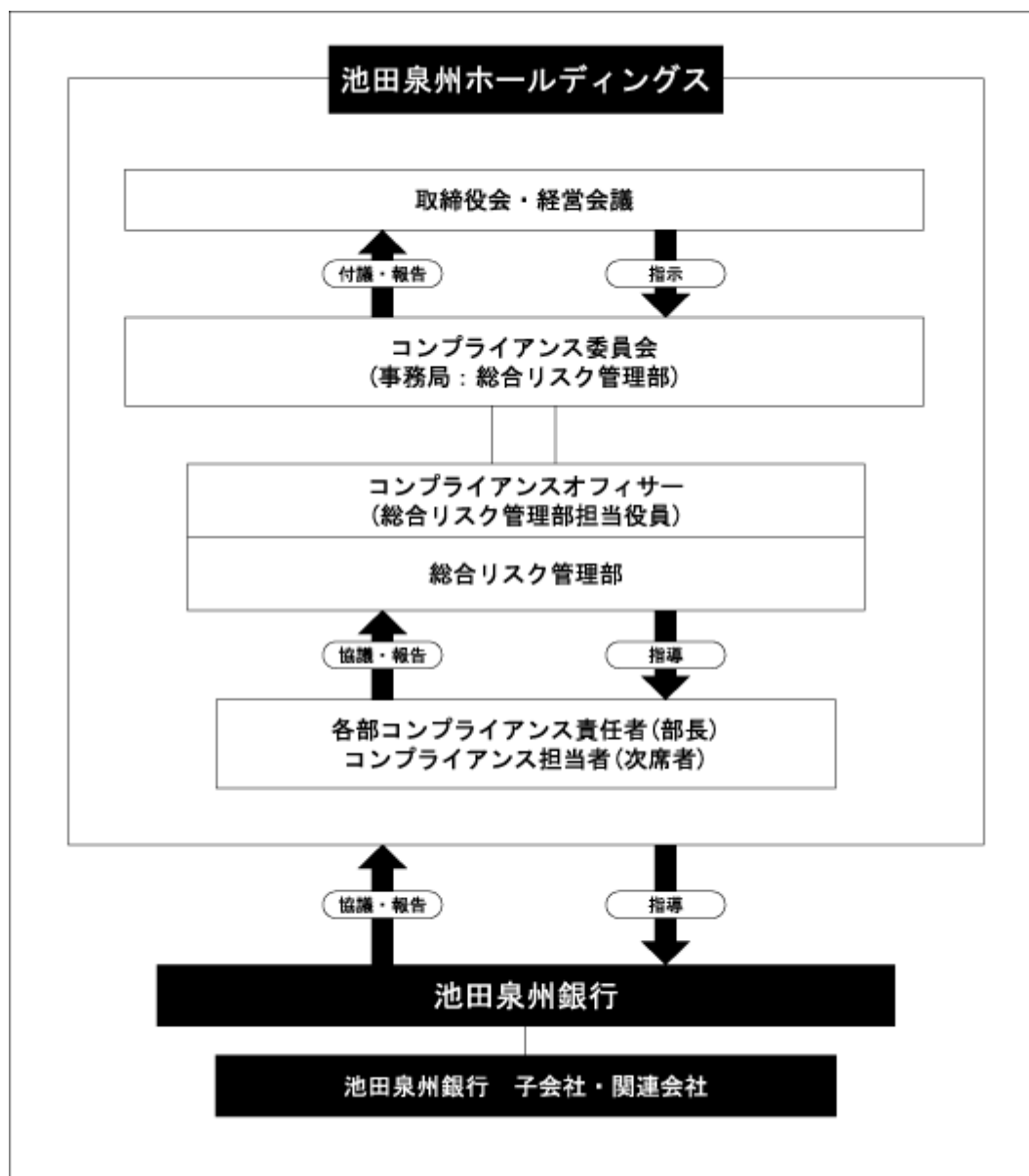
総合リスク管理部では、法令等遵守に係る実践計画であるコンプライアンス・プログラムの策定・見直しやフォローアップ、コンプライアンスの基本的な事項を取りまとめたコンプライアンス・マニュアルの策定・更新・周知徹底、各種研修等を通じた法令等遵守啓発活動などによりコンプライアンスの推進に取り組んでおります。

各部署においてはコンプライアンスを実践・浸透させるため「コンプライアンス責任者」や「コンプライアンス担当者」を配置し、コンプライアンスの観点からのチェックや研修を実施するなど、コンプライアンスの浸透に努めております。

また、コンプライアンス上の問題を早期発見し是正を図るため、社外の受付窓口を含むホットラインを設置・運営しております。

金融機関におけるコンプライアンスの重要性はますます高まっており、当社及び当社グループは、銀行法や金融商品取引法をはじめとする関係法令の遵守はもとより、反社会的勢力の排除や適切なお客さま保護等のための体制強化等に取り組んでおります。

今後もお客さまに「安心」してお取引いただけますよう、規定の整備や教育を継続的に行うことでコンプライアンス体制の強化・充実を図ってまいります。



内部監査及び監査役監査の状況

内部監査

当社では、内部監査の目的・方針等を定めた「グループ内部監査基本規定」を制定し、本規定に基づき内部監査を行う部署として「監査部」を設置しております。当社の内部監査方針は、業務の健全性・適切性を確保するため、独立性と専門性を備えた実効性のある内部監査態勢を整備し、リスク管理、内部統制等の適切性・有効性を検証・評価するとともに、必要に応じ、経営陣に対し問題点の改善方法の提言等を行うことにより、グループにおける内部管理態勢の改善、企業価値の拡大等の経営目標の効果的な達成に資することとしております。

当社の監査部は、子銀行からの出向者合計11名（専任3名、兼任8名：平成25年3月末現在）により構成され、取締役会において承認された監査計画のもと、当社各部に対する内部監査を実施するほか、必要に応じて監査契約に基づき子銀行に対する内部監査を実施しております。また、監査結果については、定期的に取締役会等に報告を行っております。

監査役監査

各監査役は、株主の負託を受けた独立の機関として監査役会で定めた監査方針・監査計画等のもと、「監査役監査基準」「内部統制システムに係る監査の実施基準」等に基づき、「取締役会」及び「経営会議」等重要な会議への出席や重要書類の閲覧等を通じ、取締役の職務執行を監査します。

監査役と会計監査人は、定期的に情報交換の場を設け、監査における諸問題等について意見交換を行うなど、緊密に連携することで効率的かつ実効性の高い監査業務を行っております。また、子銀行監査役と連携を図り、監査役と内部監査部門においても、内部監査に監査役が立ち会ったり意見交換を行うなど、緊密に連携することで効率的かつ実効性の高い監査業務を行っております。

内部監査部門、監査役及び会計監査人は、意思疎通を十分に図って緊密に連携し、また、内部統制部門からの各種報告を受け、効率的かつ実効性の高い監査を実施するよう努めております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であります。また、社外監査役は2名であります。当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を定めておりませんが、選任に当たっては、当社並びに子会社との取引関係並びに取引所の独立役員に関する判断基準等を参考にしております。

社外取締役平松一夫は、学校法人関西学院の理事を務めております。

社外取締役平松一夫並びに学校法人関西学院と、当社並びに当社グループとの間に、人的関係、資本的关系及びその他の利害関係はありませんが、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があり、また、池田泉州銀行は、平成23年度において学校法人関西学院に対して寄附を行っております。社外取締役平松一夫が役員を兼職している住友電気工業株式会社と池田泉州銀行との間には通常の銀行取引が、新明和工業株式会社と池田泉州銀行との間には通常の銀行取引が、大同生命保険株式会社と池田泉州銀行との間には通常の銀行取引、資本的关系並びに保険代理店契約があります。社外取締役平松一夫は、学校法人及び企業における幅広い経験に基づき、当社取締役として業務執行に対する監督等の役割を果たしております。なお、社外取締役平松一夫は、池田泉州銀行の社外取締役を兼職しております。

社外監査役今中利昭は、東京証券取引所及び大阪証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であり、当社並びに当社グループとの間に、人的関係、資本的关系及びその他の利害関係はありませんが、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。社外監査役今中利昭が社員を務める弁護士法人関西法律特許事務所は、池田泉州銀行と法律顧問契約を締結しております。

社外監査役今中利昭は、弁護士資格を有し、また更生管財人として企業会計実務全般にも携わっているなど、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しており、専門的見地から監査役としての役割を果たしております。

社外監査役佐々木敏昭は学校法人泉州学園の理事長を務めております。

社外監査役佐々木敏昭並びに学校法人泉州学園と、当社並びに当社グループとの間に、人的関係及びその他の利害関係はありませんが、池田泉州銀行との間に通常の銀行取引があります。また、社外監査役佐々木敏昭は、当社普通株式を24,660株保有しております。

社外監査役佐々木敏昭は、長年に亘る金融機関の監査役としての豊富な経験及び幅広い見識により、監査役としての役割を果たしております。

当社は、取締役11名中1名を社外取締役として、監査役4名中2名を社外監査役として選任しており、社外取締役及び社外監査役の選任を通じて、継続的な企業価値の向上に十分な体制を整備しております。

社外取締役は、取締役会を通じて監査役監査、内部監査及び会計監査の状況並びに内部統制部門からの内部統制の状況の報告を受けており、提言・助言等を行っております。また、社外監査役は、常勤監査役から監査役監査、内部監査及び会計監査の状況並びに内部統制部門からの内部統制の状況の報告を受けており、提言・助言等を行っております。

役員の報酬等の内容（平成25年3月期）

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別			対象となる役員の員数(名)
		基本報酬	役員退職慰労引当金繰入額	その他	
取締役(社外取締役を除く)	50	50			17
監査役(社外監査役を除く)	41	41			3
社外役員	18	18			5

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員が存在しないため、記載しておりません。

ニ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬等の額については、経営環境や業績等を勘案し、株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、取締役の報酬は取締役会の決議により、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

当社は、子会社の経営管理を主たる業務としている会社であります。保有する株式は関係会社株式のみであり、投資株式は保有しておりません。

当社の連結子会社の中で、投資株式の最大保有会社に該当する株式会社池田泉州銀行について、その株式等の保有状況は以下のとおりであります。

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄数及び貸借対照表計上額

銘柄数 132銘柄
貸借対照表計上額の合計額 78,357百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

(特定投資株式)

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
ダイキン工業株式会社	2,468,000	5,526	取引関係維持・強化のため
南海電気鉄道株式会社	7,945,438	2,905	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	6,464,636	2,742	同上
株式会社シマノ	518,287	2,484	同上
株式会社クボタ	2,800,000	2,234	同上
株式会社大林組	5,612,619	2,076	同上
ダイハツ工業株式会社	1,300,996	1,955	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	13,146,847	1,822	同上
ロート製薬株式会社	1,496,264	1,506	同上
株式会社京都銀行	1,729,931	1,284	同上
塩野義製薬株式会社	1,050,987	1,197	同上
ダイソー株式会社	4,240,000	1,124	同上
株式会社南都銀行	2,738,000	1,107	同上
株式会社島精機製作所	700,000	1,096	同上

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
N K S Jホールディングス株式会社	493,573	950	取引関係維持・強化のため
株式会社ダスキン	550,000	912	同上
株式会社武蔵野銀行	290,460	830	同上
株式会社アシックス	864,000	829	同上
興銀リース株式会社	405,000	828	同上
因幡電機産業株式会社	305,523	766	同上
株式会社T & Dホールディングス	740,000	725	同上
東京海上ホールディングス株式会社	320,000	719	同上
飯野海運株式会社	1,745,200	668	同上
株式会社愛知銀行	129,399	644	同上
株式会社奥村組	1,905,000	617	同上
株式会社高松コンストラクショングループ	457,800	596	同上

(みなし保有株式)

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
ダイキン工業株式会社	782,000	1,761	議決権行使の指図
M S & A Dインシュアランスグループホールディングス株式会社	953,090	1,619	同上
阪急阪神ホールディングス株式会社	3,723,022	1,344	同上
株式会社大林組	2,732,583	986	同上

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

(当事業年度)

(特定投資株式)

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
ダイキン工業株式会社	2,468,000	9,268	取引関係維持・強化のため
株式会社シマノ	518,287	3,750	同上
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	6,464,636	3,597	同上
株式会社クボタ	2,800,000	3,556	同上
南海電気鉄道株式会社	7,945,438	3,279	同上
株式会社みずほフィナンシャルグループ	13,146,847	2,731	同上
株式会社大林組	5,612,619	2,632	同上
ダイハツ工業株式会社	1,300,996	2,524	同上
塩野義製薬株式会社	1,050,987	2,035	同上
ロート製薬株式会社	1,496,264	1,956	同上
株式会社京都銀行	1,729,931	1,522	同上
株式会社島精機製作所	700,000	1,467	同上
株式会社アシックス	864,000	1,308	同上
ダイソー株式会社	4,240,000	1,209	同上
飯野海運株式会社	1,745,200	1,147	同上

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
興銀リース株式会社	405,000	1,125	取引関係維持・強化のため
岩井コスモホールディングス株式会社	1,208,324	1,038	同上
株式会社ダスキン	550,000	1,027	同上
N K S Jホールディングス株式会社	493,573	1,020	同上
株式会社南都銀行	2,191,000	957	同上
因幡電機産業株式会社	305,523	897	同上
東京海上ホールディングス株式会社	320,000	886	同上
株式会社T & Dホールディングス	740,000	814	同上
株式会社奥村組	1,905,000	734	同上
株式会社愛知銀行	129,399	699	同上
株式会社高松コンストラクショングループ	457,800	658	同上

(みなし保有株式)

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
ダイキン工業株式会社	782,000	2,885	議決権行使の指図
阪急阪神ホールディングス株式会社	3,723,022	2,118	同上
M S & A Dインシュアランスグループホールディングス株式会社	953,090	1,969	同上
株式会社大林組	2,732,583	1,229	同上

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

八 保有目的が純投資目的である投資株式の貸借対照表計上額、受取配当額、売却損益及び評価損益
該当事項ありません。

二 当事業年度中に投資株式のうち、保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの
該当事項ありません。

ホ 当事業年度中に投資株式のうち、保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの
該当事項ありません。

その他

イ 当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めております。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款で定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとしております。

ロ 当社は、株主総会の普通決議要件について、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

ハ 当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

ニ 当社は、種類株主総会の普通決議要件について、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

ホ 当社は、会社法第324条第2項に定める種類株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、種類株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、種類株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

ヘ 当社は、機動的な資本政策の遂行を可能にするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

ト 当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

チ 当社は、資金調達を柔軟かつ機動的に行うための選択肢の多様化を図り、適切な資本政策を実行することを可能とするため、会社法第108条第1項第3号に定める内容について普通株式と異なる定めをした第一種優先株式、第二種優先株式、第三種優先株式、第四種優先株式及び第五種優先株式（以下「優先株式」と総称する。）についての定めを定款に定めております。優先株式の単元株式数は普通株式と同数の100株であり、優先株主は、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会において議決権を有しません。

ただし、優先配当金を受ける旨の議案が定時株主総会に提出されないときはその株主総会より、その議案が定時株主総会において否決されたときはその株主総会の終結の時より優先配当金を受ける旨の決議がある時まで議決権を有します。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	20		17	
連結子会社	114		83	
計	135		101	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

- 1 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)に準拠しております。
- 2 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。
- 3 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)の連結財務諸表及び事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。
- 4 当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には公益財団法人財務会計基準機構への加入や会計基準設定主体等の行う研修への参加により、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
現金預け金	134,000	100,867
コールローン及び買入手形	698	5,603
買入金銭債権	1,494	956
商品有価証券	69	108
金銭の信託	19,000	19,000
有価証券	1,199,965	1,169,201
	1, 8, 14	1, 8, 14
貸出金	3,516,142	3,578,225
	2, 3, 4, 5, 6, 7, 9	2, 3, 4, 5, 6, 7, 9
外国為替	4,328	4,376
	6	6
その他資産	58,831	73,975
	8	8
有形固定資産	38,439	38,105
	10, 11	10, 11
建物	16,246	16,213
土地	15,868	15,868
リース資産	18	23
建設仮勘定	2	-
その他の有形固定資産	6,304	6,000
無形固定資産	9,039	7,617
ソフトウェア	8,077	6,796
その他の無形固定資産	962	820
繰延税金資産	32,844	29,478
支払承諾見返	26,114	21,758
貸倒引当金	48,304	54,814
資産の部合計	4,992,667	4,994,458
負債の部		
預金	4,390,453	4,490,736
	8	8
債券貸借取引受入担保金	237,307	124,915
	8	8
借入金	69,764	71,909
	8, 12	8, 12
外国為替	431	208
社債	53,000	50,000
	13	13
その他負債	44,800	42,239
賞与引当金	1,749	1,708
退職給付引当金	4,515	4,511
役員退職慰労引当金	335	136
睡眠預金払戻損失引当金	258	315
ポイント引当金	141	163
偶発損失引当金	473	393
繰延税金負債	2	68
負ののれん	7	5
支払承諾	26,114	21,758
負債の部合計	4,829,355	4,809,069

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
純資産の部		
資本金	72,311	72,311
資本剰余金	72,675	62,235
利益剰余金	30,910	35,431
自己株式	1,944	1,350
株主資本合計	173,952	168,627
その他有価証券評価差額金	11,878	7,808
繰延ヘッジ損益	2	0
その他の包括利益累計額合計	11,880	7,809
新株予約権	62	63
少数株主持分	1,177	8,888
純資産の部合計	163,311	185,389
負債及び純資産の部合計	4,992,667	4,994,458

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
経常収益	115,952	111,558
資金運用収益	70,913	64,383
貸出金利息	58,450	54,701
有価証券利息配当金	12,290	9,470
コールローン利息及び買入手形利息	58	81
預け金利息	22	17
その他の受入利息	91	112
役務取引等収益	16,265	17,900
その他業務収益	18,132	16,543
その他経常収益	10,640	12,730
睡眠預金払戻損失引当金戻入益	50	-
償却債権取立益	1,321	1,419
その他の経常収益	9,269	11,310
経常費用	105,047	98,752
資金調達費用	10,776	9,394
預金利息	7,937	6,769
譲渡性預金利息	0	0
コールマネー利息及び売渡手形利息	9	1
債券貸借取引支払利息	978	554
借入金利息	857	944
社債利息	887	1,090
その他の支払利息	106	33
役務取引等費用	5,284	5,307
その他業務費用	6,977	7,290
営業経費	56,243	54,460
その他経常費用	25,764	22,298
貸倒引当金繰入額	6,679	7,878
その他の経常費用	19,085	14,419
経常利益	10,905	12,806
特別利益	187	491
負ののれん発生益	187	491
特別損失	435	99
固定資産処分損	269	74
減損損失	166	25
税金等調整前当期純利益	10,656	13,197
法人税、住民税及び事業税	616	998
法人税等調整額	6,082	1,784
法人税等合計	6,698	2,783
少数株主損益調整前当期純利益	3,958	10,414
少数株主利益	147	312
当期純利益	3,810	10,102

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	3,958	10,414
その他の包括利益	¹ 1,036	¹ 19,717
その他有価証券評価差額金	1,018	19,714
繰延ヘッジ損益	17	2
包括利益	4,995	30,132
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,833	29,792
少数株主に係る包括利益	161	340

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	72,311	72,311
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	72,311	72,311
資本剰余金		
当期首残高	83,063	72,675
当期変動額		
自己株式の処分	1	73
自己株式の消却	10,389	10,366
当期変動額合計	10,388	10,439
当期末残高	72,675	62,235
利益剰余金		
当期首残高	33,125	30,910
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
合併による増減	-	3
当期純利益	3,810	10,102
当期変動額合計	2,214	4,520
当期末残高	30,910	35,431
自己株式		
当期首残高	116	1,944
当期変動額		
自己株式の取得	12,488	10,369
自己株式の処分	270	596
自己株式の消却	10,389	10,366
当期変動額合計	1,828	593
当期末残高	1,944	1,350
株主資本合計		
当期首残高	188,383	173,952
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
合併による増減	-	3
当期純利益	3,810	10,102
自己株式の取得	12,488	10,369
自己株式の処分	272	523
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	14,431	5,325
当期末残高	173,952	168,627

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	12,884	11,878
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,005	19,686
当期変動額合計	1,005	19,686
当期末残高	11,878	7,808
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	19	2
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	17	2
当期変動額合計	17	2
当期末残高	2	0
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	12,904	11,880
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,023	19,689
当期変動額合計	1,023	19,689
当期末残高	11,880	7,809
新株予約権		
当期首残高	6	62
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	55	1
当期変動額合計	55	1
当期末残高	62	63
少数株主持分		
当期首残高	1,197	1,177
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	20	7,711
当期変動額合計	20	7,711
当期末残高	1,177	8,888
純資産合計		
当期首残高	176,684	163,311
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
合併による増減	-	3
当期純利益	3,810	10,102
自己株式の取得	12,488	10,369
自己株式の処分	272	523
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,058	27,402
当期変動額合計	13,372	22,077
当期末残高	163,311	185,389

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	10,656	13,197
減価償却費	4,391	5,004
減損損失	166	25
のれん償却額	5	84
負ののれん償却額	2	2
負ののれん発生益	187	491
持分法による投資損益(は益)	38	1
貸倒引当金の増減()	5,555	6,510
賞与引当金の増減額(は減少)	28	41
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,010	3
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	51	198
睡眠預金払戻損失引当金の増減()	50	56
ポイント引当金の増減額(は減少)	5	22
統合関連損失引当金の増減()	717	-
偶発損失引当金の増減()	7	79
資金運用収益	70,913	64,383
資金調達費用	10,776	9,394
有価証券関係損益()	8,812	7,269
金銭の信託の運用損益(は運用益)	285	64
為替差損益(は益)	2,592	20,465
固定資産処分損益(は益)	269	74
貸出金の純増()減	15,125	62,082
預金の純増減()	41,582	100,282
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減()	15,347	8,645
預け金(日銀預け金を除く)の純増()減	8	2,500
商品有価証券の純増()減	32	39
コールローン等の純増()減	881	4,366
債券貸借取引受入担保金の純増減()	64,581	112,392
外国為替(資産)の純増()減	1,882	47
外国為替(負債)の純増減()	49	223
資金運用による収入	71,137	65,857
資金調達による支出	13,372	11,219
その他	313	102
小計	117,368	76,486
法人税等の支払額	369	908
営業活動によるキャッシュ・フロー	116,999	77,395

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	1,650,619	1,056,879
有価証券の売却による収入	1,333,067	830,989
有価証券の償還による収入	201,719	287,658
金銭の信託の増加による支出	339	205
金銭の信託の減少による収入	39	135
有形固定資産の取得による支出	2,904	2,689
無形固定資産の取得による支出	5,279	668
有形固定資産の売却による収入	51	27
資産除去債務の履行による支出	-	22
投資活動によるキャッシュ・フロー	124,263	58,346
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入れによる収入	10,000	7,000
劣後特約付借入金返済による支出	-	13,500
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の発行による収入	35,000	-
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	30,000	3,000
少数株主からの払込みによる収入	-	8,000
配当金の支払額	6,024	5,585
少数株主への配当金の支払額	-	19
自己株式の取得による支出	12,488	10,369
自己株式の処分による収入	270	596
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,243	16,877
現金及び現金同等物に係る換算差額	168	291
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	10,339	35,634
現金及び現金同等物の期首残高	141,335	130,996
現金及び現金同等物の期末残高	130,996	95,361

注記事項

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 30社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

(連結の範囲の変更)

池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社、池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社、池田泉州キャピタル事業承継ファンド絆投資事業有限責任組合及び池田泉州キャピタル夢仕込ファンドO I投資事業有限責任組合は新規設立により、池田泉州ファイナンス株式会社は池田泉州キャピタル株式会社を会社分割（新設分割）したことにより、それぞれ当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

前連結会計年度において連結子会社であったハイ・プレーン株式会社（現商号 池田泉州システム株式会社）とエス・アイ・ソフト株式会社は、平成24年11月1日にハイ・プレーン株式会社を存続会社として合併いたしました。

(2) 非連結子会社

会社名

Ikeda Preferred Capital Cayman Limited

非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

(2) 持分法適用の関連会社 3社

会社名

株式会社自然総研

株式会社バンク・コンピュータ・サービス

株式会社ステーションネットワーク関西

(3) 持分法非適用の非連結子会社

会社名

Ikeda Preferred Capital Cayman Limited

(4) 持分法非適用の関連会社

該当ありません。

持分法非適用の非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。

12月末日 12社

3月末日 18社

(2) 連結子会社のうち、決算日が連結決算日と異なる子会社については、各社の決算日の財務諸表により連結しております。なお、連結決算日との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券については原則として連結決算日の市場価格等(株式及び投資信託については連結決算日前1カ月の市場価格等の平均)に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(ロ) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び連結子会社の有形固定資産は、主として定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～50年

その他 2年～20年

無形固定資産(リース資産を除く)

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当社及び連結子会社で定める利用可能期間(主として5年)に基づいて償却しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

(5) 貸倒引当金の計上基準

銀行業を営む連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

銀行業以外の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は56,999百万円(前連結会計年度末は61,781百万円)であります。

(6) 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7) 退職給付引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、過去勤務債務及び数理計算上の差異の費用処理方法は次のとおりであります。

過去勤務債務：その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(11年～12年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(11年～12年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から損益処理

なお、会計基準変更時差異(9,894百万円)については、15年による按分額を費用処理しております。

(8) 役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

(9) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。

(10) ポイント引当金の計上基準

ポイント引当金は、ポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を見積り、必要と認められる額を計上しております。

(11) 偶発損失引当金の計上基準

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積り、必要と認められる額を計上しております。

(12) 外貨建の資産・負債の本邦通貨への換算基準

連結子会社の外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(13) リース取引の処理方法

(借手側)

連結子会社の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

(貸手側)

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準については、リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、期首に前連結会計年度末における固定資産の減価償却累計額控除後の額で契約したものとしております。

(14) 重要なヘッジ会計の方法

(イ)金利リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結子会社の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号。以下「業種別監査委員会報告第24号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。

また、一部の連結子会社において、金利スワップの特例処理を行っております。

(ロ)為替変動リスク・ヘッジ

銀行業を営む連結子会社の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

(15) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却を行っております。ただし、当連結会計年度に発生したのれんについては、1年間で償却しております。

(16) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(17) 消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、主として税抜方式によっております。

【未適用の会計基準等】

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

(1) 概要

当該会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、主に 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法を変更し、開示項目を拡充するほか、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を改正するものであります。

(2) 適用予定日

当社は については、平成25年4月1日に開始する連結会計年度の年度末に係る連結財務諸表から適用し、 については、平成26年4月1日に開始する連結会計年度の期首から適用する予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響は、現在評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社の株式の総額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
株式	234百万円	236百万円

2 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
破綻先債権額	6,364百万円	5,355百万円
延滞債権額	53,016百万円	68,436百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
3カ月以上延滞債権額	51百万円	14百万円

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
貸出条件緩和債権額	7,401百万円	14,349百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
合計額	66,833百万円	88,156百万円

なお、上記2から5に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

- 6 手形割引は、業種別監査委員会報告第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
21,947百万円	20,956百万円

- 7 ローン・パーティシペーションで、平成7年6月1日付日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、連結貸借対照表計上額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
16,500百万円	15,600百万円

- 8 担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
担保に供している資産		
有価証券	363,766百万円	244,044百万円
その他資産	2,573 "	1,608 "
計	366,340 "	245,652 "
担保資産に対応する債務		
預金	2,833 "	2,685 "
債券貸借取引受入担保金	237,307 "	124,915 "
借入金	30,101 "	34,487 "

上記のほか、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
有価証券	74,602百万円	38,516百万円

また、その他資産には、先物取引差入証拠金、保証金、先物取引負担金及び金融商品等差入担保金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
先物取引差入証拠金	2,330百万円	2,778百万円
保証金	5,243百万円	5,143百万円
先物取引負担金	503百万円	503百万円
金融商品等差入担保金	500百万円	500百万円

前連結会計年度にデリバティブ取引担保金として注記しておりました500百万円は「銀行法施行規則」(昭和57年大蔵省令第10号)改正により、当連結会計年度より金融商品等差入担保金と組み替えております。

- 9 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
融資未実行残高	656,430百万円	662,018百万円
うち原契約期間が1年以内のもの (又は任意の時期に無条件で取消 可能なもの)	649,505百万円	651,749百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- 10 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
減価償却累計額	40,971百万円	42,104百万円

- 11 有形固定資産の圧縮記帳額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
圧縮記帳額	517百万円	517百万円
(当該連結会計年度の圧縮記帳額)	(百万円)	(百万円)

- 12 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金が含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
劣後特約付借入金	31,500百万円	25,000百万円

- 13 社債は、劣後特約付無担保社債であります。

- 14 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	19,723百万円	12,460百万円

(連結損益計算書関係)

1 その他の経常費用には、次のものを含んでおります。(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日)	(自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日)
貸出金償却		5,504		4,646
統合関連費用		4,005		247
債権譲渡損		1,133		633
株式等償却		462		327
株式等売却損		454		976
金銭の信託運用損		326		202
保証協会負担金		310		418
社債発行費用		207		

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日)	(自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金				
当期発生額		7,277		23,589
組替調整額		6,183		2,229
税効果調整前		1,093		21,359
税効果額		74		1,645
その他有価証券評価差額金		1,018		19,714
繰延ヘッジ損益				
当期発生額		79		19
組替調整額		97		25
税効果調整前		17		5
税効果額		0		2
繰延ヘッジ損益		17		2
その他の包括利益合計		1,036		19,717

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位:千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,192,293			1,192,293	
第一種優先株式	111,000		37,000	74,000	注 4
第二種優先株式	115,625			115,625	
合計	1,418,918		37,000	1,381,918	
自己株式					
普通株式	1,008	18,274	2,353	16,929	注 1、2
第一種優先株式		37,000	37,000		注 3、4
合計	1,008	55,274	39,353	16,929	

(注) 1 普通株式の自己株式の増加18,274千株は、単元未満株式の買取による取得1千株及び池田泉州銀行従業員持株会専用信託の取得18,273千株によるものであります。

2 普通株式の自己株式の減少2,353千株は、単元未満株式の買増請求による処分0千株、ストック・オプションの権利行使による譲渡69千株及び池田泉州銀行従業員持株会専用信託から池田泉州銀行従業員持株会への譲渡2,283千株によるものであります。

3 第一種優先株式の自己株式の増加37,000千株は、株主総会議に基づく自己株式の取得であります。

4 第一種優先株式の発行済株式並びに自己株式の減少37,000千株は、取締役会議に基づく自己株式の消却であります。

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)			当連結会計 年度末残高 (百万円)	摘要
			当連結 会計年度 期首	当連結会計年度			
				増加	減少		
当社	ストック・オプションとしての新株予約権					62	

3 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年 6月28日 定時株主総会	普通株式	3,573	3	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日
	第一種優先株式	1,176	196を18.5で 除した額	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日
	第二種優先株式	1,275	204を18.5で 除した額	平成23年 3月31日	平成23年 6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6月28日 定時株主総会	普通株式	3,574	その他 利益剰余金	3	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日
	第一種 優先株式	784	その他 利益剰余金	196を18.5で 除した額	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日
	第二種 優先株式	1,275	その他 利益剰余金	204を18.5で 除した額	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	1,192,293		953,834	238,458	注1
第一種優先株式	74,000		66,600	7,400	注2
第二種優先株式	115,625		92,500	23,125	注1
合計	1,381,918		1,112,934	268,983	
自己株式					
普通株式	16,929	6	14,583	2,352	注3、4
第一種優先株式		7,400	7,400		注5、6
合計	16,929	7,406	21,983	2,352	

(注) 1 普通株式の発行済株式の減少953,834千株及び第二種優先株式の発行済株式の減少92,500千株は、株式併合による減少であります。

2 第一種優先株式の発行済株式の減少66,600千株は、株式併合による減少59,200千株及び取締役会決議に基づく自己株式の消却7,400千株であります。

3 普通株式の自己株式の増加6千株は、単元未満株式の買取による取得(株式併合前：0千株、株式併合後：5千株)によるものであります。

4 普通株式の自己株式の減少14,583千株は、株式併合による減少11,630千株、単元未満株式の買取請求による処分0千株(株式併合前：0千株、株式併合後：0千株)、ストック・オプションの権利行使による譲渡298千株(株式併合前：298千株)及び池田泉州銀行従業員持株会への譲渡2,653千株(株式併合前：2,093千株、株式併合後：560千株)によるものであります。

5 第一種優先株式の自己株式の増加7,400千株は、株主総会議に基づく自己株式の取得であります。

6 第一種優先株式の自己株式の減少7,400千株は、取締役会決議に基づく自己株式の消却であります。

2 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる 株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)			当連結会計 年度末残高 (百万円)	摘要	
			当連結 会計年度 期首	当連結会計年度				当連結 会計年度末
				増加	減少			
当社	ストック・オプションとしての新株予約権				63			

3 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	3,574	3	平成24年3月31日	平成24年6月29日
	第一種優先株式	784	196を18.5で 除した額	平成24年3月31日	平成24年6月29日
	第二種優先株式	1,275	204を18.5で 除した額	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,574	その他 利益剰余金	15	平成25年3月31日	平成25年6月27日
	第一種 優先株式	392	その他 利益剰余金	980を18.5で 除した額	平成25年3月31日	平成25年6月27日
	第二種 優先株式	1,275	その他 利益剰余金	1,020を18.5 で 除した額	平成25年3月31日	平成25年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金預け金勘定	134,000百万円	100,867百万円
当座預け金	664百万円	209百万円
普通預け金	1,001百万円	2,658百万円
通知預け金	30百万円	30百万円
定期預け金	1,095百万円	2,085百万円
振替貯金	212百万円	522百万円
現金及び現金同等物	130,996百万円	95,361百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

車両であります。

(イ)無形固定資産

該当ありません。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項」の「(4) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
有形固定資産	38	35		3
無形固定資産				
合計	38	35		3

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法によっております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
有形固定資産	10	10		0
無形固定資産				
合計	10	10		0

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法によっております。

未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	2	0
1年超	0	
合計	3	0
リース資産減損勘定の残高		

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法によっております。

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
支払リース料	6	2
リース資産減損勘定の取崩額		
減価償却費相当額	6	2
減損損失		

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3月31日)
1年内	619	644
1年超	4,867	4,865
合計	5,486	5,509

[次へ](#)

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、池田泉州銀行を中心に、地域金融機関として各種金融サービスに係る事業を行っています。主たる業務である預金業務、貸出業務ならびに有価証券運用等のマーケット業務において、金利変動及び市場価格の変動を伴う金融資産及び金融負債を有しています。市場環境等の変化に応じた戦略目標等の策定に資するため、これらの資産及び負債の総合的管理(A L M)を行うとともに、その一環として、デリバティブ取引を行っています。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当社グループが保有する金融資産は、主として国内の取引先及び個人に対する貸出金であり、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスク及び金利の変動リスクに晒されています。

また、保有有価証券は、主に株式、債券、投資信託等であり、その他有価証券として、純投資目的及び政策投資目的で保有しているほか、一部は満期保有目的の債券、売買目的有価証券として保有しています。

これらは、それぞれ発行体の信用リスク及びマーケット(金利・株価・為替等)の変動に伴う市場リスクに晒されています。

主な金融負債である預金については、予期せぬ資金流出が発生するなどの流動性リスクが存在します。また、そのほかの調達資金については、一定の環境の下で当社グループが市場を利用できなくなる場合等において必要な資金が確保できない、あるいは、通常よりも高い金利での資金調達を余儀なくされるといった流動性リスクに晒されています。また、これらの金融負債は、金融資産と同様、金利変動リスクに晒されています。

デリバティブ取引は、顧客ニーズへの対応や、資産・負債のリスクコントロール手段を主な目的として利用しています。また、トレーディング(短期的な売買差益獲得)の一環として、債券や株式の先物取引等を利用しています。これらのデリバティブ取引は、取引相手先の契約不履行などに係る信用リスク(カウンターパーティーリスク)及びマーケット(金利・株価・為替等)の変動に伴う市場リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社グループは、フロント部門から独立したリスク管理部署を設置し、リスク管理についての基本方針を定めています。具体的には、リスク管理に関する体制及びリスク管理基本規定等の諸規定を取締役会で定め、リスクカテゴリー毎の責任部署を明確にするとともに、それらを統括するリスク管理統括部署を設置しています。

さらに、「リスク管理委員会」並びに「A L M委員会」を設置し、当社グループのリスクの状況を把握するとともに、課題及び対応策を審議しています。それらの審議事項を取締役会等に付議・報告することにより、経営レベルでの実効性のあるリスク管理体制を構築しています。

統合的リスク管理

当社グループは、当社のリスク管理基本規定及び統合的リスク管理に関する諸規定に従い、統合的リスク管理を行っています。

具体的には、自己資本比率の算定に含まれない与信集中リスクや銀行勘定の金利リスク等も含めて、信用リスクや市場リスク等のリスクカテゴリー毎の方法で評価したリスクを統合的に捉え、経営体力(自己資本)と対比することによって、統合的な管理を行っています。

信用リスクの管理

当社グループは、当社の信用リスク管理規定及び信用リスク管理に関する諸規定に従い、与信ポートフォリオの分析・管理を行っています。また、個別案件の与信管理については、審査、内部格付、資産自己査定等の体制を整備し運営しています。

これらの与信管理は、傘下銀行の各営業店、審査部署、リスク管理部署により行われ、有価証券の発行体の信用リスク及びデリバティブ取引のカウンターパーティーリスクについても、リスク管理部署が、信用情報や時価の把握をモニタリングしています。また、当社においても定期的に取締役会等へ報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、監査部署が監査をしています。

市場リスクの管理

(i)市場リスク管理

当社グループは、当社の市場リスク管理規定及び市場リスク管理に関する諸規定に従い、マーケット(金利・株価・為替等)の変動に伴う市場リスクの管理を行っています。具体的には、リスク管理部署がバリュー・アット・リスク(V a R)を用いて市場リスク量を把握するとともに、市場リスク量を一定の範囲内にコントロールすることを目的として、継続的なモニタリングを実施し、リスク限度額の遵守状況を監視しています。有価証券については、上記のリスク限度額管理に加えて、損失に上限を設定し、管理しています。なお、これらの情報はリスク管理部署から、リスク管理委員会及び取締役会へ定期的に報告されています。

また、A L M委員会において、資産・負債構造ならびに金利リスクの把握・確認を行うとともに、今後の対応等の協議を行っています。具体的には、A L M担当部署において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等を行うことにより、安定的かつ継続的な収益の確保に努めています。

なお、傘下銀行において外為取引や外債投資等の為替リスクを伴う取引を行っていますが、為替持高をできるだけスクウェアに近い状態にすることで、為替リスクの低減に努めています。

()デリバティブ取引

デリバティブ取引に関しては、取引の執行、リスク管理、事務管理に関する部門をそれぞれ分離し内部牽制を図るとともに、市場リスク管理に関する諸規定に従い取引を行っています。

()市場リスクに係る定量的情報

市場リスクは他のリスクに比べて日々の変動が大きいため、当社グループでは、預金、貸出金や有価証券などの金融商品の市場リスク量を、V a Rを用いて日次で把握、管理しています。

このV a R算定にあたっては、分散共分散法(保有期間120営業日、信頼区間99.0%、観測期間240営業日)を採用しています。

平成25年3月31日(当期の連結決算日)現在で当社グループの金融商品の市場リスク量(損失額の推計値)は、金利が100億円、株式が152億円となっています。また、相関を考慮した市場リスク量全体では340億円となっています。

なお、当社グループでは、金融商品のうち市場変動の影響が大きい有価証券関連のV a Rについて、市場リスク計測モデルの正確性を検証するために、モデルが算出した保有期間1日のV a Rと実際の損益を比較するバックテストングを実施しています。

平成24年度分に関して実施したバックテストングの結果、実際の損失がV a Rを超えた回数は1回であり、使用する計測モデルは十分な精度により市場リスクを捕捉しているものと考えています。

ただし、V a Rは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

資金調達に係る流動性リスクの管理

当社グループは、当社の資金流動性リスク管理規定及び資金流動性リスク管理に関する諸規定に従い、資金調達に係る流動性リスクの管理を行っています。

具体的には、傘下銀行のA L M担当部署や資金為替担当部署が、グループ全体の運用・調達状況を適時適切に把握するとともに、保有資産の流動性の確保や調達手段の多様化を図るなど、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、安定した資金繰りの確保に努めています。

また、リスク管理部署は、短期間に資金化可能な流動性準備資産額を定期的に確認することで、流動性リスク顕現化時の対応力を把握するとともに、資金繰り管理の適切性をモニタリングし、リスク管理委員会や取締役会等に報告しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。

当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	134,000	134,000	
(2) コールローン及び買入手形	698	698	
(3) 買入金銭債権(*1)	1,473	1,473	
(4) 商品有価証券			
売買目的有価証券	69	69	
(5) 金銭の信託	19,000	19,000	
(6) 有価証券			
満期保有目的の債券	49,953	50,428	474
その他有価証券	1,142,714	1,142,714	
(7) 貸出金	3,516,142		
貸倒引当金(*1)	45,571		
	3,470,571	3,495,031	24,460
(8) 外国為替(*1)	4,323	4,328	4
資産計	4,822,805	4,847,744	24,939
(1) 預金	4,390,453	4,392,564	2,111
(2) 債券貸借取引受入担保金	237,307	237,307	
(3) 借入金	69,764	69,780	15
(4) 外国為替	431	431	
(5) 社債	53,000	52,666	333
負債計	4,750,957	4,752,751	1,793
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	145	145	
ヘッジ会計が適用されているもの	(2)	(2)	
デリバティブ取引計	143	143	

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、買入金銭債権及び外国為替に対する貸倒引当金については、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金預け金	100,867	100,867	
(2) コールローン及び買入手形	5,603	5,603	
(3) 買入金銭債権(*1)	946	946	
(4) 商品有価証券			
売買目的有価証券	108	108	
(5) 金銭の信託	19,000	19,000	
(6) 有価証券			
満期保有目的の債券	48,079	48,582	503
その他有価証券	1,113,986	1,113,986	
(7) 貸出金	3,578,225		
貸倒引当金(*1)	51,929		
	3,526,295	3,546,899	20,603
(8) 外国為替(*1)	4,374	4,376	1
資産計	4,819,262	4,840,370	21,107
(1) 預金	4,490,736	4,491,736	1,000
(2) 債券貸借取引受入担保金	124,915	124,915	
(3) 借入金	71,909	72,631	721
(4) 外国為替	208	208	
(5) 社債	50,000	51,167	1,167
負債計	4,737,769	4,740,659	2,889
デリバティブ取引(*2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(615)	(615)	
ヘッジ会計が適用されているもの	616	616	
デリバティブ取引計	1	1	

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、買入金銭債権及び外国為替に対する貸倒引当金については、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) コールローン及び買入手形

これらは、残存期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 買入金銭債権

ファクタリング業務に係る債権は、貸出金と同様の方法により算定しております。

(4) 商品有価証券

ディーリング業務のために保有している債券等の有価証券については、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

(5) 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券については、株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

なお、保有目的ごとの金銭の信託に関する注記事項については、「(金銭の信託関係)」に記載しております。

(6) 有価証券

株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。投資信託は、公表されている基準価格によっております。

自行保証付私募債は、貸出金と同様の方法により算定しております。

なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「(有価証券関係)」に記載しております。

(7) 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、見積将来キャッシュ・フローの現在価値又は担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該価額を時価としております。

貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。

(8) 外国為替

外国為替は、他の銀行に対する外貨預け金(外国他店預け)、輸出手形・旅行小切手等(買入外国為替)及び輸入手形による手形貸付(取立外国為替)であります。これらは、満期のない預け金、又は約定期間が短期間(1年以内)であり、それぞれ時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

負債

(1) 預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしております。また、定期預金の時価は、一定の期間ごとに区分して、将来のキャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(2) 債券貸借取引受入担保金

約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(3) 借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社並びに連結子会社の信用状態は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額(金利スワップの特例処理の対象とされた借入金については、その金利スワップのレートによる元利金の合計額)を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。なお、約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(4) 外国為替

外国為替は、売渡外国為替及び未払外国為替であり、これらは、約定期間が短期間(1年以内)であり、それぞれ時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。

(5) 社債

連結子会社の発行する社債の時価は、市場価格によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、「(デリバティブ取引関係)」に記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「資産(6) 有価証券」には含まれておりません。

区分	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式(*1)(*2)	5,756	5,652
組合出資金(*3)	1,302	1,241
その他	4	4
合計	7,063	6,899

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 前連結会計年度において、非上場株式について146百万円減損処理を行っております。
当連結会計年度において、非上場株式について114百万円減損処理を行っております。

(*3) 組合出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	76,520					
コールローン及び買入手形	698					
買入金銭債権(*1)	1,473					
有価証券	130,922	356,758	236,190	158,382	34,704	137,395
満期保有目的の債券	14,600	21,100	14,300			
うち社債	14,600	21,100	12,300			
その他			2,000			
その他有価証券のうち 満期があるもの	116,322	335,658	221,890	158,382	34,704	137,395
うち国債	30,000	221,500	87,000	40,000	17,000	
地方債	25,264	37,596	12,593	350	1,530	
社債	52,076	35,742	35,881	1,908	2,404	51,114
その他	8,982	40,819	86,416	116,123	13,770	86,280
貸出金(*1,2)	638,106	520,613	451,224	266,155	325,631	1,226,163
外国為替	4,328					
合計	852,049	877,372	687,414	424,537	360,336	1,363,558

(*1) 貸出金及び買入金銭債権のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない
88,269百万円は含めておりません。

(*2) 貸出金のうち当座貸越については、「1年以内」に含めて開示しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	41,255					
コールローン及び買入手形	5,603					
買入金銭債権(*1)	946					
有価証券	359,739	198,046	224,855	49,130	34,635	104,762
満期保有目的の債券	7,000	21,700	19,400			
うち社債	7,000	21,700	3,400			
その他			16,000			
その他有価証券のうち 満期があるもの	352,739	176,346	205,455	49,130	34,635	104,762
うち国債	316,500	41,000	2,000	21,000	18,500	
地方債	13,056	39,322	1,770	740	1,050	
社債	18,773	67,362	56,247	2,724	303	49,493
その他	4,409	28,662	145,437	24,666	14,782	55,268
貸出金(*1,2)	682,522	574,916	427,255	279,146	326,430	1,212,848
外国為替	4,376					
合計	1,094,444	772,963	652,110	328,277	361,066	1,317,611

(*1) 貸出金及び買入金銭債権のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない
75,113百万円は含めておりません。

(*2) 貸出金のうち当座貸越については、「1年以内」に含めて開示しております。

(注4) 社債、借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成24年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*1)	4,021,132	331,424	36,258	613	1,024	
債券貸借取引受入担保金	237,307					
借入金(*2)	34,247	1,532	2,484	1,500	18,000	
社債(*3)					50,000	
合計	4,292,688	332,956	38,743	2,113	69,024	

(*1) 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

(*2) 借入金のうち、返済期限の定めのないもの12,000百万円は含めておりません。

(*3) 社債のうち、返済期限の定めのないもの3,000百万円は含めておりません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*1)	4,134,093	289,726	38,917	455	1,041	
債券貸借取引受入担保金	124,915					
借入金	42,144	2,161	2,427	8,176	17,000	
社債					50,000	
合計	4,301,152	291,888	41,344	8,631	68,041	

(*1) 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

[次へ](#)

(有価証券関係)

- 1 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「商品有価証券」を含めて記載しております。
 - 2 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。
- 1 売買目的有価証券

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
連結会計年度の損益に 含まれた評価差額(百万円)	0	0

2 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えるもの	国債			
	地方債			
	短期社債			
	社債	46,655	47,157	502
	その他			
	小計	46,655	47,157	502
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えないもの	国債			
	地方債			
	短期社債			
	社債	1,297	1,282	14
	その他	2,000	1,987	12
	小計	3,297	3,270	27
合計		49,953	50,428	474

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えるもの	国債			
	地方債			
	短期社債			
	社債	32,079	32,451	372
	その他	12,000	12,186	186
	小計	44,079	44,638	559
時価が連結貸借 対照表計上額を 超えないもの	国債			
	地方債			
	短期社債			
	社債			
	その他	4,000	3,944	55
	小計	4,000	3,944	55
合計		48,079	48,582	503

3 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	株式	18,923	14,087	4,836
	債券	550,668	547,680	2,987
	国債	339,635	339,286	349
	地方債	52,884	52,310	573
	短期社債			
	社債	158,148	156,083	2,064
	その他	178,715	175,826	2,888
	小計	748,307	737,594	10,712
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないもの	株式	37,368	48,046	10,678
	債券	106,930	107,340	410
	国債	58,746	59,047	301
	地方債	25,087	25,094	6
	短期社債			
	社債	23,096	23,198	102
	その他	250,108	261,402	11,294
	小計	394,407	416,790	22,383
合計		1,142,714	1,154,385	11,670

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	株式	50,474	35,019	15,454
	債券	517,138	514,509	2,628
	国債	311,751	311,496	254
	地方債	29,672	29,378	293
	短期社債			
	社債	175,714	173,634	2,079
	その他	223,657	213,974	9,682
	小計	791,269	763,503	27,766
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないもの	株式	19,711	22,513	2,802
	債券	137,495	137,656	161
	国債	89,410	89,518	107
	地方債	26,660	26,668	8
	短期社債			
	社債	21,424	21,469	44
	その他	165,509	180,623	15,113
	小計	322,716	340,793	18,076
合計		1,113,986	1,104,297	9,689

4 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

5 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	995	305	440
債券	695,608	7,310	226
国債	661,250	6,892	156
地方債	1,011	14	
短期社債			
社債	33,346	403	69
その他	637,226	9,085	1,497
合計	1,333,830	16,700	2,164

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	3,774	338	970
債券	287,603	2,315	269
国債	198,714	821	162
地方債	10,719	141	
短期社債			
社債	78,169	1,352	107
その他	554,332	13,046	1,161
合計	845,710	15,699	2,402

6 保有目的を変更した有価証券

当連結会計年度中に、満期保有目的の債券1,300百万円の保有目的を、債券の発行者の信用状態の著しい悪化の理由により変更し、その他有価証券に区分しております。この変更による経常利益、税金等調整前当期純利益及び当期純利益への影響はありません。

7 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当該連結会計年度の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、3,283百万円(うち、株式315百万円、投資信託2,967百万円)であります。

当連結会計年度における減損処理額は、212百万円(すべて株式)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、取得原価に比べて時価が50%以上下落した場合、または、時価が30%以上50%未満下落した場合においては、過去の一定期間における時価の推移並びに当該発行会社の信用リスク等を勘案した基準により行っております。

(金銭の信託関係)

1 運用目的の金銭の信託

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額(百万円)	連結会計年度の損益 に含まれた評価差額(百万円)
運用目的の金銭の信託	19,000	0

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額(百万円)	連結会計年度の損益 に含まれた評価差額(百万円)
運用目的の金銭の信託	19,000	49

2 満期保有目的の金銭の信託

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

3 その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(その他有価証券評価差額金)

連結貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	金額(百万円)
評価差額	11,670
その他有価証券	11,670
その他の金銭の信託	
()繰延税金負債	167
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	11,838
()少数株主持分相当額	40
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る 評価差額金のうち親会社持分相当額	
その他有価証券評価差額金	11,878

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	金額(百万円)
評価差額	9,689
その他有価証券	9,689
その他の金銭の信託	
()繰延税金負債	1,813
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	7,876
()少数株主持分相当額	67
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る 評価差額金のうち親会社持分相当額	
その他有価証券評価差額金	7,808

[前へ](#) [次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建				
	買建				
	通貨オプション				
	売建				
	買建				
店頭	通貨スワップ	74,353	44,764	116	116
	為替予約				
	売建	2,431		26	26
	買建	2,330		55	55
	通貨オプション				
	売建	10,686	6,768	988	84
	買建	10,686	6,768	988	217
	その他				
	売建				
	買建				
	合計			145	278

(注) 1 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
金融商品 取引所	通貨先物				
	売建				
	買建				
	通貨オプション				
	売建				
	買建				
店頭	通貨スワップ	46,607	36,111	75	75
	為替予約				
	売建	35,471		673	673
	買建	8,260		17	17
	通貨オプション				
	売建	6,938	4,792	351	271
	買建	6,938	4,792	351	186
	その他				
	売建				
	買建				
	合計			615	530

(注) 1 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(4) 債券関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(5) 商品関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理 方法	金利スワップ 受取固定・支払変動 受取変動・支払固定 金利先物 金利オプション その他				
金利スワップ の特例処理	金利スワップ 受取固定・支払変動 受取変動・支払固定	借入金	450	100	(注) 2
	合計				

(注) 1 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は「(金融商品関係)」の当該借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理 方法	金利スワップ 受取固定・支払変動 受取変動・支払固定 金利先物 金利オプション その他				
金利スワップ の特例処理	金利スワップ 受取固定・支払変動 受取変動・支払固定	借入金	100		(注) 2
	合計				

(注) 1 時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

2 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金と一体として処理されているため、その時価は「(金融商品関係)」の当該借入金の時価に含めて記載しております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理 方法	通貨スワップ 為替予約 その他	外貨建の有価証券	21,783		2
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ 為替予約				
	合計				2

(注) 1 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超のもの (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理 方法	通貨スワップ 為替予約 その他	外貨建の有価証券 等	5,165 30,882	940	3 619
為替予約等の 振当処理	通貨スワップ 為替予約				
	合計				616

(注) 1 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2 時価の算定

割引現在価値等により算定しております。

(3) 株式関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(4) 債券関連取引

前連結会計年度(平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

該当ありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度及び退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

一部の連結子会社においても、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
退職給付債務	30,324	32,008
年金資産	24,655	29,370
未積立退職給付債務(+)	5,669	2,637
会計基準変更時差異の未処理額	1,978	1,319
未認識数理計算上の差異	8,344	5,206
未認識過去勤務債務	3,214	2,786
連結貸借対照表計上額純額(+ + +)	1,440	1,102
前払年金費用	5,955	5,613
退職給付引当金(-)	4,515	4,511

(注) 1 臨時に支払う割増退職金は含めておりません。

2 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

区分	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
勤務費用	1,076	996
利息費用	641	614
期待運用収益	542	564
過去勤務債務の費用処理額	356	427
数理計算上の差異の費用処理額	1,408	1,263
会計基準変更時差異の費用処理額	659	659
その他(臨時に支払った割増退職金等)		
退職給付費用(+ + + + +)	2,886	2,541

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、一括して「勤務費用」に含めて計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.7% ~ 2.1%	1.0% ~ 1.3%

(2) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
2.5%	2.5%

(3) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

11年～12年(その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法による)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

11年～12年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしている)

(6) 会計基準変更時差異の処理年数

15年

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業経費	62百万円	32百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

決議年月日	平成23年 2月24日	平成23年 7月28日
付与対象者の区分及び人数(名)	子会社取締役 22 子会社執行役員 19	子会社取締役 16 子会社執行役員 18
株式の種類別のストック・オプションの数(株) (注)	普通株式 84,780	普通株式 72,760
付与日	平成23年 3月15日	平成23年 8月31日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	平成23年 3月15日から退任日	平成23年 8月31日から退任日
権利行使期間	平成23年 3月16日から 平成53年 7月31日まで	平成23年 9月 1日から 平成53年 7月31日まで

決議年月日	平成24年 8月31日
付与対象者の区分及び人数(名)	子会社取締役 10 子会社執行役員 16
株式の種類別のストック・オプションの数(株) (注)	普通株式 69,500
付与日	平成24年10月 1日
権利確定条件	退任後10日内の権利行使
対象勤務期間	平成24年10月 1日から退任日
権利行使期間	平成24年10月 2日から 平成54年 7月31日まで

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、平成24年 8月 1日付株式併合(5株につき1株の割合)による併合後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成25年3月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

決議年月日	平成23年2月24日	平成23年7月28日	平成24年8月31日
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	70,900	72,760	
付与			69,500
失効			
権利確定	29,760	29,960	
未確定残	41,140	42,800	69,500
権利確定後(株)			
前連結会計年度末			
権利確定	29,760	29,960	
権利行使	29,760	29,960	
失効			
未行使残			

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、平成24年8月1日付株式併合(5株につき1株の割合)による併合後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

決議年月日	平成23年 2月24日	平成23年 7月28日	平成24年 8月31日
権利行使価格(円)	1	1	1
行使時平均株価(円)	535	535	
付与日における公正な評価単価(円)	490	535	449

(注) 平成24年 8月 1日付株式併合(5株につき1株の割合)による影響を勘案しております。

3 スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与されたStock・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

- (1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式
- (2) 主な基礎数値及び見積方法

決議年月日	平成24年 8月31日
株価変動性 (注) 1	33.00%
予想残存期間 (注) 2	1.9年
予想配当 (注) 3	3.1%
無リスク利率 (注) 4	0.098%

(注) 1 予想残存期間に対応する過去期間(平成22年10月7日から平成24年10月1日)の株価実績

2 在任者ごとに「退任者の在任期間平均」と「在任者の付与時の在任期間」の差を取り、0.75年未満の場合は次回株主総会までの期間を考慮し、0.75年として平均する方法により算定

3 直近年間配当額15円(株式併合による影響考慮後) / 算定基準日における株価479円

4 予想残存期間に近似する国債利回り

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	32,572百万円	35,348百万円
賞与引当金	664百万円	649百万円
退職給付引当金	3,127百万円	3,275百万円
有価証券評価損	12,516百万円	8,144百万円
繰越欠損金	19,285百万円	17,273百万円
減価償却費	574百万円	762百万円
その他有価証券評価差額金	4,743百万円	3,088百万円
その他	4,333百万円	3,693百万円
繰延税金資産小計	77,817百万円	72,236百万円
評価性引当額	43,986百万円	40,576百万円
繰延税金資産合計	33,831百万円	31,659百万円
繰延税金負債		
未収配当金益金不算入	394百万円	354百万円
その他有価証券評価差額金	569百万円	1,871百万円
その他	24百万円	23百万円
繰延税金負債合計	989百万円	2,249百万円
繰延税金資産の純額	32,842百万円	29,409百万円

2 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	37.9%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	%	0.8%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6%	0.5%
住民税均等割等	0.9%	0.7%
評価性引当額の減少	34.0%	14.5%
繰越欠損金控除期限超過	%	1.0%
繰越欠損金控除限度額制限	30.3%	%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	32.0%	%
連結納税による影響	8.9%	%
その他	1.3%	3.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	62.8%	21.0%

(企業結合等関係)

当社の連結子会社である株式会社池田泉州銀行は、平成25年3月25日、同行の融資部ソリューション支援室(現ソリューション部)が所管する顧客の債権管理、再生支援、回収業務その他関連業務に関する権利義務等を、池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社並びに池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社(両社とも当社の連結子会社)に承継させる会社分割(簡易吸収分割)を行っております。

(1) 結合当事企業の名称

(吸収分割会社)

株式会社池田泉州銀行(当社の連結子会社)

(吸収分割承継会社)

池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社

池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社

(2) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

貸出債権等の債権管理、再生支援、回収業務その他関連業務

(3) 企業結合の法的形式

同行を吸収分割会社、池田泉州ターンアラウンド・パートナーズ株式会社並びに池田泉州コーポレート・パートナーズ株式会社を吸収分割承継会社とする簡易吸収分割

(4) 取引の目的を含む取引の概要

地元の取引先への円滑な資金供給は勿論、経営改善支援や企業再生支援の実施等を通じてコンサルティング機能を発揮すること

(5) 実施した会計処理の概要

共通支配下の取引として次の会計処理を行っております。

イ 会社分割によって移転された資産及び負債の適正な帳簿価額

	池田泉州ターンアラウンド・ パートナーズ株式会社	池田泉州コーポレート・ パートナーズ株式会社
現金預け金	2,386百万円	3,135百万円
貸出金	15,342百万円	20,458百万円
その他	2百万円	1百万円
貸倒引当金	5,094百万円	9,376百万円
資産の部合計	12,637百万円	14,218百万円
借入金	4,000百万円	4,000百万円
その他	3百万円	7百万円
負債の部合計	4,003百万円	4,007百万円

ロ 会社分割の対価として取得した子会社株式の取得原価と割り当てを受けた株式数

	池田泉州ターンアラウンド・ パートナーズ株式会社	池田泉州コーポレート・ パートナーズ株式会社
取得原価	8,633百万円	10,210百万円
割り当てを受けた株式数	196,316株	202,900株

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

当社子会社の一部店舗又は事務所等における事業用定期借地権契約に係る資産除去債務並びに一部店舗におけるアスベスト等の有害物質に係る資産除去債務などであります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を、取得から主として37年と見積り、割引率は主として2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

八 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
期首残高	192百万円	165百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	17百万円	百万円
時の経過による調整額	3百万円	3百万円
資産除去債務の履行による減少額	43百万円	22百万円
その他増減(は減少)	3百万円	6百万円
期末残高	165百万円	140百万円

[前へ](#)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、報告セグメントが銀行業のみであり、当社グループの業績における「その他」の重要性が乏しいため、記載を省略しております。なお、「その他」にはリース業務等が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する 経常収益	58,450	29,881	27,620	115,952

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 サービスごとの情報

(単位：百万円)

	貸出業務	有価証券投資業務	その他	合計
外部顧客に対する 経常収益	54,701	27,321	29,535	111,558

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当社グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当社グループは、銀行業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

該当ありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当ありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当ありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当ありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当ありません。

(工) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親 者	佐々木節子 (注)			不動産賃貸 業			貸出取引		貸出金	67
							利息受入	1	その他資産 その他負債	0 0

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 貸出取引条件等については、一般の取引先と同様に決定しております。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当ありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当ありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

重要な関連会社はありません。

(1株当たり情報)

		前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	円	489.26	591.97
1株当たり当期純利益金額	円	7.43	35.80
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	7.43	35.77

(注) 1 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	163,311	185,389
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	48,298	45,619
(うち第一種優先株式払込金額)	20,000	10,000
(うち第一種優先株式配当額)	784	392
(うち第二種優先株式払込金額)	25,000	25,000
(うち第二種優先株式配当額)	1,275	1,275
(うち新株予約権)	62	63
(うち少数株主持分)	1,177	8,888
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	115,013	139,769
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	235,072	236,105

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額			
当期純利益	百万円	3,810	10,102
普通株主に帰属しない金額	百万円	2,059	1,667
うち定時株主総会決議による第一種優先株式配当額	百万円	784	392
うち定時株主総会決議による第二種優先株式配当額	百万円	1,275	1,275
普通株式に係る当期純利益	百万円	1,751	8,435
普通株式の期中平均株式数	千株	235,624	235,617
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額			
当期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	104	147
うち新株予約権	千株	104	147
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要			

3 当社は、平成24年8月1日に、普通株式、第一種優先株式及び第二種優先株式について、それぞれ5株を1株の割合で併合いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当ありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
株式会社 池田泉州銀行	第9回国内劣後 特約付無担保社債 (注1)	平成19年 12月28日	3,000		3.06	なし	
	第1回国内劣後 特約付無担保社債	平成22年 12月17日	15,000	15,000	1.67	なし	平成32年 12月17日
	第2回国内劣後 特約付無担保社債	平成23年 9月21日	10,000	10,000	2.01	なし	平成33年 9月21日
	第3回国内劣後 特約付無担保社債	平成23年 12月16日	5,000	5,000	2.06	なし	平成33年 12月16日
	第4回国内劣後 特約付無担保社債	平成24年 3月23日	20,000	20,000	2.23	なし	平成34年 3月23日
合計			53,000	50,000			

(注) 1 合併前の池田銀行が発行した社債であります。

2 連結決算日後5年以内における償還予定額はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率(%)	返済期限
借入金	69,764	71,909	1.11	
借入金	69,764	71,909	1.11	平成25年4月～ 平成34年10月
1年以内に返済予定のリース 債務	6	7	2.87	
リース債務(1年以内に返済予 定のものを除く。)	12	16	2.33	平成26年4月～ 平成29年5月

(注) 1 「平均利率」は、期末日現在の「利率」及び「当期末残高」により算出(加重平均)しております。

2 借入金及びリース債務の連結決算日後5年以内における返済額は次のとおりであります。

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
借入金	42,144	1,190	971	2,059	367
リース債務	7	6	5	3	0

銀行業は、預金の受入れ、コール・手形市場からの資金の調達・運用等を営業活動として行っているため、借入金等明細表については連結貸借対照表中「負債の部」の「借入金」及び「その他負債」中のリース債務の内訳を記載しております。

(参考) 営業活動として資金調達を行っている約束手形方式によるコマーシャル・ペーパーの発行は、該当ありません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、資産除去債務明細表の作成を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
経常収益(百万円)	27,008	54,713	80,495	111,558
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(百万円)	2,729	5,361	10,901	13,197
四半期(当期)純利益金額(百万円)	1,649	3,892	9,294	10,102
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	7.01	16.53	39.46	35.80

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	7.01	9.51	22.91	3.64
(は1株当たり四半期純損失金額(円))				

(注) 当社は、平成24年8月1日に、普通株式、第一種優先株式及び第二種優先株式について、それぞれ、5株を1株の割合で併合いたしました。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2 5,278	2 5,265
繰延税金資産	13	10
未収入金	-	2 522
未収還付法人税等	1,449	2,197
その他	15	13
流動資産合計	6,756	8,009
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品（純額）	23	12
有形固定資産合計	1 23	1 12
無形固定資産		
ソフトウェア	28	16
商標権	7	6
無形固定資産合計	35	23
投資その他の資産		
関係会社株式	182,793	182,793
繰延税金資産	0	0
投資その他の資産合計	182,793	182,793
固定資産合計	182,853	182,829
繰延資産		
創立費	87	52
繰延資産合計	87	52
資産合計	189,697	190,891
負債の部		
流動負債		
未払費用	29	55
未払法人税等	15	31
未払消費税等	6	1
未払金	-	2 1,465
短期借入金	-	2 10,000
賞与引当金	14	12
その他	112	117
流動負債合計	178	11,682
固定負債		
長期借入金	1,857	1,331
その他	11	8
固定負債合計	1,869	1,339
負債合計	2,048	13,022

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	72,311	72,311
資本剰余金		
資本準備金	34,811	34,811
その他資本剰余金	76,013	65,574
資本剰余金合計	110,825	100,385
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	6,394	6,458
利益剰余金合計	6,394	6,458
自己株式	1,944	1,350
株主資本合計	187,586	177,805
新株予約権	62	63
純資産合計	187,648	177,869
負債純資産合計	189,697	190,891

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
営業収益		
関係会社受取配当金	1 6,294	1 5,644
経営管理料	1 912	1 790
営業収益合計	7,206	6,434
営業費用		
販売費及び一般管理費	2 808	2 738
営業費用合計	808	738
営業利益	6,397	5,695
営業外収益		
受取利息	3	1
雑収入	3	19
営業外収益合計	7	21
営業外費用		
支払利息	13	17
自己株式取得費用	16	-
創立費償却	35	35
雑損失	-	0
営業外費用合計	64	52
経常利益	6,340	5,664
税引前当期純利益	6,340	5,664
法人税、住民税及び事業税	4	12
法人税等調整額	0	2
法人税等合計	5	14
当期純利益	6,334	5,649

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	72,311	72,311
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	72,311	72,311
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	34,811	34,811
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	34,811	34,811
その他資本剰余金		
当期首残高	86,401	76,013
当期変動額		
自己株式の処分	1	73
自己株式の消却	10,389	10,366
当期変動額合計	10,388	10,439
当期末残高	76,013	65,574
資本剰余金合計		
当期首残高	121,213	110,825
当期変動額		
自己株式の処分	1	73
自己株式の消却	10,389	10,366
当期変動額合計	10,388	10,439
当期末残高	110,825	100,385
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	6,084	6,394
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
当期純利益	6,334	5,649
当期変動額合計	309	64
当期末残高	6,394	6,458
利益剰余金合計		
当期首残高	6,084	6,394
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
当期純利益	6,334	5,649
当期変動額合計	309	64
当期末残高	6,394	6,458

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	116	1,944
当期変動額		
自己株式の取得	12,488	10,369
自己株式の処分	270	596
自己株式の消却	10,389	10,366
当期変動額合計	1,828	593
当期末残高	1,944	1,350
株主資本合計		
当期首残高	199,493	187,586
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
当期純利益	6,334	5,649
自己株式の取得	12,488	10,369
自己株式の処分	272	523
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	11,907	9,781
当期末残高	187,586	177,805
新株予約権		
当期首残高	6	62
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	55	1
当期変動額合計	55	1
当期末残高	62	63
純資産合計		
当期首残高	199,500	187,648
当期変動額		
剰余金の配当	6,024	5,585
当期純利益	6,334	5,649
自己株式の取得	12,488	10,369
自己株式の処分	272	523
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	55	1
当期変動額合計	11,851	9,779
当期末残高	187,648	177,869

注記事項

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、子会社株式については移動平均法による原価法により行っております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

有形固定資産は、定額法を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

工具、器具及び備品 4年～10年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、商標権については10年、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

3 賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

4 繰延資産の処理方法

創立費は、5年間で均等償却を行っております。

5 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税(以下、消費税等という。)の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
減価償却累計額	25百万円	34百万円

2 各科目に含まれている関係会社に対する資産及び負債は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
預金	5,243百万円	5,233百万円
未収入金	百万円	522百万円
短期借入金	百万円	10,000百万円
未払金	百万円	1,465百万円

(損益計算書関係)

- 1 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
関係会社受取配当金	6,294百万円	5,644百万円
経営管理料	912百万円	790百万円

- 2 販売費及び一般管理費で主なものは、次のとおりであります。なお、全額が一般管理費に属するものであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
給料・手当	486百万円	360百万円
土地建物賃借料	46百万円	38百万円
租税公課	25百万円	26百万円
通信費	25百万円	28百万円
減価償却費	20百万円	20百万円
その他	193百万円	255百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
自己株式					
普通株式	1,008	18,274	2,353	16,929	注1、2
第一種優先株式		37,000	37,000		注3、4
合計	1,008	55,274	39,353	16,929	

(注) 1 普通株式の自己株式の増加18,274千株は、単元未満株式の買取による取得1千株及び池田泉州銀行従業員持株会専用信託の取得18,273千株によるものであります。

2 普通株式の自己株式の減少2,353千株は、単元未満株式の買増請求による処分0千株、ストック・オプションの権利行使による譲渡69千株及び池田泉州銀行従業員持株会専用信託から池田泉州銀行従業員持株会への譲渡2,283千株によるものであります。

3 第一種優先株式の自己株式の増加37,000千株は、株主総会決議に基づく自己株式の取得であります。

4 第一種優先株式の自己株式の減少37,000千株は、取締役会決議に基づく自己株式の消却であります。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：千株)

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数	摘要
自己株式					
普通株式	16,929	6	14,583	2,352	注1、2
第一種優先株式		7,400	7,400		注3、4
合計	16,929	7,406	21,983	2,352	

(注) 1 普通株式の自己株式の増加6千株は、単元未満株式の買取による取得(株式併合前：0千株、株式併合後：5千株)によるものであります。

2 普通株式の自己株式の減少14,583千株は、株式併合による減少11,630千株、単元未満株式の買増請求による処分0千株(株式併合前：0千株、株式併合後：0千株)、ストック・オプションの権利行使による譲渡298千株(株式併合前：298千株)及び池田泉州銀行従業員持株会専用信託から池田泉州銀行従業員持株会への譲渡2,653千株(株式併合前：2,093千株、株式併合後：560千株)によるものであります。

3 第一種優先株式の自己株式の増加7,400千株は、株主総会決議に基づく自己株式の取得であります。

4 第一種優先株式の自己株式の減少7,400千株は、取締役会決議に基づく自己株式の消却であります。

(リース取引関係)

該当ありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

	(百万円)	
	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
子会社株式	182,793	182,793
関連会社株式		
合計	182,793	182,793

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	5百万円	4百万円
未払事業税	4百万円	4百万円
新株予約権	22百万円	22百万円
その他	8百万円	0百万円
繰延税金資産小計	40百万円	33百万円
評価性引当額	27百万円	22百万円
繰延税金資産合計	13百万円	10百万円
繰延税金資産の純額	13百万円	10百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率	40.6%	37.9%
(調整)		
受取配当等永久に益金に算入されない項目	40.3%	37.8%
評価性引当額の減少	0.4%	0.1%
連結納税による影響	0.1%	%
その他	0.1%	0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.1%	0.1%

(企業結合等関係)

該当ありません。

(資産除去債務関係)

該当ありません。

(1株当たり情報)

		前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	円	597.80	597.77
1株当たり当期純利益金額	円	18.14	16.90
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	円	18.13	16.89

(注) 1 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	187,648	177,869
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	47,121	36,730
(うち第一種優先株式払込金額)	20,000	10,000
(うち第一種優先株式配当額)	784	392
(うち第二種優先株式払込金額)	25,000	25,000
(うち第二種優先株式配当額)	1,275	1,275
(うち新株予約権)	62	63
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	140,527	141,138
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	235,072	236,105

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額			
当期純利益	百万円	6,334	5,649
普通株主に帰属しない金額	百万円	2,059	1,667
うち定時株主総会決議による第一種優先株式配当額	百万円	784	392
うち定時株主総会決議による第二種優先株式配当額	百万円	1,275	1,275
普通株式に係る当期純利益	百万円	4,275	3,982
普通株式の期中平均株式数	千株	235,624	235,617
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額			
当期純利益調整額	百万円	-	-
普通株式増加数	千株	104	147
うち新株予約権	千株	104	147
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要			

3 当社は、平成24年8月1日に、普通株式、第一種優先株式及び第二種優先株式について、それぞれ5株を1株の割合で併合いたしました。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当ありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当ありません。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
工具、器具及び備品				47	34	10	12
有形固定資産計				47	34	10	12
無形固定資産							
ソフトウェア				40	23	9	16
商標権				9	3	0	6
無形固定資産計				49	26	10	23
繰延資産							
創立費	175			175	122	35	52
繰延資産計	175			175	122	35	52

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため、「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
賞与引当金	14	12	14		12

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(平成25年3月31日現在)の主な資産及び負債の内容は、次のとおりであります。

流動資産

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	
預金	
普通預金	5,265
計	5,265
合計	5,265

固定資産

関係会社株式

区分	金額(百万円)
株式会社池田泉州銀行	182,793
計	182,793

短期借入金

区分	金額(百万円)
株式会社池田泉州銀行	10,000

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
株式の名義書換え (注2)	優先株式
取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
名義書換手数料	無料
単元未満株式の買取り・ 買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	下記の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを買取ったまたは買増しをした 単元未満株式の数で按分した額。 (算式) 1株当たりの買取価格または買増価格に1単元の株式数を乗じた合計金額のうち 100万円以下の金額につき 1.150% 100万円を超え500万円以下の金額につき 0.900% (円未満の端数を生じた場合は切り捨てる。) ただし、1単元当たりの算定額が2,500円に満たない場合には2,500円とする。
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができな い場合は、産業経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.senshuikeda-hd.co.jp/
株主に対する特典	(注3)

(注) 1 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
会社法第189条第2項各号に掲げる権利

取得請求権付株式の取得を請求する権利

募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

2 普通株式は振替株式であるため「株式の名義書換え」は記載しておりません。

3 平成25年3月31日現在の株主名簿において、200株以上保有する株主に対する優待を以下のとおり実施いたします。

保有株数	優待商品
6,000株以上 (3)	3,000円相当の地域特産品等、または株主優待定期預金(1)のいずれかをお選びいただきます。 なお、6,000株以上を継続して3年以上保有(2)されている株主は、5,000円相当の地域特産品等、または株主優待定期預金(1)のいずれかをお選びいただきます。
2,000株以上 6,000株未満 (3)	2,000円相当の地域特産品等、または株主優待定期預金(1)のいずれかをお選びいただきます。 なお、2,000株以上6,000株未満を継続して3年以上保有(2)されている株主は、3,000円相当の地域特産品等、または株主優待定期預金(1)のいずれかをお選びいただきます。
200株以上 2,000株未満 (3)	株主優待定期預金(1)

1 株主優待定期預金の概要

お取扱店舗	池田泉州銀行の全店舗窓口及びダイレクト支店、インターネット支店
定期預金の種類	スーパー定期・スーパー定期300
お預入期間	1年
お預入金額	10万円以上500万円以下(新規預入に限定)
適用金利	スーパー定期店頭表示金利+0.3%(初回満期時まで適用) (預入金額300万円以上の場合は、スーパー定期300の店頭金利+0.3%)

2 継続して3年以上保有とは、平成22年3月31日以降、毎年3月31日及び9月30日の当社の株主名簿に同一株主番号で連続して7回以上記載または記録されていることを指します。

3 平成24年3月31日以前の保有株数については、平成24年8月1日に実施した株式併合前の保有株数で以下のとおり読み替えて判定いたします。

保有株数(読替前)	平成24年3月31日以前(読替後)
6,000株以上	30,000株以上
2,000株以上 6,000株未満	10,000株以上 30,000株未満
200株以上 2,000株未満	1,000株以上 10,000株未満

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|-----|--|---------------|-----------------------------|-------------------------|
| (1) | 有価証券報告書及び
その添付書類並びに確認書 | 事業年度
(第3期) | 自 平成23年4月1日
至 平成24年3月31日 | 平成24年6月29日
関東財務局長に提出 |
| (2) | 内部統制報告書
及びその添付書類 | | | 平成24年6月29日
関東財務局長に提出 |
| (3) | 四半期報告書
及び確認書 | 第4期 | 自 平成24年4月1日 | 平成24年8月1日 |
| | | 第1四半期 | 至 平成24年6月30日 | 関東財務局長に提出 |
| | | 第4期 | 自 平成24年7月1日 | 平成24年11月22日 |
| | | 第2四半期 | 至 平成24年9月30日 | 関東財務局長に提出 |
| | | 第4期 | 自 平成24年10月1日 | 平成25年2月8日 |
| | | 第3四半期 | 至 平成24年12月31日 | 関東財務局長に提出 |
| (4) | 臨時報告書 | | | |
| | 金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府
令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に
基づく臨時報告書であります。 | | | 平成24年7月4日
関東財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月24日

株式会社 池田泉州ホールディングス
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 荒井 憲一郎 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 鶴森 寿士 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 伊加井 真弓 印
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社池田泉州ホールディングスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社池田泉州ホールディングス及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社池田泉州ホールディングスの平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社池田泉州ホールディングスが平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 6月24日

株式会社 池田泉州ホールディングス
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 荒井 憲一郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鶴森 寿士 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊加井 真弓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社池田泉州ホールディングスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第4期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社池田泉州ホールディングスの平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。